

被告 岩瀬 利右衛門

右當事者間ノ實地受戻並ニ抵當登記請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十年三月三十日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被告上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

立會檢事藤堂融ハ意見ヲ陳述シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔スヘシ

理由

上告第一點ハ本按地所ハ不動産質ニシテ實地其モノハ被告上告人ニ於テ之ヲ占有シ其稟實ヲ收益シ即チ小作米ヲ取得シアルモノナリ而シテ其質代金ノ利子ナルモノハ唯其小作米ヲ上告人ニ於テ取得セント欲スルトキ初メテ支拂フヘキモノニシテ之ヲ換言セハ稟實ノ交換方法ニ外ナラス被告上告人ハ常ニ小作米ト利子トヲ併セ取得セルノ權利ナシ然ルニ原院ハ如此常ニ小作米ヲ取得シツ、アル被告上告人ニ向テ利子ト牽連シテ原因結果ノ關係ヲ有スル小作米取得ノ有無如何ノ事實ヲ脱漏シ只々強テ利子ノミノ事實ヲ認メントシ公正證書第三號第一條末文第二號公正證書ノ利子ヲ質置主ヨリ質取主ニ拂フ場合モ亦々明治二十六年七月一日ヨリトストアル文意ヲ一意ニ質代金ハ小作米ノ取得如何ニ關セス常ニ利息ヲ生スル債務ナリト認メタリ而

シテ其文意申揚合ナル文字ヲ認メナカラ之ヲ顧ミス夫レ場合ナル文字ハ同三號公正證書第二條ニ依リ小作米ヲ上告人ニ於テ取得セント欲スルトキハ初メテ第二號公正證書タル質代金ノ利息ヲ支拂フヘキ場合ヲ七月一日ナリト指示シタルモノナリ利息モ支拂ヒ尙ホ此上ニモ小作米ヲ被告上告人ニ於テ取得スルノ權利ヲ有スル場合アルコトナシ若シ原院ノ認メタルカ如何果シテ單ニ利息ヲ取得スヘキ債務ナリトセハ其利息ト牽連ニ且ツ爭點ニ屬シ居ル小作米ヲ併取スルノ權アルヤ否ヤヲ判示セサルヘカラス之レ原院カ事實ヲ脱漏シタルニヨリ果シテ小作米ト利子トヲ併取スルノ權アルヲ將タ小作米ヲ取得シツ、アル場合ニハ利子ヲ取得スルコトヲ得サルヤ否ヤヲ知ルニ由ナキ失當ノ裁判ナリトス今又假リニ原院ノ認定ノ如ク小作米如何ニ關セス常ニ利子ノミ生スル債務ナリトセン乎本按ハ實地ニアラスシテ抵當ナリト認メタルカ如キ奇觀ヲ呈スルニ至ラン而シテ之ヲ抵當ナリトセン乎原因ヲ變更シテ覆審ヲ爲シタルモノト云ハサルヘカラス是原院ハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シ併テ事實ヲ脱漏スルニ至リタルモノナリトスト云フニ在ルモ○被告上告人カ小作米ト利子トヲ併セテ取得スル權利アリヤ否ヤ將タ小作米ヲ取得スル場合ニハ利子ヲ取得スルコトヲ得サルヤ否ヤノ事ハ原院ニ於テ上告人ト被告上告人トノ間ニ之ヲ爭ヒタル痕跡タモアラサルカ故ニ原院カ此點ニ對シ判斷テ下タスヘキ筋合ナキヲ以テ事實ヲ遺脱シタリトノ上告論旨ハ其理由ナシ又原判決中本案ハ實地ニアラスシテ抵當ナリト認定シタルコトヲ微知スヘキ文詞之レ無ケレハ原判決ハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シタリトノ論旨モ亦其理由ナシトス



其第二點ハ本按請求ニ關スル攻撃防禦ノ方法カ初ヨリ制限ナク進行シ來タルモノナルコトハ  
 調査ニ依リ明ナリ夫レ裁判所ハ數箇ノ攻撃防禦ノ方法ヲ提出シタル場合ニ於テ其辯論開始ノ  
 際ニ在リテハ固ヨリ之ヲ一二ニ制限シ辯論ヲ開始スルコトヲ得ヘシト雖モ已ニ制限ナク辯論ヲ  
 開始シ進行シ來リタル攻撃防禦ノ方法ニシテ當事者互ニ辯論ヲ爲シ證據ヲ舉ケ既ニ一箇ノ等  
 點ニ屬シ居ルモノヲ審理ノ央若クハ審理ノ判決ニ熟シ若クハ熟セントスルニ該リ之ヲ制限シ  
 其爭點ニ對スル判決ヲ逃カルルヲ得ス即チ本案ノ爭點タル金圓ヲ持參シ質地受戻ヲ求メタル  
 ナ否ヤノ事實是レナリ而シテ此爭點ハ既ニ當事者カ辯論ヲ爲シ上告人ハ證人迄申請シ原院ハ  
 證據決定ヲ爲スト云フテ一時辯論ヲ閉チナカラ突然ニ辯論ヲ證書ノ解釋ニノミ制限シ此點ノ  
 ミノ判決ヲ爲シ先ノ金員持參云々ニ對スル爭點ノ判決ヲ爲サス此點ニ關シ上告人ノ申請シタ  
 ル證人ハ之ヲ留保シタルハ頗ル法則ノ適用ヲ誤リタルモノナリ夫レ被告ヨリ提出スル防禦方  
 法ヲ却下スルトキハ之ヲ留保シテ判決ヲ爲シ得ヘキコトハ民事訴訟法第四百二十六條ノ認  
 ル所ナリト雖モ原告即チ上告人ヨリ提出シタル攻撃方法ハ更ニ制限ナキチ原則トスルヲ以テ  
 審理ノ判決ニ熟シ若クハ熟セントスルニ該リ之ヲ留保シ其爭點ヲ制限シ判決ヲ爲シ得ヘキモ  
 ノニアラス然ルニ原院ハ如何ナル法條ニ基キ其申請シタル證人ハ之ヲ留保シ其爭點ニ對スル  
 判決ヲ爲サルヤ而シテ此爭點ハ既ニ其程度判決ヲ爲スニ迄至リタルモノナレハ民事訴訟法  
 第二百三十條ニ所謂判決ヲ爲スヘキ義務アル爭點ニ屬セリ夫レ辯論事項ハ三面的ノ關係ヲ生  
 スルモノトス即チ原告ヨリ被告ニ對スルト被告ヨリ原告ニ對スルト判官ヨリ兩造ニ對スルト

判官第二點

是レナリ而シテ此三面的ノ關係ヲ生シタル事項ニ對シテハ裁判所ハ判決權ヲ以テスルノ外其  
 關係ヲ離脱スルコトヲ得サルナリ然ルニ原院ハ前陳ノ如ク證人ノ申請ヲ留保シ既ニ判決ニ熟シ  
 タル爭點事項ニ對シ私擅ニ關係ヲ離脱シ判決ヲ爲サルハ民事訴訟法第二百三十條ニ違背シ  
 併セテ同第四百二十六條ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云フニ在ルモ〇本件ニ於ケル起訴者  
 即チ上告人ノ攻撃方法ハ質地受戻期限ノ到來ニ因リ質代金ヲ持參シテ受戻ヲ求メタルニ其需  
 メニ應セサルハ不法ナリトノ事ニシテ被上告人ノ防禦方法ハ第一起訴ノ初メ質代金全部ヲ以  
 テ請求セス受戻期限後之ヲ更正シタルハ不當ナリ第二質代金ヲ提供セシテ受戻ヲ求メタル  
 ハ契約違反ナリ第三上告人ノ義務ニ屬スル小作米代金ト利息并ヒ租稅其他ノ諸立替金トノ  
 差引計算ヲ爲サス且ツ其計算不足金ヲ差置キ獨リ質代金ノミヲ返還シテ質地ヲ受戻サント  
 スルモ亦契約違反ナリ第四質代金ト共ニ辨濟スヘキ他ノ代價金アルコトヲ認メ居リナカラ質  
 代金ノミヲ以テ受戻ノ請求ヲ爲スハ不當ナリト此四箇ナリトス而シテ此四箇ハ孰レモ相互ニ  
 相對的無關係ナル法律上ハ判斷ヲ爲サシムルハハニシテ換言スレハ他ノモノニ關係ナク互ニ  
 單獨ニテ法律上當否ハ判斷ヲ爲サシムヘキモノナルニ因リ之ヲ前ニ述ヘタル上告人ノ攻撃方  
 法ト併セテ云フトキハ民事訴訟法ニ所謂數箇ノ獨立ナル攻撃又ハ防禦ノ方法ト稱スル所ハモ  
 ハナリトス然レトモ是等ノ方法タル準備書面ニ記載アルハハニテハ果シテ殘ラズ辯論ニ提出  
 スルヤ否確實ナラサルニ付キ上告人所論ノ如ク豫メ之ヲ一二ニ制限シ而シテ後辯論ヲ開始ス  
 ルコトヲ得ヘシト云フニ至テハ却テ不法ヲ免レサルモ辯論中ハ訴訟ノ如何ナル程度ニアルチ



間ハス民事訴訟法第十九條ハ規定ニ從ヒ裁判所ノ隨意ヲ以テ何時ニテモ之ヲ制限シ得ヘク又辯論ノ終結後ハ同法第二百三十條第二項ノ規定ニ依リ其間適切ナリト思料スル一箇ニ對シテハハミ判斷ヲ與ヘ他ハモハニ判斷ヲ與ヘサルコトヲ得ヘシ故ニ審理中若クハ審理ノ判決ニ熱心トスルニ當リ之ヲ制限シ其爭點ニ對スル判斷ヲ逃ルヲ得ス云々又裁判所ハ判決權ヲ以テスルノ外其關係ヲ脱スルヲ得ス云々ノ上告論旨ハ總テ其理由ナシ加之爭點ノ順序ヲ論スレハ比較的先決問題ハ第三ノ防禦方法即チ公正證書中約款ノ解釋論ニアリテ實地受戻ノ申込ミニ際シ實代金ヲ提供シタルヤ否ヤノ如キハ其約款ノ解釋カ上告人抗辯ノ通り利息ノ計算ニ拘ハラス實代金ノミヲ持參シテ實地ヲ受戻シ得ヘキ旨趣ナリト判定セラレタルトキ換言スレハ第三ノ防禦方法カ排斥セラレタルトキニ審理スヘキ第二次ノ問題タルニ過キス故ニ原院カ其辯論ヲ約款ノ解釋論ニ制限シタルハ相當ニシテ且ツ之ニ對シ判斷ヲ與ヘ其結果上告人ノ抗辯ニ反シ被上告人主張ノ通り計算ヲ爲スノ責務上告人ニアリト判定セラレ實代金ノ提供ノミニテハ實地ノ受戻權發生セサルコトニ歸着シタル以上右實代金提供有無ノ爭論ハ原判決上自ラ不必要ニ屬シタルニ付キ原院カ此事實ノ證明ニ關スル證人ノ申請ヲ留保シ儘之ヲ顧ミサリシトテ原判決ハ上告人所論ノ如キ不法ニ陷ル理合ナシトス

其第三點ハ第一審ニ本按ノ繼續中共同原告人香取昭平カ死亡シタルニヨリ他ノ共同原告人即チ上告人修平ニ於テ訴訟ヲ承繼シ爾來總テ其資格ヲ表示シ訴訟ヲ爲シ來リタルモノナリ然ルニ原院ハ之ヲ脱却シ全ク修平一人ト被上告人トノ訴訟關係ノ如クナスニ至レリ其レ起訴以前

ニ於ケル實質上ノ承繼ハ敢テ之ヲ表示シ起訴スルノ要ヲ視サルヘシト雖トモ既ニ兩名共同ノ訴訟關係ヲ生シ來リ其審理中死亡シタルニ於テハ第三者カ訴訟ヲ承繼スルト共同訴訟人ノ一人之レヲ承繼スルトト問ハス其資格ヲ表示セサルヘカラス何トナレハ最初上告人ノ請求以外ニ屬スル目的物ハ其如何ナル理由ニヨリ上告人一人ニ請求ノ權アルニ至リタルヤ及ヒ何故ニ其請求以外ニ屬スル其訴訟ノ判決全部ノ効力上告人一人ニ及フヤチ知ルニ山ナキノミナラス訴訟費用ノ如キモ如何ナル理由ニヨリ如此多額ノ部分カ上告人一人ニ負擔セラレタルニ至ルヘキヤチ知ルニ由ナケレハナリ是レ事實ノ脱漏ヨリ生スル結果ニ外ナラサルナリト云フニ在ルモ〇昭平ノ死亡後修平ニ於テ之ヲ承繼シ乃チ原告タルノ分限モ修平一人ニ併合セラレタル以上ハ爾後修平一人ノ名ヲ以テ訴訟ヲ續行シ得ヘキ筋合ナルニ付キ原判決上修平ノ肩書ニ兼昭平ノ承繼人タルコトヲ表示スル必要ナシ故ニ原判決ハ亦上告所論ノ如キ不法ナシトス

其第四點ハ本按利子額ノ確定セサルコトハ原院ノ明認スル如シト雖モ其之ヲ計算確定スヘキノ責務上告人ニアリト云フニ至リテハ法則ノ適用ヲ誤リタルモノナリ夫レ何人ト雖モ法律行為ニ基クノ外責務ナキチ一般普通ノ狀態ナリトス本按利子ノ如キモ當事者ニ於テ互ニ之ヲ確定スヘキ權利ヲ有スヘキハ勿論ナリト雖モ上告人ニ於テ對手方ニ對シ之ヲ計算確定スヘキ責務ヲ負擔シ居ルト云フニ至リテハ失當モ又甚シキモノトス今原院ハ三號公正證書第四條毎年十二月十五日ヲ期シ實置主ハ實取主ノ住所ニ出頭シ云々前二條ノ計算勘定ヲ爲シ利子稅租額ヲ引去リ云々トアルニヨリ利子計算確定ノ責務上告人ニアリト認メタルモノ、如シト雖モ此



文書ニハ卷ヨ種子ノ額ヲ定ムル貴務ヲ表示シタル文字ナシ而シテ住所ニ出頭シ云々トアルハ  
 個々只々當事者雙方互ニ立會計算ヲ約シタルニ外ナラス而シテ其立會計算ヲ約シタルニ過キ  
 サル事實ハ原院モ認メ居レリ然ルニ原院ハ何故カ契約ノ文言以外ニ馳セ架空ノ事實ヲ濫キ利  
 子確定ノ貴務尙ホ上告人ニアリト布演スルニ至リタルハ全ク法則ヲ不當ニ適用シタルモノナ  
 リト云フニ在ルモ○本論ハ畢竟證書ノ解釋ニ付キ原院ト其意見ヲ異ニスルニ外ナラス而シテ  
 證書ノ解釋ハ事實承審官ノ職權ニ屬スル事柄ナレハ採リテ以テ上告ノ理由トスルニ足ラス上  
 文辯明ノ如ク本件上告ハ一モ其理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百五十二條ニ依リ之ヲ棄却ス  
 必所以ナリ

○假處分異議ノ件

明治三十年第三百三十六號  
 明治三十一年二月二十三日第二民事部判決

○判決要旨

一 假處分決定ニ對スル異議ノ申立ニハ當事者ノ表示ヲ要件トセス唯何人ノ申請  
 ニ因ル假處分ノ決定ニ對シ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示スレハ足レリ

(判旨第二點)

第一審 水戸地方裁判所

第二審 東京控訴院

上告人 住谷郡藏

訴訟代理人 鈴木充美

被上告人 石川徳三郎

右當事者間ノ假處分異議事件ニ付東京控訴院カ明治三十年六月十九日言渡シタル判決ニ對シ  
 上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判 決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

上告論旨第一點ハ原判決ハ裁判ニ理由ヲ附セサル不當ノ裁判ナリ原判決ノ説明ニ依ルキハ控  
 訴人ハ本件ノ被告ナル故勝訴ノ場合ニ於テモ右等ノ困難ヲ生スルノ恐ナシトアリテ第一審ノ  
 被告ナルモノハ絶對ニ假處分ヲ爲スノ權能ナキモノ、如ク判決セラレシモ右ハ未タ以テ判決  
 ノ理由ト爲スヲ得ス如何トナレハ假令被告ノ地位ニアルモノト雖モ必スシモ假處分ヲ以テ判  
 決ノ執行ヲ保全スヘキ場合ナキニアラサレハナリ之ヲ要スルニ原判決ハ理由ヲ附セサル不當  
 チ免カレサルモノナリト云フニ在リ○依テ之ヲ按スルニ凡ソ假處分ハ當事者一方ノ權利實行  
 ノ不能若クハ困難ヲ生スル恐アルコト又ハ權利關係ニ付損害ヲ避ケ若クハ強暴ヲ防ク爲メ等  
 ノ理由ニ因ルコトヲ必要條件トス故ニ原判決ノ理由中ニ控訴人ハ本件ノ被告ナル故勝訴ノ場

假處分決定ニ對スル異議申立



合ニ於テモ何等ノ困難ヲ生スルノ恐ナシトノ説明アレトモ其後段ニ至リ被控訴人ニ於テ係争地ヲ他ニ賣却セントスルノ事實等モ視ルヘキ證左ナキヲ以テ當然假處分ヲ許スヘキモノニアラスト判定シ即チ假處分ノ必要條件タル事實ノ存セサルモノト認メ假處分ヲ許スヘキモノニアラストシ上告人ノ訴求ヲ排斥シタルモノナレハ前段説明ノ如キハ必要ナラサル事項ニシテ結局原判決ハ相當ナル理由ヲ付シタル筋合ナルヲ以テ上告其理由ナシ

其第二點ハ本案假處分ノ決定ニ對スル被上告人ノ異議ノ申立ニハ茨城縣那珂郡柳河村長被申立人住谷郡藏トアリテ行政吏員タル村長ヲ相手取リタルモノナルカ青柳區ヲ代表セル村長ヲ相手取リタルモノナルカ該記録ノミニテハ漠然トシテ其要ヲ知ルニ由ナシ是則チ民事訴訟法第五條第一號ニ抵觸セルモノニシテ當然訴ヲ却下セルラヘキモノナリト云ヒ其第三點ハ假リニ被上告人ニ於テ被上告人ノ所有ナリト自稱スル茨城縣那珂郡五臺村大字中臺字茶屋七百六十一番沼池三反三畝九歩ニ上告人同縣那珂郡柳河村青柳區ノ所有ニ係ル字池上三千六百五十七番地溜池ノ悪水ヲ浸入セシム可ラストノ訴訟ニ付上告人茨城縣那珂郡柳河村青柳區カ爲シタル假處分ノ取消ヲ求ムルモノトセンカ少クモ其法人タル柳河村青柳區ヲ相手取ラサル可カラサルニ本案訴訟記録ニ於ケル相手方ハ茨城縣那珂郡柳河村長住谷郡藏ニシテ青柳區ヲ代表セシ法律上代理人タル柳河村長ニアラス然ルニ青柳區ヲ代表セサル上告人柳河村長ハ青柳區ノ權利關係ニ對シ論争スルノ資格ナキコトヲ知リツト本案訴訟提起シタルモノナレハ是亦訴訟却下ノ判決ヲ爲サトル可カラサルニ進テ本案ノ當否ニ對シ判決ヲ與ヘタルハ不合法ヲ免カ

判旨第二點

レスト云フニアレトモ○一件記録ニ據レハ抑本件ハ上告人ハ申請ニ因リ發シタル假處分ノ決定ニ對シ被上告人ハ民事訴訟法第七百五十六條及ヒ第七百四十四條ノ規定ニ依リ異議ヲ申立ヲ爲シタルニ過キスシテ固ヨリ訴ヲ提起シタルモノハ非ス故ニ其申立ニハ敢テ訴狀ハ如ク當事者ハ表示ヲ掲グルヲ要件トセス唯何人ノ申請ニ因ル假處分ノ決定ニ對シ異議ヲ申立ツルヤ及ヒ其假處分ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルヤ及ヒ其假處分ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示スルヲ以テ足レリトス而シテ被上告人ノ異議ノ申立ニハ假處分ノ申請人タリシ上告人ヲ掲ケ隨テ其假處分ノ取消ヲ申立ツル理由ヲ開示シタルモノナレハ該申立ハ民事訴訟法ニ違背シタルモノナラス即チ同法第七百四十四條ノ規定ニ則トリタルモノナリ是ヲ以テ第一審裁判所ニ於テモ同法第七百四十五條ノ規定ニ依リ當事者雙方ヲ呼出シ口頭辯論ヲ爲サシメタルモノニ係リ當時上告人モ異議ナク辯論ヲ爲シ結局判決ヲ受ケタル程ノ次第ナレハ原判決ニ於テモ被上告人ノ申立ヲ却下スヘキ謂レナキヲ以テ進テ假處分ノ當否ニ付キ裁判ヲ爲シタルハ相當ニシテ上告人所論ノ如キ不合法ナル點ナシ

其第四點ハ又假リニ被上告人ノ訴訟ヲ適法ノモノトスルモ原判決ハ主要ノ争點ニ對シ判決ヲ與ヘサル不合法アルモノトス何トナレハ本案ニ對スル第一審判決ハ悪水侵害排斥事件ニ付キ上告人ニ敗訴ヲ言渡シタル上ハ假處分ヲ維持スルノ理由既ニ消滅シタルニ付キ別ニ説明ヲ與フルノ要ナシト云フニ過キスシテ上告人カ控訴ノ理由ハ本案ノ確定前ニ在テハ本案ノ訴訟ト運命ヲ共ニスヘキモノニアラス則チ別個ノ理由ニ依リ其當否ヲ論セサル可ラサルニ事茲ニ出テ



サルハ不當ナリト云フニ在レハ此點ニ對シ相當ノ判決ヲ與ヘサル可ラス然ルニ第二審裁判所  
 ハ他ノ論點ニ付キ判決ヲ爲シテ此論點ヲ顧ミサレハナリト云フニアレトモ●第一點ノ論旨ニ  
 對シ説明スル如ク原裁判所ハ本件假處分ハ其根本的之ヲ許スヘキ必要條件ノ存セサル事實ヲ  
 認定シ以テ上告人ノ訴求ヲ排斥シタルモノナレハ本論旨ノ如キ事項ニ對シテハ更ニ説明ヲ要  
 セサルモノトス故ニ此上告論旨モ亦其理由ナシ  
 上來説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規  
 定ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

○證據金及口錢取戻請求ノ件

明治三十年第二百六十七號  
明治三十一年二月二十四日第一民事部判決

○判決要旨

一 當事者カ唯一ノ證據決定ノ申請ヲ爲シタルニ拘ハラヌ判決ニ必要ナシトシテ  
 之ヲ斥ケ立證ナシトノコトヲ以テ其請求ノ理由ナシト判斷シタル裁判ハ不法  
 ナリ(判旨第二點) 第二輯第十卷所載明治二十九年第四百六十七號判決參看

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 村井圓次郎 訴訟代理人 熊谷寬治

被告 吉川チヨ 訴訟代理人 關直彦

右當事者間ノ證據金及口錢取戻請求事件ニ付明治三十年五月二十六日東京控訴院カ言渡シタ  
 ル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被告上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ  
 爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告第二點ハ舉證責任ノ所在如何ハ暫ク之ヲ措キ上告人ハ被告上告人カ上告人委託ノ如ク株式  
 ノ賣買ヲナササリシ事實ヲ證明ス可キ爲メ東京株式取引所理事伊藤幹一左々田信次郎阿部鐵  
 之助等ヲ證人トシテ訊問セラルヘキ事ヲ申請シ或ハ被告上告人ノ本人訊問ヲ申請シ以テ數多ノ  
 立證方法ヲ申立タルニモ不拘原院ハ凡テ其申請ヲ却下シ以テ以上要スルニ被告上告人ハ先代五  
 兵衛ハ控訴人ヨリ委託セラレタル株式賣買ヲ株式取引所ニ於テナササルトノ立證ナキヲ以テ  
 控訴人ノ請求ハ其理由ナキモノトス下判決アリシハ不法ヲ免レス何トナレハ個ハ唯一ノ證據  
 方法タル證據ヲ撤斥シ以テ其證據ナシト判決セラレタルモノニシテ即チ民事訴訟法第二百七  
 十條ノ規定ニ背キタル判決ナリト云フニ在リ○今原記録ヲ閱スルニ第一審ニ於テ東京株式取  
 引所理事長大江卓取引所員室尾嶺作取引所書記渡邊亨ヲ證人トシテ喚問ヲ乞ヒタルモ其判決

唯一ノ證據決定申請ノ不採用



ニ説明セラレタル如ク理事長ナレハ直接ニ賣買ニ關係セス又ハ帳簿類ヲ取扱ハサレハ本件ノ賣買ヲ知ラス又ハ數多キ本件ノ賣買ヲ記憶セス等ノ供述ニ過キスシテ上告人申請ノ効果ヲ得サリシナリ乃チ上告人ハ第二審ニ於テ取引所理事伊藤幹一及ヒ左々田信次郎阿部鐵之助等ヲ証人トシテ訊問ヲ申請シタルニ原裁判所ハ判決ニ必要ナシトシテ之ヲ棄却シタリ而シテ其訊問事項タル本件ノ賣買力委託ノ如ク取引所ニ於テ爲サレタルヤ否ヤニ在ルヤ證據決定申請書ノ明記スル所ナリ然ルニ原裁判所如斯ク本件ノ賣買カ取引所ニ於テ爲サリシコトニ付テハ唯一ナル證據決定ノ申請アルニ拘ハラス判決ニ必要ナシトシテ之ヲ杜絶シナカク取引所ニ於テ爲ササルト入立證ナキヲ以テ控訴人ハ請求ハ其理由ナキモハトス云々判斷シタルハ論告ハ如ク不法タルヲ免カレフ彼ノ本人訊問ノ如キ已ニ第一審ニ於テ其申請ヲ許可セラレタルニ拘ハラス殆ント同一ノ理由ヲ以テ之レカ訊問ヲ請求シタルモノニ係レハ原裁判所カ之ヲ許可セザリシハ畢竟調フヘキ證據ノ限度ヲ定メタルニ歸スヘキヲ以テ必シモ此申請ヲ許容セサルヘカラサル唯一ノ證據方法ナリト云フ能ハサルモ之ヲ斥ケタル理由ニ至リテハ前文ト同シク判決ニ必要ナシト爲シ而シテ立證ナシトシテ本件ノ請求ヲ棄却シタルニアレハ是亦不法ヲ免カレサルモノトス

但シ此他論告スルモノアルモ本條ノ不法アリテ原判決ノ破毀ニ屬スル上ハ茲ニ逐次ノ詳明ヲ要セス

以上ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ從ヒ主文ノ如ク判決ヲ破

毀シ原裁判所ニ差戻スモノナリ

○地所買戻契約履行請求ノ件

明治三十年第四百四十二號  
明治三十一年二月二十五日第二民事部判決

○判決要旨

一 買戻條件附賣買ニシテ其條件ノ履行ヲ一定ノ期間ニ繫ラシメタルモノハ其期間相手方ニ對シ履行ヲ求メタルヤ否ニ因リ條件ノ成否ヲ決スヘキモノナリ故ニ期間内ニ履行ヲ求ムル意思アリシモノト認メ得ヘキ場合ニ於テハ期限後ト雖トモ相當ノ準備時間内ニ出訴スレハ條件カ成就スルモノ、如ク斷定セル裁判ハ不法ナリ

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院

上告人 鐵木文吉 訴訟代理人 鳩山和夫

被上告人 原野彦左衛門 外二名 訴訟代理人 嶺八郎

右當事者間ノ地所買戻契約履行事件ニ付宮城控訴院カ明治三十年三月五日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

買戻條件附賣買○條件ノ不成就



原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ差戻ス  
理 山

上告第一點ハ原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタルノ違法アリ(一)凡ソ買戻權能ヲ行使セントスル者ハ約定期限内ニ於テ其代金ヲ提供シ以テ契約履行ヲ求ムルノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ此手續ヲ盡スハ權能行使者ノ一ノ義務ニ屬スルヲ以テ若シ之ヲ盡サ、レハ當然其權能ヲ失スルモノトス原判決理由ノ表示スル所ニヨレハ、被告上告人ハ約定期限ノ一日前明治二十八年十月二十四日賣戻契約證書ヲ交付スヘキ旨ノ催告ヲ爲シタルニ上告人何等ノ答ヲ爲サ、リシト及ヒ上告人カ訴訟ノ起頭賣戻約定ナシト主張シタルコトノ事實ヲ徵スレハ上告人ハ當初賣戻約定自身ヲ否認シタルモノナリ若シ其際上告人ニ於テ右約定ノ存在ヲ認メタランニハ被告上告人ニ於テ限内ニ其履行ヲ要求シタルヘシトハ一應推測シ得ヘク其然ラサリシハ上告人カ約定ノ存在ヲ認メサリシカ爲メ出訴スルノ外他ニ道ナキニ因リタルモノト認メサルヘカラスト云フニアリ一言以テ之ヲ蔽ヘハ買主(上告人)ニ於テ賣戻約定自身ヲ否認シタルトキハ賣主(被告上告人)ハ期限内代金提供ノ義務ヲ免ルヘシト云フニアリ然レトモ買戻付買戻ニ於テ買主ハ賣主カ期限内代金ヲ提供シテ買戻ヲ請求シタルトキハ之ニ應スルノ義務アレトモ他ニ約定ノ認否等ヲ申立ツルノ義務ナキノミナラス被告上告人カ爲シタル催告ナルモノハ證書交付ノ催告ニシテ約定認否ノ催告ニアラサルモノナレハ上告人ニ於テ此等ノ催告ニ應メサレハトテ自己ノ權利並ニ相手方ノ義務ニ消長ヲ來スヘキ理由ナシ又賣戻約定否認ノ事實ハ何故ニ相手方ノ義務ヲ

免カレシムルハ原判決ニ於テハ若シ右約定ノ存在ヲ認メタランニハ相手方ニ於テ限内ニ其履行ヲ要求シタルト推測シ得ヘシト云フト雖トモ此ノ如キ推測ハ往々事實ニ違フコトアルヲ以テ一概ニ斷定シ得ヘカラス要スルニ原判決ハ買戻條件付買戻ノ効力ニ關スル法則ヲ不當ニ適用セル不法ノ判決ナリ(二)買戻請求ハ現ニ代金ヲ提供シ若クハ其代金ヲ支拂フ旨ヲ陳述シテ之ヲ爲サ、ルヘカラス(明治二十九年第二十三號地所名義更正契約履行ノ件同年十一月二十七日大審院民事第二部判決)然ルニ原判決ノ理由ニ於テハ既ニ買戻ヲ請求スル以上ハ其代金ノ準備アルモノト推測シ得ヘシ云々トアリ右ノ手續ヲ爲サ、ルモ買戻ヲ有効ノモノトナシタルハ是レ亦違法ノ判決タルヲ免カレスト云フニ在リ  
按スルニ買戻條件付買戻ニシテ其條件ノ履行ヲ一定ノ期間ニ繫ラシメタルモノハ其條件ノ成否一ニ一定ノ期間内條件ノ成就ニ因リ利益ヲ受クル當事者カ相手方ニ對シ其履行ヲ求メタルヤ否トニ因テ決ス可キモノナリ是レ條件附契約ノ性質上然ラサルヲ得サルモノトス故ニ若シ相手方カ故意ヲ以テ履行ヲ妨ケ爲メニ期限ヲ失ハシメタル上ハ條件カ不成就ニ歸スルハ論ヲ俟タサル筋合ナリトス然ルニ原裁判所ハ被告上告人カ期限内ニ履行ヲ求メタル事實ヲ認メサルニモ拘ハラヌ被告上告人カ期限一日前明治二十八年十二月二十四日上告人ニ對シ賣戻約定證書ヲ交付ス可キ旨ノ催告ヲ爲シタルニ上告人ハ何等ノ答ヲ爲サ、リシトハ、コト期限二十餘日後ニ提起シタル本訴ノ起頭ニ於テ上告人カ賣戻ノ契約ヲ爲シタルコトナシト主張シ約定自體ヲ否認シタルトハ事實トニ依リ若シ當時上告人ニ於テ約定ノ存在ヲ認シタルニハ被告上告人カ



期限内ニ履行ヲ要求シタルモノナル可ク被上告人ハ履行ヲ要求セザルハ畢竟上告人ニ於テ  
 賣戻ヲ拒ミタルニ因ルモノナリトハ推測ヲ爲シ結局本訴ハ提起ハ期限二十餘日ノ後ニ在ルモ  
 出訴準備ハ爲メ當然要ス可キ時間ト認ム可キ付之ヲ以テ被上告人ハ懈怠ニ歸ス可カラスト  
 論定シ期限内ニ履行ヲ求ムル意思アリシモノト認メ得可キ場合ニ於テハ期限後ト雖トモ相當  
 ハ準備時間内ニ出訴スレハ條件カ成就スルモノハ如何斷定シタルハ買戻條件附買戻効力ニ  
 關スル法則ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ本點第一ハ論旨ハ其理由アルモノトス既ニ此點ヲ  
 以テ破毀ス可キモノト認ムル上ハ他ノ點ニ對シ説明スルノ要ナシ  
 右ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項及同第四百四十八條第一項ニ依リ原判  
 決ノ全部ヲ破毀シ更ニ辯論及裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ差戻テ相償トス是レ  
 主文ノ如ク判決スル所以ナリ

○公證取消地所引渡請求ノ件

明治三十年第四百八十五號  
明治三十一年二月二十五日第二民事部判決

○判決要旨

一、明治十年第四十三號布告ハ神社又ハ寺院カ其社寺附ノ地所ヲ抵當ト爲スニ付  
 テハ其氏子又ハ檀家惣代二名以上ノ連署ヲ爲サシムルヲ以テ取引上ノ要件ト

爲シタルモノナリ故ニ氏子又ハ檀家ナキ社寺ハ該布告ノ主旨ニ從ヒ其社寺附  
 ノ地所ヲ抵當ニ差入ル、カ如キ處分行爲ヲ爲スコトヲ得ス

(參照) 神社並寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルトキ若クハ金穀ヲ借入ル、爲  
 メ社寺附地所除稅地外 建物什器類古文書等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協  
 議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總ヘテ該社寺神官僧侶ノ  
 私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其効ナキ者ト爲スヘシ此旨布告候事(明治十年第四  
 十三號布告)

第一審 千葉地方裁判所八日市場支部 第二審 東京控訴院

上告人 田中善兵衛 訴訟代理人 石川淺之助

被上告人 荒居養壽  
荒居養壽  
尖倉貞藏  
外二人

右當事者間ノ公證取消地所引渡請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十年十月十五日言渡シタル  
 判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 理由

上告論旨ハ原裁判所ハ上告人ノ所持スル實地證(乙第一號)證ニ對シ檀家若クハ惣代ノ連署アル

明治十年四十三號布告○社寺附地所ノ抵當



コトナケレハ明治十年第四十三號布告ニ從ヒ乙第一號證ノ貸借ハ常樂寺ノ關係セサリシモノト認メサル可カラスト認定セラレタレトモ該寺院ハ無權ニシテ檀家及ヒ惣代人ノ絶無ナルコトハ第一審以來原被雙方ノ争ハサリシ處ナリ然ルニ其絶無ノ壇家及ヒ惣代人ノ連署ナキ爲メ本訴ノ貸借ヲ無効ナリト判定セラレタルハ前記明治十年第四十三號布告ヲ不當ニ適用セシ遠法ノ判決ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ明治十年第四十三號布告ニハ「神社並ニ寺院ニ於テ(中略)社寺附地所(中略)等ヲ抵當トナストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ(中略)假令右ノ抵當アルモ其効ナキモノト爲スヘシトアリテ該布告ノ主意ハ社寺附地所ヲ抵當ト爲スニ付テハ其氏子又ハ檀家總代二名以上ノ連署ヲ爲サシムルヲ以テ其取引ノ要件ト爲シタルモノナレハ苟クモ此要件ヲ缺クコトアラニハ其理由ハ如何ヲ問ハス之ヲ無効ト爲スニアルコト換言スレハ氏子檀家ナキ社寺ニ對シテハ到底其社寺附地所ヲ抵當ニ差入ルルカ如キ處分行爲ヲ爲スノ餘地ナキナリシコト其法文上自ラ明カナリ左スレハ「舊常樂寺ニハ上告人云フ如ク元來一ノ檀家ナカリシモノトスルモ其檀家ナキカ爲メ該四十三號布告ノ要件ヲ充タサス寺院ハ兼務住職ニ於テ擅ニ寺院附地所ヲ賃入ト爲シ得ヘキ道理ノ生スヘキ答ナシ即チ本件ノ如キ場合ニ該布告ヲ適用スルニ付テハ其檀家ノ存否如何ハ何等ノ關係ヲ有スヘキモノニアラス故ニ原裁判所カ明治十年第四十三號布告ニ從ヒ乙第一號證ノ貸借ハ常樂寺ノ關係セサリシモノト認メサル可ラス云々ト判定シタルハ相當ニシテ原判決ハ上告所論ノ如キ遠法ナシ

上文辯明ノ如ク本件ハ遠法ノ理由ナキニ依リ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ棄却スヘキモノトス

○見繼山生立木共有權確認及見繼名義訂正請求ノ件

明治三十年四月八十九號  
明治三十一年二月二十八日第二民事部判決

○判決要旨

一、一村内ノ部落カ町村制第十四條ニ依リ公法人タル資格ヲ認メラレントスルニハ必ス其財産所有ノ事實ヲ以テ要素ト爲サルヘカラス然レトモ其所有タルヤ必スシモ實際其物ヲ握有スルトキノミニ限ラス總ヘテノ所有ノ場合ニ之ヲ適用シ得ヘキモノナレハ部落カ係争物ヲ以テ自己ノ所有ナリト主張スルトキモ亦其主張ニ基キ之ヲ自己ノ所有ト看做シ公法人タル資格ヲ以テ出訴スヘキハ當然ナリ(判旨第一點)

(參照) 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニシテ則ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特一村内ノ部落カ公法人タル要件



一村内ノ部落カ公法人タル要件

ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得(町村制第百十四條)

第一審 青森地方裁判所弘前支部 第二審 函館控訴院

上告人 小澤惣吉 訴訟代理人 (岡村輝彦 石原毛登馬)

外百二十三名

被上告人 山形 三右衛門

右當事者間ノ見繼山生立木共有權確認及見繼名義訂正請求事件ニ付明治三十年九月二十七日函館控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨第一點部落ノ人格ハ町村カ其制度第二條ニ於テ絶對ニ公認セラレタルト異リ單ニ一定ノ事實ニ就キテノミ變則ニ與ヘラレタルニ過キスシテ一般ノ法理トシテハ部落ハ人格ヲ有セサルチ本則トス而シテ部落ハ特有ノ財産ニ就キテノミ法人視セラレルモノナレハ財産ヲ有ステウ現實ノ事實ハ部落カ獨立シテ權義ノ本體タルニ必須ノ要素ト謂ハサル可カラズ蓋シ法人ハ法律ノ規定ヲ俟テ始メテ存立スヘク其存立ハ法定ノ事實ヲ具備シテ始メテ認め得ヘ

キハ勿論ナレハ部落ノ人格ハ財産ノ實在ニ伴フ可キハ法理上當然ノ筋合ナリ原院ハ「論山ノ見繼傳ハ部落有ナリト主張スルニ於テハ即チ清水村内小澤阪元ノ兩字ハ特ニ財産ヲ所有スル一部落ナルモノニ該當シ町村制第百十四條第百十五條ノ規定ニ從ヒ同制ノ實施ト同時ニ公法人タルコトヲ認めラレシ部落タルヲ論テ俟タス」ト説明セラルトモ部落カ存在ニ依ル法人トシテ町村制實施ト同時ニ何等ノ手續ヲモ要セスシテ人格ヲ得ンニハ此法律ノ規定ト法定ノ要件則直ニ機關ノ保護内ニ來ルヘキ財産ノ實在トノ二者ナカラサル可ラス本件ノ如キハ後者ニ欠クル所アルモノ何スレソ存在ニ依ル法人トシテ人格ヲ有スヘケン若夫レ原院ノ如ク「部落有」ト主張スル一事ニ依リ町村内ノ區ハ直ニ人格ヲ得ルトノ見解ニ從ヘハ一切ノ部落ハ常ニ法人タル可ク特有財産ノ有無ハ問フチ要セサル事ニ歸着シ町村制度ノ精神ト規定トチ打破スルノ結果法律ニ依ラサル法人ヲ見ルノ奇觀ヲ呈スヘシ上告人ハ例外法ハ斯ク廣義ノ解釋ヲ許ス可ラスト確信ス結局前上法條ハ部落カ現ニ財産ヲ所持スル場合ニ運用ヲ見ルヘキモノニシテ掌裡ニ實在セサル者ニ對シテハ適用スルニ由ナク自然此法條ヨリ生スル人格ハ適用スル能ハサル所ニ附與セラルヘキ理由ナキ者ナリ乃チ小澤坂元兩字ハ本案訴訟ニ勝利シテ始テ人格ヲ得ヘシ本件ハ爭訟目的物去ル十七年來永ク被控訴人名義トナリ部落ノ掌裡ニ實在セス從テ村長管理ノ機ナカリシモノナリ此事實ニ對シ原院カ町村制第百十四條第百十五條ヲ適用セルハ不當ニ法則ヲ適用シタルノ違法アリト云ニアリ○按スルニ町制第百十四條ニ「町内ノ一區云々特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ其費用ヲ負擔ハルトキ」トアルニヨレハ部落

判旨第一點

一村内ノ部落カ公法人タル要件



カ營造物設置ヲ原由トスルニアニスシテ公法人タル資格ヲ認メラレンニハ必ス其財産所有ノ事實ヲ以テ要素ト爲サイル可ラサルコトハ固ヨリ言ハサル所ナリト雖モ其所有タルヤ必スシモ實際其物ヲ握有スルトキハミニ限ラズ總テノ所有ノ場合ニ之ヲ適用スルコトヲ得ヘキハトス如何トナレハ係争物件ノ如キ假令争訟中ニ係ルト雖モ部落ハ自己ノ主張ニ基キ之ヲ自己ノ所有ト看做シ公法人タル資格ヲ以テ出訴スヘキハ當然ニシテ決シテ上告人言カ如キ法律ハ主旨ニアラサレハナリ而シテ本件ニ付上告人カ第一審裁判所ニ提出シタル訴訟ノ原因如何ヲ調ルニ係争見繼山ハ舊來小澤坂元兩字ノ所有ニシテ被上告人ニ山守ヲ爲サシメ置キタル處私擅ニ其所有名義ヲ付ケ替ヘタルニ付之カ復舊ヲ求ムト云ニアリテ上文説明スル場合トモ相異スル所アラサレハ原裁判所カ前ニ掲載スル如キ説明ヲ爲シタルハ相當ニシテ上告所論ノ如キ不法アルモノニアラス

同第二點ハ原院ハ控訴人ハ本審ニ於テ本件確認ヲ求ムル權利ハ控訴人各自個々ノ所有ニ屬シ村長ノ管理スヘキ事實ニ關セサル旨申立ツルモ原審ニ於テ部落持ノ見繼山ナリト主張セシ本來ノ趣旨ヲ變スルモノナルヲ以テ固ヨリ許容スヘキノ限リニアラスト判示セラレタルモ是レ法則ノ不適用ヲ免レス何トナレハ上告人ハ第一審ニ於テ訴狀ニ明記スル如ク第一青森中津輕郡清水村大字小澤字蟹澤三十番見繼山反別三十一町二反一畝十四歩内ニ現存セル杉松楡生立木全部ニ對スル原告共ノ共有權確認ヲ求ム第二右見繼名義ヲ中津輕郡清水村大字小澤及同坂元村民總代小野惣吉名義ニ訂正スルコトヲ請求ストノ二箇ノ訴ヲ目的トシタルニ同裁判所

ハ被上告人ノ妨訴抗辯ヲ理由アリトセル故上告人ハ第二ノ請求ニ就キテハ一步ヲ讓テ妨訴抗辯理由アリトスルモ第一ノ請求ニ付キテハ保護機關ノ設定ヲ以テ共有ノ財産ハ何等ノ變動ヲ受クヘキ理由ナシ依テ部落ノ爲メニ取戻ヲ争フニアラスシテ單ニ控訴人共各自固有ノ權利ノ確認ヲ見繼權行使ノ結果ニ成レル生立木ニ對シテ請求スルハ毛頭モ村長ノ管理權ニ屬スル事柄ニ關係ナキ旨ヲ陳シ控訴シタル者ナレハ本來ノ訴旨ニ些ノ變更ナケレハナリト云ヒ同第三點ハ原判ニ本件ハ青森縣津輕郡清水村大字小澤及坂元ノ兩大字内ニ住スル控訴人ニ對シ論山反別三十一町二反一畝十四歩ノ見繼權ハ舊來小澤坂元ノ兩大字持ナリシトノコトヲ以テ控訴人共ハ即兩字住民ノ一部ナルカ故ニ同地内ニ現存セル杉松楡生立木ニ付共有權アリト主張シ之カ確認及見繼山名義訂正ヲ請求スル訴訟ナレハ畢竟論山ノ見繼ハ村内一部落ノ共有ナリト等フモノニ外ナラス然リハ之ニ關スル訴訟行爲ヲ爲ス資格アル者ハ獨リ其管理ヲ有スヘキ部落村長ノミニシテ該兩字部落内ノ住民カ個々別々ニ其權利ヲ主張シ得ヘキモノニアラスト云フ理由ヲ以テ上告人請求ノ訴全部ヲ却下セラレタリト雖モ論山ノ見繼權ヲ以テ部落ノ有ナリト申立タレハトテ上告人カ生立木ニ對スル箇々固有ノ權ノ確認ヲ求ムル點マテモ部落ノ權利ヲ主張スルモノトナラス何トナレハ見繼權ハ部落有ナリトシテモ當事者カ見繼山ノ果實タル樹木ニ對シ收益スルコトヲ得ル權ハ住民タル個人ニ屬スルモノニシテ之カ確認ヲ請求スルハ決シテ部落ノ權利トシテ主張スル義ナラサレハナリ故ニ上告人ノ請求第一青森縣中津輕郡清水村大字小澤字蟹澤三十番見繼山反別三十一町二反一畝十四歩ノ内ニ現存セル杉松楡生立木



全部ニ對スル原告等ノ共有權確認ヲ求ム第二右見繼名義ヲ中津輕郡清水村大字小澤及同坂元村民總代小野惣吉名義ニ訂正スルヲ請求ストアル中第二ノ請求ニ付テハ原判旨ニ從ヒテ上告人ニ訴訟資格ナシトスルモ其第一ニ至テハ上告人共各自固有ノ權ヲ主張スルモノナレハ此點ニ付テ訴訟資格ノ欠缺アルヘキ筋合ナシ見繼山ハ部落有ナリト申立タルニヨリ立木モ亦自ラ部落有ナル可キモノトスルモ上告人被告上告人共ニ部落住民ナルカ故ニ獨リ被告上告人ノ私スル能ハスシテ上告人モ收益ノ權アリトノ旨趣ヲ以テ共有權確認ヲ求ムルニ在レハ上告人等個人ノ權利トシテ主張スルモノナルヲ以テ是亦訴訟資格ニ缺クル所ナキ筋合ナリ然ルチ原判決カ一括シテ本訴ヲ却下セラレタルハ法則ヲ不當ニ適用セラレタル違法アルモノト信スト云フニアルモ○第一審廷ニ於ケル口頭辯論調書ヲ閱スルニ上告人ハ被告上告人ヨリ原告ノ陳述ハ數人共有ノ見繼山ナリトノ答ナルニ準備書面ニハ小澤坂本村民共有トアリ又申立ニモ村中持トノ陳述アリ然レハ原告ハ一部部落ノ訴權ヲ行使セントスルモノ、如シ如何トノ質問ヲ受ケ部落持ノ意味ナレハ前ニ各個人カ權利ヲ取得シアル様ノ陳述ハ訂正スト申立其末部落ノ訴權ハ現今ノ制度ニテハ村長之ヲ代表行使スヘク人民各個ニ行フヘキ者ニアラストノ妨訴抗辯ヲ提出セラレタルニ單ニ係争見繼權ハ不動産ニアラサルヲ以テ村長ノ管理スヘキモノニアラサル旨ノ辯解ヲ爲タルニ止リ訴訟ノ目的第一第二ニ關シ各其資格ヲ異ニスル旨ノ申立ヲ爲タルコトナケレハ二個同一(即チ總テ上文訂正ノ旨趣ニ依ルモノ)ト看ルヘキハ事理當然ノ見解ナリト云ハサルヘカラス既ニ二個別異ナラサル意味ノ申立ヲ爲シオキナカラ控訴ニ至リ一個ハ其資格ヲ

別ニスル旨ノ陳述ヲ爲シタレハトテ之ヲ採用セラルヘキ道理ナキニ付原裁判所カ上文掲ケル如キノ説明ヲ爲タルハ相當ニシテ法則ヲ不當ニ適用シタリトノ非難ヲ受ケヘキモノニアラス故ニ右二點ノ上告論旨モ亦其理由シナトス

以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス



○大審院民事部裁判長及部員氏名表

第一民事部

裁判長

部長 判事 中村元嘉

部員

判事 井上正一

判事 小松弘隆

判事 岡村爲藏

判事 本多康直

判事 西川鐵次郎

判事 河村善益

本部ノ所管

人事、米穀、物品、證券、金錢

本部ノ開廷日

火曜 日

判事氏名表

木曜 日

土曜 日

第二民事部

裁判長

院長 判事男爵南部 斐男

部長

判事 寺島直

判事 増戸武平

判事 今村信行

判事 藤田隆三郎

判事 芹澤政温

判事 中尾眞晃

判事 和田收藏

本部ノ所管

地所附水利、建物附家賃、損害要償、雜事



判事氏名表

大阪控訴院

名古屋控訴院

宮城控訴院

廣島控訴院

本部、開廷

火曜日

金曜日



大審院刑事判決錄



總目録

刑法

文字ヲ描改シテ性質相異ル文書ヲ作成シタル所爲ノ事.....

自製ノ斗概ハ禁制品ナル事.....

詐欺取財ニ基ク文書偽造罪ノ處斷ノ事.....

詐欺取財ニ於ケル欺罔ノ手數ノ事.....

官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シタル場合ニ於ケル處斷ノ事.....

竊謀ト殺意ノ區別ノ事.....

抗拒スヘカラルサル強制ノ事實ノ認定ノ事.....

囚徒逃走罪ハ繼續犯ナル事.....

囚徒逃走罪ノ日時場所ノ事.....

裁判費用連帶負擔ノ法律ノ適用ノ事.....

詐欺取財ニ基ク官文書偽造行使ノ處斷ノ事.....

公私ノ文書ヲ偽造シタル所爲ノ處斷ノ事.....



外國人ノ文書ヲ變造シタル所爲ノ事.....  
 文書偽造行使罪ノ目的ノ事.....  
 登記官吏ニ於テ登記名刺ニ貼用セル印紙ヲ剝脱シタル所爲ノ事.....

### 刑事訴訟法

受託刑事囑託以外ノ證人ヲ訊問シテ作成シタル調書ノ効力ノ事.....  
 無効ノ告發ニ基ケル告發書ノ効力ノ事.....  
 告發書ノ法式ノ事.....  
 控訴ノ棄却又ハ一審判決ノ取消ヲ言渡サ、ル裁判ノ事.....  
 日付ニ誤謬アル豫審請求書ノ効力ノ事.....  
 被告人ノ捺印ナキ辯護届ノ効力ノ事.....  
 控訴ノ理由ノ判定ノ事.....  
 再審ノ訴ノ代理ノ委任ノ事.....  
 檢事ノ私訴意見ノ事.....  
 不法ノ契約ニ基ク損害賠償ノ責任ノ事.....

陪席刑事裁判長ニ告ケテ被告人ヲ訊問スル法則刑事訴訟法第九十四條第二  
 項ノ意義ノ事.....  
 司法警察官ニシテ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲シ依テ作成シタル證人調書ノ性  
 質ノ事.....  
 辯護人兩名ニ送達シタル呼出狀ノ副本ニ一名ノ署名捺印アル場合ニ於ケル送  
 達ノ効力ノ事.....  
 被告人ノ特徴ヲ基本トシ其氏名ヲ明示セサル起訴ノ効力ノ事.....  
 身體所拘束ノ記載ナキ公判下調々書ノ効力ノ事.....  
 豫審終結決定書ニ遺漏アル場合ニ於ケル裁判所ノ職責ノ事.....  
 訊問辯論ノ文字ニハ合議ヲ包含セサル事.....  
 前審裁判ノ意義ノ事.....  
 宣誓ニ牴觸スル親屬ヲ證人トシタル調書ノ効力ノ事.....  
 擬律ノ錯誤ト理由ノ齟齬トノ區別ノ事.....  
 所屬官署ノ印ヲ押捺セサル證人訊問調書ノ効力ノ事.....  
 非現行犯人ニ對スル司法警察官ノ逮捕告發調書ノ作成並ニ其効力ノ事.....



犯罪人名票ノ契印ノ事……………  
 委任狀ナキ代理人ノ爲メタル告訴狀ノ効力ノ事……………  
 檢證調書ノ附屬圖正ニ應印ナキ場合ニ於ケル効力ノ事……………  
 資格ヲ同フセサル當事者ニ對スル確定判決ノ効力ノ事……………

度量衡法

斗概ハ量器ノ一部ナル事……………  
 自製ノ斗概ハ禁制品ナル事……………

豫戒令

豫戒命令ニ違反セシ者ノ處斷ノ事……………

事件目錄

事 件	關係事項	日 判 決	番 號	訴 訟 關 係 人	丁 數
私書偽造行使ノ件	囑託以外ノ證人調書	一二 日月	一三三號	被告 原田 辨平 山田 久衛門 山田 宮太郎	四
監守盜ノ件	告發書ノ効力	三二 日月	一〇七九號	被告 大塚 公則	四
冒認私訴ノ件	判決主文ノ不備	四二 日月	五六號	私訴上告人 鈴木 本之吉 私訴被上告人 鈴木 定次	二
私書變造詐欺取財ノ件	文字描改ノ文書	四二 日月	七八號	被告 平岡 勘左衛門	四
詐欺取財ノ件	斗概、自製ノ斗概	七二 日月	九六八號	被告 渡邊 淺吉	二
官私印官私文書偽造行使ノ件	詐欺取財ニ基ク文書偽造	八二 日月	二二二號	被告 永井 遠	二
詐欺取財ノ件	欺罔ノ手段	八二 日月	八四號	被告 内田 彦作	二
偽證教唆ノ件	豫審請求書ノ日付誤記	八二 日月	一一三號	被告 渡邊 又治郎	二
私印盜用等ノ件	辯護届ノ法一	十二 月 十五日	一七四號	被告 正宗 勝賢	二
詐欺取財委託金費消ノ件	控訴理由ノ判定	十二 月 十五日	一二號	被告 沼里 善重郎	二
公印盜用偽造行使詐欺取財ノ件	擬律錯誤	十二 月 十五日	二五號	被告 照井 定次郎	一



事件目録

謀殺ノ件	豫謀ト殺意ノ區別、抗拒スヘカラサル強制ノ認定	十五日	七四號	被告 山本信三
未決囚徒逃走ノ件	囚徒逃走罪ノ日時場所	十五日	一〇三號	被告 柴田勝次郎
山林盜伐再審ノ件	再審ノ代理	十五日	再審七號	被告 川本長吉
詐欺取財ノ件	檢事ノ私訴意見、不法契約ニ基ク損害	十七日	五〇號	被告 村田源四郎
公印盗用等詐欺取財ノ件	陪席判事ノ訊問	十七日	五四號	被告 細谷佐太郎
謀殺未遂ノ件	司法警察官ノ豫審調査	十七日	一一一號	被告 關俊作
恐喝取財ノ件	裁判費用連帶負擔ノ法則	十七日	一三〇號	被告 阿部善平
冒認販賣ノ件	辯護人ノ呼出狀ノ送達	十八日	七七〇號	被告 大野留次郎
嬰兒壓殺ノ件	被告人ノ特徴	十八日	一三三六號	被告 大野留次郎
官私文書偽造行使等ノ件	詐欺取財ニ基ク官文書偽造	十八日	二號	被告 渡邊六三郎
強盜殺人ノ件	公判下調査ノ効力	十八日	五號	被告 鹿内甚悦
官印盗用官文書偽造詐欺取財ノ件	公私文書ノ偽造行使	十八日	八九號	被告 相馬長藏

○刑

詐欺取財ノ件	豫審決定ノ遺漏、合議	廿二日	八八號	被告 井野安右衛門
證書偽造行使詐欺取財ノ件	前審裁判ノ闕與、親屬ノ證人調査	廿二日	一二八號	被告 杉浦長七
詐欺取財ノ件	擬二問題	廿二日	一三五號	被告 坪治龜三
私書變造詐欺取財ノ件	外國人ノ文書變造	廿二日	三九號	被告 松井憲令
偽證ノ件	應印ナキ證人調査ノ効力	廿二日	一一〇號	被告 松岡高次郎
竊盜ノ件	非現行犯人ノ逮捕告發	廿二日	一五六號	被告 佐藤右衛門
詐欺取財ノ件	偽造一書ノ行使目的	廿二日	一六一號	被告 柴田正信
監守監ノ件	登記印紙ノ隠脱	廿二日	一〇七五號	被告 平谷喜太郎
強盜ノ件	賭具ノ強取	廿二日	一一六號	被告 小澤慶太郎
詐欺取財ノ件	犯罪人名票ノ契印	廿二日	一六八號	被告 新井五郎
官林盜伐官印盗用ノ件	告訴狀ノ効力	廿二日	一〇二號	被告 安達兼太郎
私印盗用等詐欺取財ノ件	檢證調査附屬ノ圖面	廿五日	一三二號	被告 高島浩二
詐欺取財豫戒令違反ノ件	資格不同ノ當事者	廿八日	二二〇號	被告 高田啓次郎
	豫戒命令ノ處罰	廿八日	六五號	被告 坂田新藏

事件目録

○刑



いろは索引

此索引ハ専ラ法律上ノ用語ニ依リ其頭音ヲ取テいろはノ順ニ從テ排列編纂ス止ムヲ得サルニ非サレハ形容詞若クハ普通名詞ヲ用ヒス〇頭音ハ必スシモ字音ノ假名遣ニ拘ハラズ人ノ通常音ヲ所ノ音聲ニ據ル例之はうチほうニ入ルカ如シ

[シ]

意思

(探謀ト殺意ノ區別。參看)

一罪

(詐欺取財ニ基ク文書偽造。參看)

遺漏ノ豫審決定

(豫審決定ノ遺漏。參看)

一罪中ノ所爲

(豫審決定ノ遺漏。參看)

印章ナキ調書ノ効力

(廳總アキ證人調書ノ効力。參看)

印紙ノ剝脱

(登記ニ紙ノ剝脱。參看)

委任狀ナキ代理人ノ告訴狀

(告訴狀ノ効力。參看)

印章ナキ圖面

(檢査調書附屬ノ圖面。參看)

判決主文ノ不備

いろは索引

丁數

第二審判決ニ於テ控訴ノ棄却又ハ一審判決ノ取消ヲ言渡サル裁判ハ刑事訴訟法第二百六十一條ノ法則ヲ適用セサル不法アリ

場所

(囚徒逃走罪ノ日附場所。參看)

陪席判事ノ訊問

陪席判事裁判長ニ告ケテ被告人ヲ訊問スル法則(刑事訴訟法第九十四條二項)ハ専ラ審理上ノ秩序ヲ保シテ主眼ニ出ルモノナレヲ以テ告ケスシテ被告人ヲ訊問スルモ裁判長之ヲ默許シタルトキハ正訊問ハ不法ニアラス

賣買證書ノ偽造行使

(公私文書ノ偽造行使。參看)

犯罪人名票ノ契印

犯罪人名票ハ刑事訴訟法ノ法則ニ基キ作成スヘキ文書ニアラズ從テ同法第二百條ノ手續ヲ履行スルヲ要セス



いろは索引

判決ノ効力

(資格不同ノ當事者。參看)

二名ノ辯護人ニ宛タル呼出狀

(辯護人ノ呼出狀ノ送達。參看)

謀殺罪ノ意思

(豫謀ト殺意ノ區別。參看)

法律適用ト事實ノ抵觸

(疑律問題。參看)

保存品ノ毀棄

(登記ニ紙ノ剝脱。參看)

辯護届ノ法式

(辯護人選定届ニ被告人名ノ捺印ナキモノハ適式ノ辯護届ニ非ス)

辯護人ノ呼出狀ノ送達

呼出狀ヲ辯護人兩名ニ宛テ送達シタル場合ニ於テ其副本ニ一名ノ署名捺印アルニ止マルトキハ他ノ一名ニ對シテハ送達ノ効ナキモノトス

變造ノ文書

(外國人ノ文書變造。參看)

取消ノ判決

(判決主文ノ不備。參看)

斗概

斗概ハ量器ノ一器ナリ

逃走ノ日時場所

(囚徒逃走罪ノ日時場所。參看)

特徴

(被告人ノ特徴。參看)

登記簿證書ノ偽造行使

(公私文書ノ偽造行使。參看)

登記印紙ノ剝脱

登記官吏ニ於テ其保存中ニ係ル登記簿紙ニ貼用セシ印紙ヲ剝脱シタル所爲ハ官文ノ毀棄罪ヲ構成ス

賭具ノ強取

賭博ノ器具ト雖モ財物ナルヲ以テ之ニ強取シタルトキハ強盜罪ヲ構成ス

應印ナキ證人調書ノ効力

所屬官署ノ應ニ押捺セサル證人訊問調書ハ無効ナリ

應印ナキ圖面

(檢證調書ノ圖面。參看)

量器

(斗概。參看)

理由ノ判定

(控訴理由ノ判定。參看)

理由齟齬

(疑律問題。參看)

官文書偽造ニ因ル官印偽造

(擬制竊盜。參看)

假裝ノ契約

(不法契約ニ基ク損害。參看)

外國人ノ文書變造

法律ハ一般ニ文書變造ノ所爲ヲ罰シ敢テ其内國人ノ文書タルト外國人ノ文書タルトチ區別セズ

官文書毀棄罪ノ構成

(登記簿紙ノ剝脱。參看)

確實判決ノ効力

(資格不同ノ當事者。參看)

豫審請求書ノ日付誤謬

豫審請求書ノ日付ニ著シキ誤謬アルモ他ノ諸點ニ依テ其誤謬ヲ推認シ得ヘキトキハ該書面ハ有効ノ文書ナリ

豫謀ト殺意ノ區別

謀殺罪ノ實行以前ニアルヘキ豫謀ト犯罪ヲ

いろは索引

いろは索引

いろは索引

いろは索引

いろは索引

實行スル間機便スヘキ殺意トハ區別アリ

豫審判事ニ屬スル處分

(前法警察官ノ豫審處分。參看)

呼出狀ノ副本

(辯護人ノ呼出狀ノ送達。參看)

豫審決定ノ遺漏

一罪中ノ一部ニ對シ分ツヘカササル犯罪事實ニシテ豫審終結決定ニ遺漏アルトキト雖モ裁判所ハ自ラ進シテ之ヲ判定スヘキ職責ヲ有ス

豫戒命令ノ處罰

豫戒命令ニ定メタル期間内ニ適法ノ生業ニ就カサル爲メ豫戒命令第二條第一號ノ違犯者トシテ處罰セラレタル以上ハ爾後適法ノ生業ニ就カサルモ處罰セラルヘキモノニ非ス

代理ノ再審

(再審ノ代理。參看)

捕調書ノ効力

(非現行犯人ノ逮捕告發。參看)

運帶負擔ノ費用

(裁判費用運帶負擔ノ法則。參看)

送達ノ効力



いろは索引

〔う〕

(辯護人ノ呼出狀ノ送達。參看)

圖面ノ廳印

(檢證調書附屬ノ圖面。參看)

捺印ナキ辯護届

(辯護届ノ法式。參看)

無効ノ告發

(告發ニノ効力。參看)

繼續犯

(囚徒逃走罪ノ日附場所。參看)

檢事ノ私訴意見

私訴ニ付テハ特ニ檢事ノ意見ヲ聽クヲ要セ

警察官ノ豫審處分

(司法警察官ノ豫審調書。參看)

現行犯ノ豫審

(司法警察官ノ豫審調書。參看)

檢證調書附屬ノ圖面

豫審判事ノ檢證調書ニ附屬スル圖面ニ廳印

ノ捺印ナキモノハ無効ノ文意ナリ

不法契約ニ基ク損害

不法ノ契約ハ法律ノ保護ヲ受ヘキモノニア

ラスト雖モ其契約ヲ假裝シテ之ヲ欺罔ノ手

〔け〕

〔む〕

〔な〕

〔こ〕

段トナシ金圓ヲ騙取シタル所爲ハ犯罪ナリ

從テ之カ爲ニ生シタル損害ハ賠償ノ責任アリ

文書偽造材料トスル詐欺

(詐欺取財ニ基ク官文ニ偽造。參看)

不可分ノ所爲

(豫審決定ノ遺漏。參看)

文書變造ノ罪體

(外國人ノ文口變造。參看)

文書偽造行使ノ目的

(偽造文書行使ノ目的。參看)

告發書ノ効力

告發ハ其効ナシトナルモ告發者自體ハ文書

タルノ効ヲ失ハス

控訴ノ判決

(判決主ノ文不備。參看)

誤記アル豫審請求書

(豫審請求書ノ日附誤記。參看)

控訴理由ノ判定

控訴ハ事件全體ニ對シテ覆審ヲ求ムルモノ

ナレハ或點ニ於テ控訴理由アリト判示シタル

ル以上ハ縱令他ノ點ニ於テ控訴理由ナキモ

〇刑

其點ニ對シ別ニ控訴棄却ノ判定ヲナスヲ要

セス

抗拒スヘカラサル強制ノ認定

抗拒スヘカラサル強制ナルヤ否ノ事實ヲ認

定スルハ承審官ノ職權ニ屬ス

告訴狀

(被告人ノ特徵。參看)

公判下調々書ノ効力

公判下調々書ニハ被告人ニ於テ身體ノ拘束

ヲ受スシテ出廷シタル旨ヲ記載スルヲ要セ

公私文書ノ偽造行使

偽造ノ實質證據ニ登記簿ト記載シテ行使シ

タル場合ニアリテハ實質證據偽造ノ所爲ハ

公證文書偽造ノ所爲ニ包含ス從テ刑法第二百

百四條ニ適用シテ處斷スヘキモノニシテ同

法第二百十條第一項ヲ適用スヘキモノニシ

ラス

合議

訊問辯論ノ文字ニハ合議ヲ包含セス

告發調書ノ効力

(非現行犯人ノ逮捕告發。參看)

いろは索引

行使ノ目的

(偽造文書行使ノ目的。參看)

強盜罪ノ構成

(賭具ノ強取。參看)

告訴狀ノ効力

他人ニ委任シテ告訴ヲ提起シタル場合ニ於

テ其委任狀ノ添付キハ告訴ノ成立ニ關ス

ル問題ニ屬シ告訴狀其物ノ證據力ニ付テハ

何等ノ影響ヲ及スヘキモノニ非ス

詐欺取財ニ基ク文書偽造

詐欺取財ヲ爲スニ因テ數通ノ文書ヲ偽造行

使シタルトキハ刑法第三百九十條第二項ニ

則リ一ノ重キ所爲ニ從ヒ處斷スヘキモノニ

シテ數罪トシテ處斷スヘキモノニ非ス

詐欺取財ノ手段

(欺罔ノ手段。參看)

殺意ト豫謀ノ區別

(豫謀ト殺意ノ區別。參看)

再審ノ代理

再審ノ訴ハ刑ノ言渡ヲ受タル者ヨリ之ヲ爲

スヘキモノニシテ他人ヲシテ代理セシムル

ヲ得ス

五



詐欺ノ損害責任

(不法契約ニ基ク損害。参看)

裁判長ニ告ケサル訊問

(傍席判事ノ訊問。参看)

裁判費用連帶負擔ノ法則

裁判費用ノ連帶負擔ヲ命スルハ刑法第四十七條ノ法則ニ基クモノナリ從テ其判決ニ該條ヲ不用セサルモ不法ニアラス

詐欺取財ニ基ク官文書偽造

詐欺取財ヲ爲スニ因テ官文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シ一罪トシテ處斷スヘキモノトス

裁判ノ前審

(前審裁判ノ干與。参看)

棄却ノ判決

(判決主文ノ不備。参看)

禁制品

(白製ノ斗檜。参看)

欺罔ノ手段

詐欺取財ニ於ケル欺罔ノ手段ハ積極的行爲ヲ必要トセス

擬律錯誤

(白製ノ斗檜。参看)

主文ノ不備

(判決主文ノ不備。参看)

私書變造罪ノ成立

(文字描改ノ文書。参看)

自製ノ斗檜

自製ノ斗檜ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリ

手段

(欺罔ノ手段。参看)

囚徒逃走罪ノ日時場所

囚徒逃走罪ハ多少ノ時間繼續スルモノトシ從テ逃走ノ終リタル日時場所ヲ列示スルヲ以テ足レリトシ逃走ノ始マリタル日時場所ヲ列示スルヲ要セス

私訴ニ對スル檢事ノ意見

(檢事ノ私訴意見。参看)

審理上ノ秩序

(陪席判事ノ訊問。参看)

司法警察官ノ豫審調書

(陪席判事ノ訊問。参看)

いろは索引

官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又

盗用シタル所爲ニ對シ刑法第二百六條ヲ適用セサル判決ハ擬律錯誤 不在アリ

強制ノ認定

(抗拒スヘカラサル強制ノ認定。参看)

起訴

(被告人ノ特徴。参看)

擬律問題

事實理由ニ於テ一罪ニアラサルコトヲ認メナカラ法律ノ適用ニ至リ一罪トシテ處斷シタルヲ以テ不法ヲト論争スルハ擬律上ノ問題ニ屬シ理由顯赫ノ問題ニ非ス

偽造文書行使ノ目的

文書偽造行使罪ハ其文書ヲ或ル目的ニ達スル材料ニ供スルヲ以テ其罪ヲ構成スヘキモノニシテ必ズシテ其文書ノ趣旨ニ基キ行使スルヲ要セス

期間内ノ不就業

(豫戒命令ノ處罰。参看)

身分上ノ關係

(親屬ノ證人證。参看)

囑託以外ノ證人調書

重罪ノ現行犯アル場合ニ於テ司法警察官ハ刑事訴訟法第四百七條ノ法則ニ基キ犯所ニ臨檢シ該罪ノ事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ從テ其證人ヲ訊問シテ作成シタル文書ハ性質上豫審調書ナリ

氏名不記ノ起訴

(被告人ノ特徴。参看)

實質上ノ一罪

(詐欺取財ニ基ク官文書偽造。参看)

下調々書ノ効力

(公訴下調々書ノ効力。参看)

身體ノ拘束

(公判下調々書ノ効力。参看)

私文書偽造行使

(公私文書ノ偽造行使。参看)

親屬ノ證人調書

證人ニシテ刑事訴訟法第二百三條ニ抵觸セサル者ヲ申立宣誓ヲ爲スモ其訊問調書ニ於テ同條ニ抵觸ノ際アルトキハ證人調書タルノ効力ヲ有セス

事實ニ法律適用ノ抵觸

(擬律問題。参看)

〔五〕

〔六〕



〔ハ〕

証人調書ノ効力  
(臆印ナキ証人調書ノ効力。参看)

司法警察官ノ告發調書  
(非現行犯人ノ逮捕告發。参看)

資格不同ノ當事者  
資格ヲ同フセサル當事者ニ對シ確定判決ノ効力ヲ及スコトヲ得ス

日付誤記ノ豫審請求書  
(豫備請求書ノ日付誤記。参看)

被告人ノ捺印ナキ辯護届  
(辯護届ノ法。参看)

費用ノ連帶負擔  
(裁判費用連帶負擔ノ法則。参看)

被告人ノ特徴  
公訴狀ニ被告人ノ特徴トシテ郡村名及一定ノ官署ニ捕ヘラレ居ルモノナルコトヲ揭示スル以上ハ其氏名ヲ明示セサルモ有効ノ起訴ナリトス

非現行犯人ノ逮捕告發  
一 查ニシテ非現行犯ヲ現行犯ト思料シタル場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シテ告發シタルトキハ司法警察官ハ刑事訴訟法第五十九條第

〔ホ〕

二項ノ法則ニ基キ逮捕告發ニ關スル調書ヲ作成スヘキニノタリ而シテ其調書ハ證據力ヲ有ス

文字描改ノ文書  
文字ヲ描改シテ金錢性質相異ナル文書ヲ作成シタル所爲ハ私書ノ變造ニアラスシテ偽造ナリ

黙許  
(陪席判事ノ訊問。参看)

積極的ノ行爲  
(欺罔ノ手段。参看)

前審裁判ノ干與  
刑事訴訟法第四十條第四號ニ所謂「不服ヲ申立ラレタル裁判ノ前審ニ關與シタルトキ」トハ下級審ノ審判ニ關與シタル判事方上級審ノ審判ニ關與スル場合ヲ謂フ

宣誓ノ抵觸  
(親屬ノ證人証書。参看)

數通ノ文書偽造  
(詐欺取財ニ基ク文書偽造。参看)

法 文 表

刑事

四七條.....

二〇四條.....

二〇六條.....

二一〇條一項.....

三九〇條二項.....

刑事訴訟法

二〇條.....

四〇條四號.....

五九條二項.....

一二三條.....

一四七條.....

一九四條二項.....

丁數

二六一條.....

丁數

豫戒令

二條一號.....



月日目錄

宣告月日  
二月一日  
二月三日  
二月四日  
二月四日  
二月七日  
二月八日  
二月八日  
二月八日  
二月十五日  
二月十五日  
二月十五日

番號  
一三三四號  
一〇七九號  
五六號  
七八號  
水六八號  
一一一號  
八四號  
一一三號  
一一七四號  
一二號  
二五號  
七四號

判決結果  
破毀  
棄却  
破毀  
棄却  
棄却  
棄却  
棄却  
棄却  
棄却  
棄却  
棄却  
一部破毀

原裁判所  
名古屋  
長崎  
宮城  
大阪  
函館  
大阪  
名古屋  
名古屋  
名古屋  
宮城  
宮城  
宮城

月日目錄

丁數



二月十五日	一〇三號	棄却	大阪
二月十五日	再審七號	棄却	大阪
二月十七日	五〇號	棄却	東京
二月十七日	五四號	棄却	東京
二月十七日	一一一號	棄却	函館
二月十七日	一三〇號	棄却	函館
二月十八日	七七〇號	破毀	東京
二月十八日	一二三六號	破毀	大阪
二月十八日	二號	一部破毀	大阪
二月十八日	五號	棄却	廣島
二月十八日	八九號	一部破毀	宮城
二月二十二日	八八號	棄却	名古屋
二月二十二日	一二八號	破毀	名古屋
二月二十二日	一三五號	棄却	宮城
二月二十二日	三九號	棄却	名古屋

二月二十二日	一二〇號	破毀	宮城
二月二十二日	一五六號	棄却	大阪
二月二十二日	一六一號	棄却	廣島
二月二十四日	一〇七五號	棄却	名古屋
二月二十四日	一一六號	棄却	東京
二月二十四日	一六八號	棄却	長崎
二月二十五日	一〇二號	棄却	大阪
二月二十五日	一三二號	破毀	廣島
二月二十八日	一二一〇號	公訴棄却	東京
二月二十八日	六五號	一部破毀	函館

總計三十七件

棄却……………二十二件  
 全破破毀……………八件  
 一部破毀……………六件  
 公訴棄却……………一件  
 私訴棄却……………一件



人名音字目錄

人名	番號	原控訴院	丁數
井野安右衛門外二名 <small>被告</small>	八八號	名古屋	
原田 畊 平外二名 <small>被告</small>	一二三四號	名古屋	
袴田 德藏 <small>被告</small>	六五號	函館	
細谷佐太郎 <small>被告</small>	再審七號	大阪	
堀江久 七外一名 <small>私訴被告 上告人</small>	五〇號	東京	
沼里善重 <small>被告</small>	一二號	宮城	
大塚 公則 <small>被告</small>	一〇七九號	長崎	
大塚 善平 外三名 <small>公訴私訴 上告人</small>	五〇號	東京	
大野松次郎外一名 <small>被告</small>	五四號	東京	
大野留五郎外一名 <small>被告</small>	五四號	東京	
渡邊 淺吉 <small>被告</small>	五六八號	函館	
渡邊 又治郎 <small>被告</small>	一一三號	名古屋	

人名音字目錄



人音字目録

渡邊六三郎被告.....一一一號

川本長吉外四名公訴私訴  
上告人.....七四號

榎彌藏外一名被告.....一二八號

瀧梨純公訴私訴  
上告人.....二號

高島浩二公訴私訴  
上告人.....一三二號

高館啓次郎公訴上  
告人.....一二一〇號

相馬峰藏外一名被告.....七七〇號

相馬虎藏外一名被告.....七七〇號

拓植昇民事原  
告人.....八八號

坪治龜治外一名被告.....一二八號

水井遠被告.....一一一號

中澤勝次郎外四名公訴私訴  
上告人.....七四號

中村仙藏外二名被告.....八八號

長崎弘毅私訴被  
上告人.....一三二號

中島新作私訴上  
告人.....一二一〇號

○刑

〔か〕

〔九〕

〔三〕

〔つ〕

〔お〕

〔む〕

〔う〕

〔の〕

〔く〕

〔や〕

〔ま〕

〔こ〕

〔け〕

〔て〕

村田源四郎私訴被  
上告人.....七四號 宮城

内田彦作被告.....八四號 名古屋

延原孫次郎被告.....五號 廣島

山下石七之助外四名公訴私訴  
上告人.....七四號 宮城

山田宮太郎外二名被告.....一二三四號 名古屋

山本信三外四名公訴私訴  
上告人.....七四號 宮城

山根龜吉私訴被  
上告人.....二號 大阪

正宗勝賢被告.....一一七四號 名古屋

松井憲令被告.....一三五號 宮城

松岡高次郎被告.....三九號 名古屋

松島源七被告.....一〇二號 大阪

小澤慶太郎被告.....一〇七五號 名古屋

江口源五郎外一名私訴被  
上告人.....五〇號 東京

鐵本文吉私訴上  
告人.....五六號 宮城

照井定次郎被告.....二五號 宮城

人音字目録



人音字目録

〔あ〕

阿部 貞 義外三名公訴私訴.....五〇號 東京

阿達 治 作外三名公訴私訴.....五〇號 東京

新井 五郎 告被.....一一六號 東京

安達 兼太郎 告被.....一六八號 長崎

〔さ〕

佐藤 儀右衛門 告被.....一二〇號 宮城

坂田 貞 藏公訴上告人  
私訴被上告人.....一二一〇號 東京

〔み〕

三原 惣八 告被.....一〇三號 大阪

〔と〕

柴田 萬 吉外四名公訴私訴  
上告人.....七四號 宮號

鹿内 甚悦 告被.....一三〇號 函館

篠原 安次 告被.....一二二六號 大阪

柴田 正修 告被.....一五六號 大阪

〔ひ〕

日野 久左衛門外二名 告被.....一二二四號 名古屋

平岡 勘左衛門 告被.....七八號 大阪

平谷 喜太郎 告被.....一六一號 廣島

〔せ〕

關 俊 作外三名公訴私訴  
上告人.....五〇號 東京

○刑

〔す〕

鈴木 定次 公私訴被  
上告人.....五六號 宮城

鈴木 太義 郎 告被.....八九號 宮城

杉浦 長七 外二名 告被.....八八號 名古屋



# 大審院刑事判決錄

第四輯

第二卷

## ○私書偽造行使ノ件

明治三十年第一二二四號  
明治三十一年二月二日宣告

### ●判決要旨

受託判事ハ囑託以外ノ證人ヲ訊問スルノ權ナシ從テ其作成ニ係ル調書ハ證人  
調書トシテ効力ヲ有セス

(參照) 豫審判事ハ證人裁判所々在ノ地ニ住セサルトキハ其住居ノ地ノ區裁判所判事  
ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得若シ證人管轄地外ニ在ルトキハ其所在ノ地ノ豫審判  
事又ハ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得(刑事訴訟法第  
百三十二條)

第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 原田 研平  
山田 宮太郎

辯護人 上原 鹿造

囑託以外ノ證人調書



右畔平外二名ニ對スル私書偽造行使被告事件ニ付明治三十年十二月八日名古屋控訴院ニ於テ  
言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ  
履行シ審理スル左ノ如シ

被告辯護人上原鹿造上告理由擴張第一點ハ刑事訴訟法第三百三十二條ニヨリ證人訊問ノ囑託ヲ  
受ケタル受託判事ハ豫審判事ニアラサルカ故ニ無限ノ搜查權ヲ有スルモノニアラス單ニ依託  
ヲ受ケタル事項ヲ處理シ得ヘキノミ而シテ證人ト其立證スヘキ事實トハ相待テ離ルヘカラサ  
ルモノナルカ故ニ一ノ證人訊問ノ決定及ヒ囑託中ニハ指示シタル證人及ヒ指示シタル事實ノ  
外之ヲ包含シ得ヘキモノニアラス本件豫審判事ノ囑託取調ヲナサントセシ證人中篠田金八ナ  
ルモノアレトモ同人ハ高山區裁判所管内ニ住居セストノ事ヨリシテ同區裁判所判事ハ不法ニ  
モ撞ニ篠田金三ナルモノヲ召喚シテ之ヲ訊問シ豫審判事ノ囑託ニ應ヘタルモノナリ故ニ右金  
三ノ證言ハ正當ニ豫審判事ノ取調ヘテ受ケタルモノニアラス從テ斷罪ノ證據トナスヘキモノ  
ニアラサルニ原院カ之ヲ採用シタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ案スルニ證人篠田金三ニ  
對スル訊問調書ヲ見ルニ其冒頭ニ岐阜地方裁判所豫審判事柏木五百次郎ハ囑託ニ依リ原院畔  
平外二名カ私書偽造被告事件ニ付證人篠田金三ニ對シ訊問スル左ノ如シトアレトモ右豫審判  
事ハ囑託書ヲ見ルニ訊問ヲ囑託シタルハ篠田金八ニシテ金三ニアラス且ツ金八ハ總理代人ハ  
ハ訊問事項ニ關係セシ者ヲ隨時訊問スヘキ囑託ヲ包含シタリト認ムルニ足ルモノナシ故ニ受  
託判事ハ撞ニ其囑託以外ニ係ル金三ヲ訊問シタルモノニシテ其調書ハ正當ニ成立セシ證人

書ト云フヘカラス然ルニ原院ハ之ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ本上告論旨ノ如ク不法ニシ  
テ全部破毀ヲ免カレサルモノトス既ニ此點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スヘキモノト認ムル以  
上ハ他ノ上告論旨ハ一々説明スルノ要ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ  
原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ大阪控訴院ニ移送ス  
明治三十一年二月一日大審院第一刑事部公庭ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治三十年第一〇七九號  
明治三十一年二月三日宣告

○判決要旨

告發ハ其効ナシトスルモ告發書自體ハ文書タルノ効ヲ失ハス

(參照) 官吏公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アルト思料シタ  
ルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ告發ハ官吏公吏ノ署名捺印シタル  
書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク證據及事實參考トナルヘキ事物ヲ添フ可シ(刑事訴訟法  
第五十二條)

告發書ノ効力



第一審 佐賀地方裁判所

第二審 長崎控訴院

被告人 大塚公則

辯護人 岸 小三郎  
林 成昭

右監守盜被告事件ニ付明治三十年十月二十一日長崎控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ  
輕懲役六年ニ處シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢事長大島貞敏ハ答辯書ヲ差出し  
タルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ニ履行シ檢事安居修藏辯護士若林成昭ノ辯明ヲ  
聽キ判決スル左ノ如シ

上告趣旨ヲ要スルニ被告カ明治三十年六月縛ニ就キシハ檢事ノ發シタル勾留狀ニ起因シ同時  
ニ開席判決ノ告示ヲ受ケタリ然ルニ其告示書及勾留狀ニ據レハ被告ハ明治十八年監守盜被告  
事件ニ依リ言渡シタル開席判決ノ執行ヲ爲サンカ爲メ勾留シタルモノト如シ然レトモ被告  
ハ明治十八年一月ハ月長奉職中ニシテ本件ノ被告人トナリ開席判決ヲ受クヘキ筋合ナキコト  
ハ第二審判決理由ニ照シテモ明カナリ斯ク明治十九年一月トスヘキナ十八年一月トシタル記  
載ノ勾留狀等ハ凡テ無効ノモノニシテ其以後ノ訴訟手續ハ法律ニ違背シ結局原判決ハ不當ナ  
リト云フニ在レトモ○論旨ノ勾留狀等ノ記載ニ開席判決ヲ受タル年月ノ誤謬アリトスルモ之  
カ爲メ勾留狀等ノ無効ヲ惹起スルモノニ非サルヲ以テ勾留狀ヲ無効ナリト論争シテ上告ノ理  
由ト爲メテ得、岸若林兩辯護士ノ擴張趣旨第一ハ官吏ノ告發ハ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ之ヲ  
爲スヘキコトハ治罪法第九十六條刑事訴訟法第五十二條ノ規定スル所ナリ然ルニ神崎郡長ノ  
告發ハ警察署ノ警部補ニ爲シタルモノニシテ其告發書ハ無効ノ文書ナルニ之ヲ斷罪ノ證ニ供

ナルハ違法ナリト云フニ在リ第二ハ同上告發書ニハ所屬官署ノ押印及契印ナク又書類作成  
ノ場所ヲ明記セサルハ違法ノ文書ナルニ之ヲ證據ニ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ  
○告發ハ其効ナシトスルモ告發書其物ハ文書タルハ効ヲ失フモノニ非ス又本件ノ告發書ハ治  
罪法ニ依リ作成スヘキ文書ニ非サルヲ以テ同法第二十五條ノ法式ニ欠クル所アルモ之ヲ無効  
ナリトセス故ニ原院カ告發書ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ニ非ス第二擴張ノ要旨ハ本  
件ノ豫審ハ開席ノ儘決定シタルモノニシテ其決定書ハ本人ニ送達セサルハ勿論治罪法ノ規定  
ニ依リ猶豫期限ヲ公示セサレハ右決定ハ未確定ニシテ公判ヲ開クコトヲ得サル筈ナルニ公判  
ヲ開キ開席判決ヲ爲シ其後ノ手續ヲ繼續シタルハ豫審決定ニ對シ上訴權ヲ不法ニ剝奪シタル  
違法アリト云フニ在レトモ○本件訴訟記録ヲ査閱スルニ豫審終結ノ言渡書ヲ被告本人ニ送達  
スルコト能ハサルヲ以テ治罪法第二百六十九條第二項ニ從ヒ告發書ヲ被告ノ親族タル大塚ノ  
ミニ送達シタルコト明瞭ナレハ論旨ノ如キ違法ナシトス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十一年二月三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス



○冒認私訴ノ件 明治三十一年第五六號  
明治三十一年二月四日宣告

○判決要旨

第二審ニ於テ控訴ノ棄却又ハ一審判決ノ取消ヲ言渡サ、ル裁判ハ刑事訴訟法第二百六十一條ノ法則ヲ適用セサル不法アリ

(參照) 控訴裁判所ニ於テハ控訴ノ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ

シ控訴ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲナス可シ(刑事訴訟法第(二百六十一條))

第一審 仙臺地方裁判所古川支部 第二審 宮城控訴院

私訴上告人 鐵 本文吉 辯護人 高木益太郎

私訴被上告人 鈴木定次

右當事者間ノ私訴事件ニ付明治三十年十二月二十日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ照々ス右文吉ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

辯護人高木益太郎上告辯明ノ第二點ハ本件第一審判決主文ニハ被告文吉ハ金二十一圓二十八錢ヲ民事原告人ニ辨償スヘシ私訴ニ係ル費用ハ被告ノ負擔タルヘシトアリテ乃チ上告人ハ該判決ニ對シ全部控訴ノ申立ヲ爲シタルモノナルヲ以テ原院ハ之ヲ判定スルニ當リテハ其判決主文ニ於テ控訴棄却ノ判決ヲナス歟將々第一審判決ヲ取消シ更ニ相當ノ判決ヲナス乎二者其

一ヲ據マサルヘカラス然ルニ原院ノ措置爰ニ於テス單ニ被告ハ民事原告人へ金二拾一圓二十八錢ヲ辨償ス可シ私訴費用ハ被告ノ負擔トスト言渡タルハ法則違反ノ裁判ナリト云フニ在リ  
○依テ案スルニ原院ハ判決主文ニ於テ被告ハ民事原告人へ金貳拾一圓二十八錢ヲ辨償ス可シ私訴費用ハ被告ノ負擔トスト言渡シ其結局ハ第一審判決ト同一ナリ而シテ原院ハ此判決ヲ爲シタルハ第一審判決ヲ認可シタルモノナルカ果シテ然ラハ被告ノ控訴ヲ棄却スル旨言渡スヘシ或ハ更ニ相當ノ判決ヲ爲シタルノ意カ果シテ然ラハ第一審判決ヲ取消サハルヘカチ不然ニ判決ノ如何ナル部分ニ於テモ之ヲ取消シタル旨ノ記載ナシ即チ原判決ハ本訴旨ノ如何カ刑事訴訟法第二百六十一條ノ規定ニ違背シタル不法ハ裁判ニシテ全部破毀ヲ免カレサルモハトス既ニ此點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スヘキモノト認ムル已上ハ他ノ上告論旨ハ一々説明セズ右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條同第二百九十九條第二項ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

原判決ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ東京控訴院民事部ニ移送ス  
明治三十一年二月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス



○私書變造詐欺取財ノ件

明治三十一年第七八號  
明治三十一年二月四日告示

○判決要旨

文字ヲ描改シテ全然性質相異ナル文書ヲ作成シタル所爲ハ私書ノ變造ニアラ  
ズシテ偽造ナリ

第一審 福井地方裁判所小濱支部 第二審 大阪控訴院

被告人 平岡勘左衛門

右私書變造詐欺取財被告事件ニ付明治三十年十二月十八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決  
ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ本院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審  
判スル左ノ如シ

上告趣意書及ヒ上告辯明書ハ宛長ニシテ論旨錯雜ナルモ之ヲ要約スルニ原判決ニ於テ被告カ  
偽造シタルモノト認メタル湯屋樂業届ハ全ク高橋常吉ノ依頼ニヨリ同人ノ日前ニ於テ被告カ  
認メタルモノニシテ真正ノ届書ナルコトハ乙第四號五號證及ヒ明治三十年八月四日ノ證據物  
並ニ假約定證ニ依リ明カナリ然ルニ原判決ハ之ヲ被告カ偽造シタルモノトナシタルノミナラ  
ズ其理由ヲ見ルニ湯屋樂業届ト題スル届書ヲ造リ同人ヲシテ之ニ捺印セシメ其届方ノ委任ヲ  
受ケタル後休ノ字ヲ廢ノ字ニ改描シ云々トアリ是レ偽造ニアラスシテ變造ナレハ假リニ有罪  
ト爲スモ疑律ノ錯誤ナリ又其休業届ト題スル書面ヲ造リタル證據ハ何レニアルヤ被告ノ證據

ヲ採用セサルモノナレハ之カ理由ヲ付セサル可ラス況ンヤ詐欺取財ナリト云フニ至リテハ甚  
シキ疑點ニシテ被告カ堀本一真山本仁三郎岡本彌助ヨリ受取メタル金圓ニ付テハ一真ニ於テ  
ハ被告ニ差遣ハシタルモノト云ヒ岡本彌助等ニ於テハ熱談ノ上其金圓ヲ一先取戻シ借用證據  
ヲ一真及ヒ被告ヨリ差入レタリト云フニ依リ被告ハ拾圓ノ詐欺ニ罹リタルモノナルニ於テチ  
ヤ假リニ之ヲ有罪ト爲スモ被告カ實ヒ受タル拾五圓ノ内拾圓ハ賠償シタルヲ以テ法律上減等  
スヘキモノナリト云フニ在リ○然レトモ諸證ノ證據ニ據リ事實ヲ認定スルコトハ原院ノ職權  
ニ屬シ檢ノ容喙ヲ許サズ被告ハ私書ヲ偽造行使シテ詐欺取財ヲ爲シタルコトナシト主張ハ  
即チ右原院ノ事實認定ヲ非難スルモノニシテ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノナリ又被告  
ハ休業届ハ休ノ字ヲ改描シテ廢ノ字ト爲シ以テ其性質全ク相異ナル廢業届ヲ作爲シタルニ在  
レハ原院カ之ヲ私書偽造ナリトシテ處斷シタルハ相當ニシテ疑律ハ錯誤ニアラス又事主ニ金  
拾圓ヲ賠償シタリトノ事ハ原判決ニ認メサル所ナルノミナラス右被告ノ云フ所ニ依ルモ事後  
之ヲ賠償シタルニ在レハ減輕ヲ受クルノ限リニアラス本論旨モ理由ナシトス又被告ハ原院カ  
被告提出ノ證據ヲ採用セザリシ理由ヲ付セザリシコトヲ難セントモ凡ソ刑事判決ニハ其認メ  
タル事實ノ理由ト之ヲ處分スヘキ法律ノ理由トヲ明示スルコトヲ要スルモ其證據ヲ取捨シタ  
ル理由ノ如キハ之ヲ示スコトヲ要セス故ニ原判決ハ此點ニ於テモ亦不法アルコトナシ  
右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十一年二月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス



○詐欺取財ノ件 明治三十一年二月七日宣旨

○判決要旨

斗概ハ量器ノ一部ナリ

自製ノ斗概ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリ

(参照) 度量衡器ヲ製作シ修覆シ若クハ販賣セント欲スル者ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ願出免許ヲ受クヘシ(度量衡法第(八)條第一項)

度量衡器ヲ製作シ修覆シ若クハ輸入シテ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用スル者ハ豫メ其檢定ヲ受ヘシ(度量衡法第(九)條第一項)

量器ハ外側ニ其全量ヲ表記シ斗概ハ切口ニ其種類ノ大中小ヲ表記スヘシ(度量衡法施行規則第十條)

第一審 函館地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 渡邊淺吉 辯護人 (八木橋榮吉 (齋藤二郎)

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十年十二月二十三日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ

被告並ニ辯護人八木橋榮吉ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告ノ上告趣意書第一點ハ原院ハ本訴一舛枘ノ内部ニ據リ付着シ且弦鐵ノ曲リタル點ヲ以テ定規ノ増減トシ刑法第二百九條ヲ適用シタルモ同條ニ所謂定規ノ増減トハ度量衡法ニ定メラレタル量器ノ形狀及ヒ要件ノ増減換言スレハ其構造ノ増減ナラサル可カラズ故ニ原院認定ノ如ク故意ニ米糠ヲ付着セシメタリトスルモ構造自體ニ何等ノ行爲ヲ施シタルモノニ非ス又弦鐵ニ付テモ單ニ屈曲セルノミニシテ弦鐵自身ニ對シ何等ノ増減ヲ加ヘタルコトナクレハ差狂ノ爲メ分量ニ増減ヲ來シタリトスルモ度量衡法若クハ其他ノ犯罪トスルハ格別定規ヲ増減シタルモノトシテ刑法第二百二十九條ヲ適用シタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ノ認メタル如ク定規ノ一舛枘ノ内部ニ據リ付着シ及ヒ弦鐵ヲ内方ニ押シ曲ケ以テ容量ヲ減シタル事實ナルニ於テハ則チ刑法第二百二十九條ニ所謂定規ヲ増減シタル度量衡ニ該當スルコト勿論ナルヲ以テ原院カ同條ニ依リテ處斷シタルハ相當ナリトス同第二點ハ原院ハ「一個ハ二夕六一個ハ二夕二六六ノ容量ヲ減シタルモノ云々其減シタル容量ノ代金ヲ不正ニ利得シタルモノナリト」言渡シタルモ其減シタル容量ノ代金トハ二夕六及ヒ二夕二六六ニ對スル米ノ代金ナルヲ又ハ米小賣中ノ總テノ減量ノ代金ナルヲ之ヲ知ルニ由ナク又不正ニ利得シタリト云フモ其減シタル數重及ヒ其得タル金額ヲ明示セス又其被害者ヲ指示セサルノ理由ヲ欠キタル裁判ナリト云フニ在リ○然レトモ右ノ疑點ハ何レモ本件詐欺取財ノ構成ニ關係ナキモノナルヲ



以テ之ニ對スル說明ヲ欠キタリトスルモ裁判ニ理由ヲ付セサルモノト謂フヲ得ス從テ原判決ノ瑕疵トナルコトナシ

辯護人齋藤二郎上告論旨擴張第一點ハ原判決中「自製ノ斗概二個トテ使用シ以テ其減シタル容量ノ代金ヲ不正ニ利得シタルモノナリ」トアレトモ右自製ノ斗概ヲ使用シ若干ノ容量ヲ減少シタルカカ明示ナキヲ以テ若干ノ代金ヲ不正ニ利得シタルモノナルヤ之ヲ知ルニ由ナシ云々ト云フニ在リテ上告趣意書第二點ノ論旨ト全ク同一ナルヲ以テ重テ裁明ヲ與フル要ナシ同第二點ハ原判決ヲ關スルニ自製ノ斗概ヲ使用シタル所爲モ尙ホ刑法第二百二十九條ヲ犯シタルモノト判決セルカ如シ果シテ然レハ是擬律錯誤ノ判決ナリ何トナレハ刑法第二百二十九條第一項ハ商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ヲ處罰スルノ法條ナリ而シテ度量衡法カ定規ト認ムル形式ヲ全然具備セサル本件自製ノ斗概ハ即チ定規度量器ニ非ス從テ之ヲ使用シ又ハ増減シタリトスルモ定規度量器ヲ使用増減シタルモノニ該當セス然ルニ之ヲ刑法第二百二十九條ニ同擬シタルハ不法ナリ若シ又原院ハ自製ノ斗概ヲ使用シタル所爲ニ對シ自製ノ斗概二個ヲ使用シタルノ所爲トハ各獨立ノ所爲ナレハ之ニ對シ各別ニ之ニ該當スヘキ刑法ノ正條ヲ明示セサル可ラサルニ其明示ナキヲ以テ何レニシテモ原判決ハ不當ナリト云フニ在リ○依テ原判決文ヲ附スルニ自製ノ斗概ヲ使用シタル所爲ニ付テハ上告論旨後段ノ如ク刑法ヲ適用シタル者ニ非ス故ニ原判決ハ上告論旨前段ノ如キ不法ナシ又該所爲ニ對シ刑法ヲ

適用スヘシトノ後段ノ論旨ハ被告ノ不利益ニ歸スヘキモノナルヲ以テ被告ノ上告理由トナスヲ得ス同第三點ハ原判決中ニ所謂自製ノ斗概ハ刑法第二百二十九條ヲ以テ同擬スヘキ定規ノ度量器ニ非ストセハ之ヲ使用シタリトスルモ該條ニ依リ處罰スヘキモノニ非サルヤ明ナリ其シテ然レハ該器ハ禁制品ニ非サルヲ以テ沒收スヘキモノニ非サルナリ然ルニ原院カ之ニ對シ沒收ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリ若シ又犯罪ノ用ニ供シタルモノトシテ處斷シタルモノトセンカ宜ク其法條ヲ明示スヘキ答ナルニ單ニ刑法第四十三條ニ依リ沒收ストアルノミニシテ同條何號ニ該當スルヤ知ルニ由ナキ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○然レトモ度量器ヲ製作スル者ハ免許ヲ受ケ且其檢定ヲ受ケサル可カラサルコト及斗概ハ度量器ノ一部ナルコトハ度量衡法第八條第九條及ヒ度量衡法施行規則第十條ニ依リ明白ナルヲ以テ既ニ自製ノ斗概ト認メタル上ハ之ヲ應禁物トシ刑法第四十三條ニ依リ沒收ノ旨渡ラ爲スハ相當ニシテ且其應禁物タル事實ハ明示アル上ハ同條第一號ニ依リタルコト勿論ナルヲ以テ特ニ之ヲ明示セサルモ不法ト云フヲ得フ同第四點ハ第一審判決原本ニ掲ケタル法條ト第二審判決原本ニ掲ケタル法條ト適用上差違アルニ拘ハラス原院カ此點ニ付キ第一審判決ヲ取消サレハ不法ナリ又本件ニ付檢事ノ控訴ナキニ拘ハラス第一審裁判所ニ於テ旨渡サレハ公訴裁判費用ヲ第二審ニ至リ之ヲ被告ニ負担セシメタルハ刑事訴訟法第二百六十五條ニ違背シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院ハ第一審判決ニ於ケル事實ノ認定ヲ不當ナリトシ之ヲ取消シタル上更ニ判決ヲ爲シタルモノナルヲ以テ其他ニ不當ノ點アルモ取消ノ理由トシテ一々之ヲ説示スルノ要ナキモノトス



又原院ノ言渡シタル公訴裁判費用ハ原院ニ於テ新ニ生シタルモノナルコト明瞭ナルヲ以テ之  
 カ買渡ノ旨渡ヲ爲シタルハトテ第一審判決ヲ變更シタルモノト謂フヲ得ス同第五點ハ原判決  
 ニ其事實ハ聽取書云々トアリ然ルニ一件記録中ニ聽取書ナルモノニ通アルヲ以テ其三通ヲ共  
 ニ取リタルカ又ハ其一ヲ取リタルカ之ヲ知ルニ由ナク即チ犯罪ノ證據ヲ明示セサル不法ノ裁  
 判ナリト云フニ在レトモ○單ニ聽取書トアルニ於テハ則チ記録中ノ總テノ聽取書ヲ採リタル  
 コト勿論ナルヲ以テ證據ノ明示ナキモノト謂フヲ得ス同第六點ハ本件被告ノ所爲ハ原判決ノ  
 如ク刑法第二百二十九條第二項及ヒ第一項ヲ適用スヘキモノトセンカ右第二項ト第一項トハ  
 二個ノ所爲ニ對スル處罰ヲ規定シタルモノナレハ宜シク數罪俱發ノ例ニ依リ刑法第百條ヲ適  
 用スヘキモノナルニ之ヲ適用セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件ハ刑法第二百二十九  
 條第二項ニ該當スルモノトシテ處罰シテ其第一項ヲ引用シタルハ第二項ニ所謂其度量衡  
 トナル文意ヲ明ニスルカ爲ナルコト判文上明瞭ナルヲ以テ刑法第百條ヲ適用セサルハ當然ナ  
 リトス同第七點ハ刑法第二百二十九條第二項ニ依リ處斷セラルヘキモノハ刑法第三百九十二  
 條ニ依リ處罰スヘキモノナリ然ルニ原院カ第三百九十九條第一項ノミニ依リ處斷シタルハ不法  
 ナリト云フニ在レトモ○刑法第三百九十二條ニハ詐欺取財ヲ以テ論ストアリテ直ニ之ヲ詐欺  
 取財ノ罪ト云フヲ得ス則チ詐欺取財ノ罪トハ刑法第三百九十九條第一項ニ明言スル如ク人ヲ欺  
 瞞シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シトアルヲ云フナリ  
 故ニ原院カ同條ヲ適用シタルハ相當ナリトス

辯護人八木橋榮吉ノ上告趣意書ハ被告ノ上告趣意書ト全ク同一ナルモ元來被告ノ  
 代ハリテ上訴スルヲ得ヘキモノナルヲ以テ本件ノ如キ被告自ラ上告ヲ爲シタル事ニ就テハ  
 辯護人ノ上告ハ併立スヘキモノニ非ス依テ該上告ハ之ヲ受理スヘキモノニ非ス  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十一年二月七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○官私印官私文書偽造行使ノ件

明治三十年第一二二二號  
明治三十一年二月八日宣告

○判決要旨

詐欺取財ヲ爲スニ因テ數通ノ文書ヲ偽造行使シタルトキハ刑法第三百九十條  
 第二項ニ則リ一ノ重キ所爲ニ從ヒ處斷スヘキモノニシテ數罪トシテ處斷スヘ  
 キモノニアラス(第三輯第十一卷十六丁登載明治三十年第一二二二號判決參照)  
 (參照) 人ヲ欺瞞シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト  
 爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ罰金ヲ附加ス(因テ官私  
 詐欺取財ニ基ク文書偽造



ソ文書ニ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑法第三

十條)

第一審 金澤地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 永井 道 辯護人 朝倉外茂殿

右官私印官私文書偽造私書變造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年十月二十八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第三百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ハ原判文中原判決ハ云々酌量減等ヲ爲スヘキ理由ナキニ一審ヲ減輕シタルコト云々不當アリト雖トモ本件ハ被告ノミノ控訴ナルヲ以テ被告ノ不利ニ原判決ヲ變更セストアリ然ルニ原院ニ於テハ第八十九條第九十條ノ適用ヲナス均ク七年ノ輕懲役ニ處セラレタルハ理由ニ顯露アルノミナラス被告利益ニ認メラレタル事實ヲ埋没シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ於テ被告ノ犯罪中重懲役ニ該當スヘキ偽造官印行使ノ罪ヲ重シトシタルニ拘ハラス輕懲役七年ニ處シタルハ酌量減輕ノ法規ニ基キメルニアラスシテ被告ノ不利ニ第一審判決ヲ變更セストノ規定ニ從ヒタルモノナレハ原院カ刑法第八十九條第九十條ヲ適用セザルハ相當ノ判決ニシテ理由ノ顯露又ハ被告利益ノ事實ヲ埋没シタル不法ノ罪ノ原ノルコトナシ辯護人朝倉外茂殿上告追加理由ノ第一ハ原判決法律適用ノ部ニ四個ノ文書偽造行使ノ所爲ヲ刑法第三百條ニ照シ云々實返約定證ニ偽造行使シタル所爲ヲ最モ重シト認メ云々トアルハ適用

スヘキ法律ノ條項ヲ明示セサル不法アルモノナリ何トナレハ刑法第三百條ニハ三項ノ規定アリテ各其趣旨ヲ異ニスルモノナルニ本件四個ノ文書偽造行使ノ所爲ニハ何レノ項ヲ適用シタルヤ明カナラサルヲ以テナリト云フニ在リ○依テ原判決法律適用ノ部ヲ閱スルニ(前掲)文書偽造行使ニ因レテ詐欺取財未遂ナルヲ以テ同法第三百九十條二項ニ照シ重キニ從ノヘキモノナルヲ以テ四個ノ文書偽造行使ノ所爲ヲ同法第三百九十條二項ニ照シ重キニ從ノヘキモノナルヲ以テ四個ノ文書偽造行使シタル所爲ヲ最モ重シト認メ其最重ノ文書偽造行使ノ所爲ト詐欺取財未遂ノ所爲トヲ比較スルニ尙ホ文書偽造行使ノ行爲重キヲ以テ其一ニ從ノヘキモノトアレトモ詐欺取財ヲ目的トスル數個ノ文書偽造行使アルトキハ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シ一ハ重キモノニ從ヒ處斷スヘキモノニシテ其數個ノ文書偽造行使ヲ數罪トシ同法第三百九十條ヲ適用スヘキモノニアラス然ルニ原院ニ於テ其數個ノ文書偽造行使ニ對シ刑法第三百九十條ヲ適用シタルハ擬律錯誤タルヲ免カレシ既ニ同條ノ適用ニシテ擬律ノ錯誤タル上ハ同條ノ適用ヲ是認シ其項目ノ適否ニ付之レカ當否ヲ説明スルヲ得ヘキモノニアラザルハ本論旨ハ結局理由アルモノニ歸ス故ニ此點ニ付テ原判決ハ破毀スヘキ原因アルモノトス其第二ハ原判決中實返約定書中ノ明瞭印影並ニ仕切書中ノ明瞭ノ印影ハ之ヲ沒收シタルハ不法ナリ何トナレハ明瞭ナル印影ハ一個ノミナルニ前文既ニ沒收ノ言渡アルノミナラス証書中ノ印影トハ如何ナル意ナルヤ全然解スル能ハサルカ故ナリト云フニ在レトモ○印影ト印影トハ同視スヘキモノニアラザレハ其印影ニ付沒收ノ言渡シアリトシテ文書中ニ押捺シアル印影ヲ沒收スルニ於テ執行上妨ケ



ナキノミナラス其意義ノ解説ニ苦シムヘキノ謂レナシ故ニ本論旨ハ其理由ナシ  
因テ辯護士上告追加理由第一點ニ基キ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決疑律ノ部分ヲ  
破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

右

永井 遠

原院ノ認メタル事實ニ依リ被告カ前審相被告等ト共謀シ明証ノ印ヲ偽造シ之ヲ賣返約証  
ニ通過認約定証哇畔廢除取調書地價取調届書(即チ誤謬地訂正願書)仕切書二通ニ押捺シテ行使  
シタル所爲ハ各刑法第二百八條一項第二百二十二條追認約定証及明治十七年六月五日付地所買  
受ニ付賣返シ約約定証ヲ偽造行使シタル所爲ハ各同法第二百十條一項第二百十二條哇畔廢除取  
調書及ヒ數種ノ書類ヲ添綴シテ誤謬地訂正願書ヲ偽造行使シタルハ各同法第二百十條二項第  
二百十二條障礙ニ因リ未タ詐欺取財ヲ遂ケサリシ所爲ハ同法第三百九十四條第三百九十四條第  
三百九十七條第三百九十二條ニ該當シ既ニ遂ケタルモノト刑ニ一等ヲ減スヘキモノナルモ以上ノ  
文書偽造行使ハ詐欺取財ニ因レルモノナルヲ以テ同法第三百九十條二項ニ照シ一ノ賣返約  
証偽造行使ヲ重シトス被告一名ニ關スル官印偽造行使ノ所爲ハ共ニ同法第九十五條官吏ノ  
公証シタル文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ同法第二百四條一項ニ該當シ右官印偽造行使ハ公証  
文書偽造行使ニ因ルヲ以テ同法第二百六條ニ照シ各官印ノ偽造行使ヲ重シトス宮村カク名義  
ヲ記シタル借用金證書並ニ延期證書ヲ偽造行使シタルハ共ニ同法第二百十條一項第二百十二

條ニ該當ス以上數罪俱發スルヲ以テ同法第百條ニ照シ第六ノ事實ニ於ケル官印偽造行使ノ所  
爲ヲ最モ重トシ重懲役ニ該レリ而シテ此所爲ニ對シテハ酌量減等ヲ爲スヘキ理由ナキニ第一  
審判決ニ於テ一等ヲ減シ輕懲役七年ニ處シタルハ失當ナリト雖トモ本件ハ元ト被告ノミ  
ニ係ルヲ以テ被告ノ不利益ニ原判決ヲ變更セス依テ被告遠チ輕懲役七年ニ處ス  
其他ハ原判決ノ通り

明治三十一年二月八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十一年第八四號  
明治三十一年二月八日宣告

○判決要旨

詐欺取財ニ於ケル欺罔ノ手段ハ積極的行爲ヲ必要トセス

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 内田彦作 辯護人 (長島 鷲太郎 花井 卓藏)

右彦作ニ對スル詐欺取財被告事件ニ付明治三十年十二月二十七日名古屋控訴院ニ於テ言渡シ  
タル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ

欺罔ノ手段



被告彦作上告趣意第一原院「彦作ハ之ヲ受取リ現金ニテト思ヒ居リシニ是レハ現金引替切符  
 タナト偽語シ以テ長左衛門ヲシテ有紙片ヲ真正ノ切符ナリト誤信セシメ云々」トノ理由ヲ付シ  
 毫モ被告ニ積極的欺問ナカリシコトハ之ヲ認メナカラ他ニ何等ノ理由ヲ示サス直チニ有罪ノ  
 判決ヲ爲セシハ事實ノ理由チ欠クモノナリ云々ト云フニアレトモ○欺問ハ手段タル積極的行  
 爲ヲ必要トセテ苟モ或ハ手段ヲ施シテ人ヲ騙腐ハルニ足ルヘキモノハナルニ於テハ詐欺取財罪  
 ヲ構成スルニ十分ナリ況ンヤ右揭示シタル原院ハ認定ハ事實ハ欺問ハ手段ト認ムルニ餘アル  
 ヲ以テ原判決ハ理由不備ハ不法アリト云フヘカハラハ其第二ハ原判決ハ公判廷ニ於テ刑罰ヲ爲  
 サル書面ノミヲ斷罪ノ具ニ供シ毫モ訟廷ニ現ハレタル證據ニ據ラザリシハ不法ナリ假リニ  
 原院ノ示セシ告訴狀及豫審調查ニ依リ内田彦作ナル者ニ非行アリト認ムルコトヲ得ルトスル  
 當被告ノ供述ハ絶テ證據ヲ探ラザリシカ故ニ各證人ノ所謂内田彦作ト原訟廷ニ出頭セシ當  
 被告タル内田彦作トハ果シテ人違ナキヤ否チ知ルニ由ナシ結局原判決ハ證據ノ明示チ欠キタ  
 ルモノト信ス加之第一審廷カ訴訟記録中ニナキ菱田金次郎ノ豫審調查ヲ證據ニ採リタル點ニ  
 對シ原院ハ金次郎ノ誤記ト認メト云フカ如キハ不法ノ認定ナリト云フニ在レトモ○原告開始  
 求書ヲ見ルニ證據書類ハ被告等ニ於テ異議ナキヲ以テ其刑罰ヲ省畧シ物件ハ之ヲ被告ニ示シ  
 且ツ各其辯解ヲ促シアレハ本論旨ノ前段ハ謂ハレナシ中段後段ハ結局原院ノ職權ニ專屬スル  
 事實ノ認定チ非難スルモノニ過キサレハ共ニ上告適法ノ理由トナラス」其第三點ハ要スルニ原

判決ハ刑法第三百九十條ノ刑罰範圍ヲ示サス又押収物件還付ニ付如何ナル法則ニ依リシカチ  
 示サレハ共ニ理由不備ナリト云フニ在レトモ○適用スヘキ法條ヲ示シタル已上ハ其範圍ヲ  
 示サレルモ其科シタル刑罰法條ニ定メタル範圍内ナルトハ一モ違法ノコトナキヲ以テ之ヲ理  
 由不備ト云フヘカラス又還付ノ旨渡ハ刑ノ旨渡ニアラサルヲ以テ法條ヲ示サレルモ理由不備  
 ノ不法アリト云フヘカラス旁本論旨モ亦上告適法ノ理由ナシ」其第四點ハ第一審判決ハ彦作ニ  
 有罪ヲ梅三郎ニ無罪ヲ旨渡シ押収物件ニ付テハ還附チ旨渡シタルニ原院ハ之ニ對シ原判決ニ  
 於テ被告梅三郎ニ對シ無罪ノ旨渡シタルハ失當ニシテ檢察ノ控訴ハ其理由アリ其他ハ  
 總テ相當ニシテ被告彦作ノ控訴ハ其理由ナシ」ト判決セシモノナレハ此理由ニ依レハ原院カ失  
 當ト認メタルハ單ニ梅三郎ニ對スル無罪ノ旨渡ノ點ノミニ存スルコト明クシ然ルニ後段主文  
 ニ於テ更ニ押収物件ニ對シ還附ノ旨渡ヲ爲セシニ依テ見レハ此點ニ對シテモ亦第一審判決ヲ  
 取消シタルモノノ如シ何トナレハ取消サザレ一審判決ハ十分判決ノ効力ヲ保ツカ故ニ之ヲ取  
 消サル限リハ再ヒ原院ニ於テ其旨渡ヲ重複スルノ必要ナキハ勿論此ノ如キハ一事再判ノ不  
 法ヲ免レサル所ナレハ原院カ新タニ押収物件還付ノ旨渡ヲ爲セシハ此點ニ對スル一審判決ヲ  
 モ失當トシテ取消シタルモノト解スルノ外ナケレハナリ故ニ原判決ハ前後ノ理由顯顯アル不  
 法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○記録中押収ニ係ル書類ヲ見ルニ其押收處分ハ獨リ被告彦作  
 ニ對スルモノノミニアラサレハ原院ニ於テ被告ニ對シテ旨渡シタル判決ハ被告彦作ノ控訴ハ  
 之ヲ棄却スト云フニ在レトモ其餘ノ部分ハ總テ梅三郎ニ關シタルモノナルコト論ヲ竣タス故



ニ本論旨ハ梅三郎ニ對スル判決ニ付不服ヲ唱フルニ過キサレハ被告彦作ノ上告理由トナルヘキモノニアラス辯護人長島鷲太郎花井卓藏上告趣意擴張第一點ハ第一審裁判所ハ本件ヲ以テ被告人ノ單獨ノ行爲ナリト判定シ被告鬼頭梅三郎ニ對シテハ加功ノ證據十分ナラストシテ無罪ヲ言渡シタリ然ルニ原院ハ之ニ反シ本件ヲ以テ被告兩名ノ行爲トシ兩人共有罪ノ言渡ナシタリ夫レ斯ノ如ク兩審互ニ事實ノ認定ヲ異ニシナカラ被告人ノ控訴ヲ理由ナキモノトシテ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○梅三郎ノ有罪ナルト否トハ被告ニ毫モ影響ナキ處ニシテ被告ニ對スル事實認定法律適用ハ第一審判決ト同一ニシテ變更ヲ生スヘキモノニアラサレハ原院カ被告梅三郎ニ對シ第一審判決ヲ變更シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタルニ拘ハラズ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ固ヨリ當然ノコトトス依テ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十一年二月八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○偽證教唆ノ件

明治三十一年第一一三號  
明治三十一年二月八日宣告

○判決要旨

豫審請求書ノ日付ニ著シキ誤謬アルモ他ノ文書ニ依テ其誤謬ヲ推認シ得ヘキトキハ該書面ハ有効ノ文書ナリ

第一審 名古屋地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人 渡邊又治郎

右又治郎カ偽證教唆被告事件ニ付明治三十一年一月十七日名古屋控訴院ニ於テ公訴不受理ノ判決ヲ爲シタルニ對シ同院檢事長加納謙ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ請求シ被告ハ上告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

上告趣意第一點ハ文字ノ改竄ハ法律ノ禁スル所ナレハ其之ヲ爲シタルハ無効ナリ然レトモ之カ爲メ文書全體ノ無効ヲ來ス可キモノニ非ス只其變更ノ効ナキノミ之レ詢ニ刑事訴訟法第二十一條ノ明文ヲ俟テ然リ然ラハ即チ本案件ノ豫審請求書ハ何故ニ同第二十条ノ所謂年月日記載ナキ無効ノ文書ト爲ルヘキヤ其改竄ノ効ナシトモハ即チ原判文ニ認ムルハ如ク明治二十年十一月十日ノ日付ヲ有スル文書ヲ存スヘシ果シテ然ラハ全然年月日記載セサル文書ニアラスニテ形式上同第二十条ノ要件ヲ具備スル有効ノ文書ナリ然ルニ原院ニ於テ無効ト

豫審請求書ノ日付誤記



論スルハ豫審ノ受付日時及ヒ告發書其他ノ書類ニ徴シテ一見其作成ノ日附ニアラサルコト明白ナルヲ以テ全然年月日ヲ記載セサルモノト同一ニ歸スト云フニ過キス依是觀之ハ全然年月日記載ナキ文書ナリト云フニアラスシテ形體上記載アル年月日ヲ認定權内ニ於テ記載ナキモノト等ク解釋シタルモノニシテ全ク何等年月日ノ存在セサルモノト同一ナラサルコト明白ナリ凡ソ官吏ノ作ルヘキ文書ニ年月日ヲ必要トスルハ其書類作成ノ當時本人ノ在職中ナルコトヲ證スル爲メノミナラス或ハ公訴權ノ存否時効中斷ノ證ト爲ル等至大ノ關係ヲ有スルモノナレハ其之レナキ時ハ文書其者ヲ無効ト爲シ且ツ其他ノ證ヲ以テ補充スルヲ許ササルコト夫レ或ハ理アラン而カモ尙ホ之レ同法第二十條ノ明文ヲ要ス然ルニ苟モ形體上明治二十年十一月十日ト存在スル上ハ直ニ以テ同條ノ所謂年月日記載ナキ文書ナリト云フヲ得サルヲ以テ當然同條ニ據リ無効ナリト謂フ可カラズ故ニ原院ニ於テモ其廿ハ果シテ文書作成ノ年度ナルヤ否ヤヲ一件書類ニ徴シテ解釋ヲ爲シ廿ハ即チ文書作成ノ年度ニアラント認定シタル所以ナリ果シテ然ラハ則チ此形體上存在スル年月日ヲ存在ヲシト解釋シタル推論ヲ以テ又何カ故ニ廿ハ「廿」ノ誤謬ナリト解釋スル能ハサルノ所アラザラン即原院ニ於テ「有」無」解釋ノルノ資料ニ援用シタル豫審受付日時及ヒ列事ノ告發書其他一件書類ニ徴スレハ其起訴ハ明治三十年十一月十日ナルコト乃至ハ廿ハ活字ノ誤謬ナルヲ以テ「廿」改描マシモノナリシコト一見炳然トシテ甚タ断カナリ斯ノ如ク全然存在セサルニアラフシテ形體上存在スル年月日中誤謬タルコト明白ナル文アル場合ニ於テハ其誤字ヲ解釋補正スルコトトシテ不法ニアラザルヲ信ス之ヲ大審院

ノ判決例二十九第四七二號事件判文ノ論旨ニ據リ本案件ノ豫審請求書ノ効力如何ヲ稽フレハ決シテ刑事訴訟法第二十條ニ違背スル當然無効ノ文書ニアラスシテ解釋ヲ以テ文字ノ誤謬ヲ認定補正シ得ヘキ有効ノ文書タルコト毫モ疑ナカレヘキナリ原判決公訴不受理ヲ言渡シタル不法ノ判決タレテ免レスト云フニ在リ○依テ一件記録ヲ查閱スルニ本件被告ニ對スル豫審請求書ハ日付ハ明治三十年十一月十日トアルモ其廿ハ元ト活版ニテ廿トアリシヲ改描シタルモノニシテ其變更ノ効ナキニ因リ其日付ハ明治二十年十一月十日ナル下及ヒ其請求書作成ノ日ハ明治二十年十一月十日ニハラサルコトハ原判決ノ說明ノ如シ然レトモ其廿ハ「廿」ノ誤謬ニシテ其作成ノ日ハ明治三十年十一月十日ナルコトハ原判決ニ援引セシ被告ニ對スル豫審請求書ハ告發書本豫審請求書ハ押捺シアル受付印ノ年月日及其他ノ書類ニ徴シテ一點ノ疑ヲ容ルハハ餘地ナク隨テ其改描ノ原因モ之ニ外ナラサルヲ推認シ得ヘキナリ然ラハ本件豫審請求書ハ其作成ノ日付ナキニ非スシテ只其日付中著シキ誤謬アルニ過キサルナリ然ルニ原院カ該豫審請求書ハ其作成ノ日付ヲ欠クモノト爲シ以テ其起訴ハ効ナキモノト論結シ公訴不受理ノ言渡ヲ爲シタルハ上告論旨ノ如ク不法ノ判決タルヲ免レシテ破毀ノ原因アルモノトス既ニ此點ニ於テ原判決ハ破毀スヘキモノト認ムル以上ハ他ノ上告論點ニ對シ説明スルノ要ナシ右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百六十二條ヲ準用シ原判決ヲ破毀シ本案ノ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ニ差戻ス

明治三十一年二月八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス



○私印盗用等ノ件

明治三十年第一一七四號  
明治三十一年二月十五日宣告

○判決要旨

辯護人選定届ニ被告人ノ捺印ナキモノハ適式ノ辯護届ニ非ス

第一審 横濱地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 正宗勝賢

辯護人

高木彦太郎  
藤原吉郎

右私印盗用私書偽造行使詐欺取財未遂被告事件ノ控訴ニ付明治三十年十一月二十六日名古屋控訴院ニ於テ審理ノ末原判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮二年附加罰金二十圓監視六月ニ處シ押収物件中偽造證書ハ之ヲ没収シ其他ハ各差出人ニ還附スト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ相手方原院檢察長加納謙ハ上告由ナキ旨

書ヲ差出シ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要旨第一點ハ被告ノ控訴ハ第一審カ言渡シタル刑及ヒ附加刑ニ對スル一部ノ控

訴ナルニ全部ノ裁判ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○第一審カ言渡シタル主刑附加刑ノ判決ニ對スル控訴ハ全部ノ控訴ナルコト言テ俟タス故ニ原院カ更ラニ全部ニ翻シ判決シタルハ固ヨリ當然ノ事ナリトス同第二點ハ告訴人大島現三豫審調書ヲ參考人調書トシテ採用シタルハ即チ刑事訴訟法第二百二十三條ニ抵觸スルノ親族ノ關係アルヲ確認シタルハナリ然ルニ法律上不論罪トナルヲ否チ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○大島現三ハ豫審ニ於テ參考人トシテ取調ヲ受ケタルモノナレハ原院カ其調書ヲ參考人調書トシテ採用シタルハ當然ナリ而シテ同入カ被告ノ伯父福田常吉ノ妻某ノ甥ナルコトハ原判決ノ明示スル所ニシテ被告カ不論罪ト爲ルヘキモノニアラサルコト勿論ナレハ原判決其旨ヲ明示スルノ要ナシ因テ本論旨モ亦相立タス

上告趣意擴張書ノ要旨第一點ハ告訴人大島現三ハ刑事訴訟法第二百二十三條ニ抵觸スルモノニアラサルヲ以テ證人トシテ取調フヘキニ之ヲ誤認シテ參考人トシテ而シテ原院カ其調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證人トナルヘキ資格アル者ヲ參考人トシテ取調フルハ法律ノ禁スル所ニ非ス隨テ原院カ參考人トシテ取調ヲ受ケタル大島現三ノ豫審調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ決シテ違法ニ非ス同第二點ハ原判決冒頭ニ於テ私印盗用私書偽造行使詐欺取財即チ三罪ナルコトヲ認メナカラニ罪併發ニ付キ云々トアルハ前後齟齬ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○私書偽造行使詐欺取財トノ二所爲ハ原判決説明ノ如ク刑法第三百九十條第二項ニ依リ一罪ト爲ルモノナレハ二罪併發云々ト判示シタルハ相當ニシテ毫モ理由



贈賄アルコトナシ同第三點ハ刑法第百十二條ヲ適用シタルハ本刑ヨリ一等ヲ減フルハ相當ニシテ一等ヲ減シテ本刑トシトアルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑法第百九十九條俱書ニ送犯罪ノ減等云々ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ストアルヲ以テ一等ヲ減シテ本刑トシト列示シタルハ相當ナリトス

上告趣意第二回擴張書ノ要旨ハ民事訴訟法第百四十條ニ囚人ニ對スル送達ハ監獄署首長ニ爲ストアリ首長トハ署長即チ典獄ノ事ナルヲ勿論ナリ而シテ愛知縣監獄ノ署長ハ典獄千頭正澄シテ書記鈴木門平ト稱スル署長ナシ然ルニ原院カ公判開廷期日呼出狀送達手續ハ在監人正宗勝賢右私書偽造等被告事件公判開廷ニ付明治三十年十一月廿四日午後九時當院へ出頭可致モノナリ愛知縣監獄署書記鈴木門平ニ送致ストアリ若シ一步ヲ讓リ監獄署書記ハ署長ニ代テ爲レタルモノトセハ其署長ニ交付スル能ハサル事由及署長代理書記誰ト明記セザル可カラス要スルニ原院カ適式ノ呼出狀送達モナク開廷ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○尙キ上告趣意擴張辯明書ヲ提出シテ衍行辯明スル所アルモ民事訴訟法第百四十條ニ監獄署首長トアルハ必スシモ監獄署長ノ職名ヲ帶スル官吏ヲ指シタルモノニ非スシテ監獄署長ノ不在其他兼支アル場合ニ於テ代リテ其職務ヲ執行スヘキ者モ亦此語中ニ包含スルモノトス左レハ本件呼出狀ノ送達證書中署長ニ交付スル能ハサル事由及署長代理ノ肩書ヲ記載セザルモ愛知縣監獄署書記鈴木門平ノ署名捺署名捺印アル上ハ同人カ署長ニ代リ即チ首長トシテ送達ヲ受ケタルモノト認ムルル相當トス因テ本件呼出狀ノ送達適式ナラストノ論旨ハ相立タス同第二點ニ

原判決ハ明治二十九年十二月十七日辯護士高橋四郎藤原吉郎ヲ代理人トシテ横濱地方裁判所へ請求金額六千圓ノ内一千圓ニ對スル現三ノ有體動産假差押申請ヲ爲シ同月廿三日其命令ヲ受ケ云々トアルノミニシテ其命令ニ對スル結果差押ヲ爲シタル乎將々爲サスシテ止ミタルカヲ判示セザルハ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○假差押ヲ爲シタルト否トハ本件犯罪ノ構成ニ關係ナキヲ以テ原判決之ヲ明示セザルハ違法ニ非ス

辯護人高木益太郎カ辯明ノ要旨ハ辯護人佐藤知一ハ原院へ出頭ノ上控訴ノ辯護届ヲ提出シタルハ原院ハ之ヲ受理シタルニモ不拘同人ニ對シ公判期日ノ通知ヲ爲サス從テ同人欠席ノ一審理ヲ終リシタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右佐藤知一ノ提出シタル辯護人選定届ト題スル書面ヲ査スルニ被告氏名ノ下ニ捺印ナク即チ適式ハ辯護届ト認ムヘカヲサルモハナルヲ以テ原院カ佐藤知一ニ對シ公判期日ノ通知ヲ爲カハハ當然ハ事ナリトス

辯護人高橋四郎藤原吉郎カ上告辯明ノ要旨ハ偽造證書ハ法律ニ於テ禁制セラレタルモノニ非サルニ原判決カ刑法第四十三條第一號ニ依リ沒收シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○偽造證書ハ法律ノ禁制ニ背反シテ製出シタル物件ナレハ原判決カ刑法第四十三條第一號ヲ適用シテ之ヲ沒收シタルハ相當ニシテ決シテ擬律錯誤等ノ不法ナシ

辯護人藤原吉郎カ上告理由擴張ノ要旨ハ參考人大島現三ノ調書及ヒ被告第四回調書ニ文字ノ挿入アルニ拘ハラズ刑事訴訟法第二十一條ノ規定ニ依リ適法ナル手續ヲ爲サス即チ其變更増減ノ效ナキモノナルニ其調書ノ全部ヲ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右調書



ヲ查閱スルニ文字挿入ノ箇所ニハ孰レモ林書記ノ認印アリ本論旨ハ其謂レナキモノトス  
右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十一年二月十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○詐欺取財委託金費消ノ件

明治三十一年第一二號  
明治三十一年二月十五日宣告

○判決要旨

控訴ハ事件全體ニ對シテ覆審ヲ求ムルモノナレハ或點ニ於テ控訴理由アリト  
判示シタル以上ハ縱令他ノ點ニ於テ控訴理由ナキモ其點ニ對シ別ニ控訴棄却  
ノ判定ヲナスヲ要セス

第一審 盛岡地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 沼里喜重郎 辯護人 高木益太郎

右詐欺取財委託金費消被告事件ニ付明治三十年十二月十四日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判  
決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタメ、依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト

左ノ如シ

上告趣旨ノ第一ハ原院ニ於テ原判文第一第二ノ事項ヲ刑法第三百九十條ニ問擬セラレタレト  
モ右ハ單純ナル詐欺取財ヲ以テ施スヘキモノニアラス同法第三百九十五條ノ末項ニヨリ第三  
百九十條第一項ニ然シテ處斷セサルヘカラサルモノナリ即チ原判決ハ擬律錯誤ノ判決ナリ又  
原院ハ公訴ノ趣旨ト相違スル擬律ヲ爲シタルニ拘ハラス此點ニ對スル檢事ノ控訴ハ其理由ア  
リト判決シ其事件ノ關係ヲシテ明瞭ヲ欠クニ至ラシメタルニ理由不備ノ判決ナリト云フニ在  
リ○然レトモ前段ノ論旨ニ基キ原判文ヲ閱スルニ其第一(前略)右收入後ニ對シ名ヲ公金ノ紛  
亂ニ託シ自己ニ之ヲ保管スル旨申欺キ同役場ニ於テ該金員ヲ騙取シタリトアリ又其第二(前  
略)署收入役十日市判治ヲ欺キ云々建築費ノ内金拾圓ヲ同役場ニ於テ騙取シタリトアリテ單純ノ  
詐欺取財ノ事實ヲ認メアルハ原院カ適用シタル法條ハ相當ニシテ擬律錯誤ノ廉アルコトナシ  
後段ノ論旨ニ基キ原判文ヲ關スルニ原判決ハ前掲第一第二ノ所爲ヲ委託金費消罪ト爲シタル  
ノミナラス被告ニ科シタル刑ノ輕キニ失スルヲ以テ此點ニ對スル檢事ノ控訴ハ其理由アリト  
アリテ檢事ノ控訴ヲ理由アリト爲シタルハ上文所載ノ如シ而シテ本件ノ公訴ハ公金費消ノ訴  
名ヲ以テ提起セラレシモ公判ニ於テ其訴名ニ羈束セラルヘキモノニ非ラサルナリ故ニ原院カ  
寄託物費消罪トシテ處斷シタル第一審判決ヲ不當トシ檢事ノ控訴ヲ理由アリト判決シタルハ  
相當ノコトナリトス其第二ハ原判文第三乃至第八ノ事實ハ元來刑法ヲ以テ論スヘカラサルモ  
ノナルコトハ一件記録上頗ル明瞭ナルニ漫リニ虛無ノ事實ヲ認メ不法ニ法律ヲ適用シタルハ

控訴理由ノ判定



不當ナリト云フニ在リテ ○原承審官ハ職權ニ存スル事實ノ認定ニ對シ徒ラニ論難ヲ試ムルモ  
 ノニ過キサルナリ辯護人高木重太郎辯明書ノ第一ハ原院ハ立會檢事ヨリ事實上ノ意見ヲ聽カ  
 スシテ本案ノ結審ヲ告ケタルハ不法ト云フニ在レトモ ○原公判始末書ヲ閱スルニ裁判長ハ本  
 件ノ審理ハ去ル七日ノ公判開廷ニ於テ終結シタルモ判決言渡シ前ニ在テ部員ニ變更ヲ來シタ  
 ル爲メ更ラニ開廷ヲ爲ス旨ヲ告ケ被告人及辯護人檢事ノ異議ナキ旨ノ答ヲ俟テ書記ヲシテ  
 前回即チ十二月七日開廷ノ公判始末書ヲ朗讀セシメタリトアリテ前回ノ始末書ヲ朗讀セシメ  
 タル上ハ審理ヲ更新シタルト其效ヲ同クス而シテ前回ノ始末書ヲ讀スルニ檢事カ事實ノ意見  
 ナ陳述シタルコトハ詳カニ掲載セシ處ナレハ出論旨ハ其理由ナシ其第二ハ檢事ノ控訴ニシテ  
 其理由ナキモノニ對シ控訴棄却ノ宣告ヲ爲サリシハ違法ナリト云フニ在レトモ凡ソ控訴ハ  
 事件全體ノ覆審ヲ求ムルモノナレハ本件檢事ノ控訴ハ理由ナシト判示シタル上ハ其  
 控訴ノ理由中ニ於テ他ニ相當ナラサルモノハリトスルモ其點ニ對シ更ラニ控訴棄却ノ判定ヲ與  
 フヘキモノニアラス其第三ハ原公判第三乃至第八ノ被告事件ニ付犯罪構成ノ場所ヲ明示セサ  
 ルハ不法ナリト云フニ在レトモ原公判文ヲ閱スルニ岩手縣上閉伊郡青笹村々長就職中第三乃至  
 第八ノ犯罪行為アリタルコトハ原公判理由ノ冒頭ニ明載スル處ナレハ不明ナリトスルモ爲メ  
 ニ裁判管轄ニ影響ヲ及ホスヘキノ虞ナシ故ニ其場所ノ不明ナルカ爲メ之ヲ明示セサルヲ以テ  
 不法ノ判決一云フヲ得ス  
 右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス明治三十年二月十五日

大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○公印盜用偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十一年第二五號  
 明治三十一年二月十五日宣告

○判決要旨

官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル所爲ニ對シ刑法第二  
 百六條ヲ適用セサル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ

(參照) 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本  
 條ニ照シ重ニ從テ處斷ス(刑法第二  
 百六條)

第一審 盛岡地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 照井定次郎 辯護人 高木益太郎

右定次郎カ被告事件ニ付明治三十年十二月十一日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法ト  
 シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ遂クル處  
 被告カ上告ノ要旨ハ原公判ノ認ムル如クナレハ宮次ハ被告人ノ依頼ヲ受ケ公文書ヲ偽造又ハ  
 公印ヲ盜用シタルモノト云ナル可ラス然ラハ被告人ノ教唆ヲ受ケテ右宮次カ爲シタルモノニ

擬律錯誤



シテ被告人カ犯罪實行ノ所爲ニ加功セサル事ハ原判決モ明認スル所ナレハ教唆ニ關スル理由ヲ明示シ且其法條ヲ適用セサル可ラサルニ其明示法條ノ適用ヲ欠キタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文認定ノ事實ハ廣田定次ハ被告ノ依頼ヲ受ケ田中館「ヨ」ノ年齢ヲ詐リタル戸籍證明書ヲ偽造シタル共犯者ニシテ教唆ヲ受ケ爲シタル所爲ニアラサルナリ而シテ教唆ト依頼ト其性質ノ異ナルコトハ勿論ノコトニ付被告ノ所爲ヲ教唆トナサ「リ」シ原判決ハ相當ニシテ毫モ不法ニアラス

辯護人高木益太郎カ辯明書第一點ハ上告人ニ對スル原判決ノ事實理由中「被告等教唆ノ如ク年齢ヲ詐リ右二通ノ書類ヲ同署ニ提出シ「ト」アルニヨレハ上告人ハ文書偽造行使公印盗用ノ點ニ就テモ教唆者ナルコト明カナリ然ルニ原院ハ戸籍證明書偽造行使及ヒ公印盗用ノ所爲ニ對シ刑法第百五條ノ適用ヲ欠キタルハ法律ノ理由ヲ具ヘサル裁判ナリト云フニ在レトモ○原判文中被告等カ「ミヨ」ニ向ヒ警察署ニ「汝」ノ年齢ヲ問ヒタルトキハ明治十四年二月生ト詐稱シ以テ娼妓鑑札ヲ受ケ來ルヘシト教唆シ云々水澤警察署ニ到リ被告等教唆ノ如ク年齢ヲ詐リ云々トアルニ依レハ被告等ハ單ニ「ミヨ」ニ對シ教唆シタルニ止マリ公文書偽造行味等ニ付テハ教唆シタルモノニアラサルヲ以テ該所爲ニ對シ刑法第百五條ヲ適用セサルハ當然ノコトニ付本論旨モ上告ノ理由ナシ

同第二點ハ本件ニ付原院ハ刑法第二百六條ヲ適用スヘキモノナルニ同條ノ適用ヲ欠キタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○因テ原判文ヲ査閲スルニ被告カ所爲中刑法第二百四條第一項

及ヒ同法第九十七條第一項第九十條ニ該當スヘキモノナルカ故ニ同法第二百六條ヲ適用スヘキモノナルニ之ヲ適用セス單ニ同法第九十七條第一項ハ「ミ」ヲ適用處斷シタルハ擬律ニ錯誤アル失當ハ裁判ナルヲ以テ破毀ハ原由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條同第二百八十七條ニ依リ原判決擬律ノ部分ヲ破毀シ直チニ判決ヲ爲ス左ノ如シ

照井定次郎

原判文ニ認メタル事實ニ依リ之レヲ法律ニ照スニ戸籍證明書偽造行使ノ所爲ハ明治二十三年法律第百號及ヒ刑法第二百四條第一項ニ公印盗用ノ所爲ハ同第百號及ヒ刑法第九十七條第一項第九十五條ニ依リ偽印使用ノ刑ヨリ一等ヲ減スヘク孰レモ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同法第八十七條ニ依リ各本刑ニ二等ヲ減シ同法第六十九條第一項第七十條第一項尙ホ公證文書偽造行使ノ所爲ニハ局法第二百七條公印盗用ノ所爲ニハ同法第二百一一條ヲ適用シ右公文書偽造スルニ因テ公印ヲ盗用シタルモノニ付同法第二百六條ニ照シ一ノ重キ公印盗用罪ニ從フヘク又詐受鑑札教唆ノ所爲ハ同法第二百四條第一項第五條ニ該當スル處原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ減シ二罪俱發ニ付同法第百條第一項ニ依リ一ノ重キ公印盗用罪ニ從テ處斷スヘキモノトス因テ被告定次郎ヲ重禁錮一年六月ニ處シ監視六月ニ付ス其他ハ惣テ原判決ノ通り

明治三十一年二月十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ險事岩田武儀立會宣告ス



○謀殺ノ件

明治二十二年第七四號  
明治二十二年二月十五日宣告

○判決要旨

(判旨第七點) 謀殺罪ノ實行以前ニアルヘキ豫謀ト犯罪ヲ實行スル間繼續スヘキ殺意トハ區別アリ

(判旨第十二點) 抗拒スヘカラサル強制ニ關スル事實ヲ認定スルハ承審官ノ職權ニ屬ス

第一審 福岡地方裁判所支部 第二審 宮城控訴院

公訴私訴 被告人

山本信三  
中澤勝太郎  
柴田萬吉  
川本長吉  
日下石十之助

辯護人 江木 稔  
高木益太郎

私訴被上告人 村田源四郎

右信三外四名ニ對スル謀殺案件ニ付明治三十年十二月六十日宮城控訴院ニ於テ言渡シタ

ル判決ニ服セス被告等ヨリ上告申立テ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ規定ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告信三上告趣意第一點ハ原院ハ自分ニ對シ明治二十九年十二月二十日午後九時頃自宅ニ於テ相被告タル中澤勝太郎外三名ト共謀シテ村田源三ヲ害シタリト事實ヲ推定シテ死刑ノ宣告ヲ言渡シタルハ甚々不法ノ判決ト云ハサルヲ得ヌ何トナレハ自分ハ決シテ右源三ヲ謀殺シタルコト更ラニ覺ナキヲ以テ豫審以來絕對ニ本件ノ事實ヲ認メサルハ該記録ニ徴シテ甚々明確ナルノミナラス被害者源三トハ叔姪ノ血縁アリ且ツ恩人ナレハ斯ル不法不義極ナル所爲ヲ行フヘキ謂レアラサレハ別ニ多言ヲ要セスシテ知ルヘキナリ然ルニ原院ハ充分ノ審理ヲ盡サス單ニ或ル狀況ニ泥ミ前條ノ判決ヲ言渡シタルハ法律錯誤ノ判決ニシテ到底破毀ヲ免カレサル者ナリト云ヒ被告勝次郎七之助上告趣意第一點ハ被告人ハ第一審以來本件被告事件ニ關係シタルコトナシト主張シ之レカ證據ヲ呈出シテ其事實ヲ明確ニセリ然ルニ原院ハ漫然被告人ヲ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ事實ヲ不當ニ確定シタル不法ノ判決ナリト云フニ在リテ○共ニ原院ノ職權ニ專屬スル事實ノ認シテ非難スルニ過キスノ上告適法ノ理由トナラス○被告信三上告辯明書第一ハ控訴院ノ判決謬本ヲ見ルニ被告山本信三ハ云々源三ヲ殺害シ云々同人所有ノ不動產等ヲ横領セント惡意ヲ生シ云々被告中澤勝太郎柴田萬吉ニ自己ノ謀意ヲ明シ云々勝次郎ニハ源三所有地ノ多部分ヲ與ハ萬吉ニハ源三ヨリノ借地ノ部分ヲ悉ク與フヘシト云々勸誘シタルニ被告勝次郎萬吉ハ之ニ同意シトアレトモ信三ト源三ハ叔父甥ニシテ萬事申合セ親子同様

豫謀ト殺意ノ區別(抗拒スヘカラサル強制ノ認定)



ニ付殺意ヲ生スルコト無之源三ニハ弟妹妻子アリテ他人ヨリ不動産等ヲ横領スルコト不相成  
 又勝次郎萬吉ハ源三弟妹妻子アルヲ承知シ居ルニ付信三ヨリ土地分與ヲ申聞ケルモ殺意ニ同  
 意スル事無之候其二ハ被告信三ハ自宅裏ノ松林へ被告日下石七之助ヲ運リキ云々巴レニ從ヒ  
 源三ヲ殺セハ貴様ノ上納モ小作料モ當分ハ取ラナイト勸誘シタルニヨリ七之助之ニ同意シト  
 ノレトモ七之助ノ借地ハ鐵下手中ニ付現今上納モ小作料モ取立サルハ七之助承知ニ付信三  
 ヨリ申聞ケルモ殺意ニ同意スル事無之候其第三ハ被告信三ハ短刀ヲ懐ニシ云々他ノ被告入等  
 ナ指揮シ云々自宅西ニ在ル古井ニ云々干草等ヲ埋メ云々トアレトモ被告入等へ申付ケタル事  
 無之依テ屍體ノアルヲ不氣付ニテ長男信一ニ申付知ニ仕調サセタル儀原文ノ儘ニシテ決シテ  
 屍體ヲ投入サセタル事無之候其第四ハ豫審以來信三ノ利益トナル事柄ハ不問ニ置キ不實ノ人  
 證ヲ以テ前庭ノ如ク取留メナキ事ヲ記載シ事實ノ認定ヲ誤リタル法則ヲ不當ニ適用シタル疑  
 罪ノ錯誤アル判決ト信スト云フニ在リテ○總テ原院ノ職權ニ專屬スル事實ノ認定ヲ非難スル  
 ニ過スシテ上告通法ノ理由トナラス

被告勝次郎上告辯明書第一點ノ要ハ参考人山本信一第八回訊問調査ハ豫審判事ニ於テ右信一  
 ニ對シ勝次郎ハ關係セスト云フモ若シ他ヨリ發覺シタルトキハ何トスル恐迫セラレ事實之レ  
 ナキ事ヲ申立タルモノナレハ此調査ハ不法ナルニ原院ハ此調査ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル  
 ハ不法ナリト云フニ在レトモ○信一ニ對スル調査ハ三回ノミニシテ八回アルコトナシ面シテ  
 右三回ノ調査ヲ見ルモ恐迫等調査ヲ不法タラシムヘキ事項ノ見ルヘキモノナシ『共犯二點ハ殺

信三ハ明治二十九年十一月申被告勝次郎萬吉ニ對シ源三ヲ謀殺スルノ念アルコトヲ明シ利  
 慾ヲ以テ助力センコトヲ勸誘シタル旨判示シアレトモ其日場所等ヲ明シセサルハ理由ノ不備  
 ナリト云フニ在レトモ○右ノ如キ事項ハ謀殺罪ノ豫謀ニ屬スル事柄ナルヲ以テ其事柄ノア  
 タル日時場所ノ如キハ判文ニ明示セサルモ理由不備ノ不備アリトシテ原院判決ヲ破毀スルノ理  
 山ト爲スニ足ラス其第三點ハ明治二十九年十二月二十日源三ハ被告信三方ニ宿泊シタルヲ  
 テ被告入等ハ同夜ニ於テ彌々兇行ヲ遂ケンコトヲ謀議シトアレトモ何ノ誰レ何月何日ニ何  
 ノ場所ニテ謀議シタルヲ判示セサルハ理由ノ不備ナリト云フニ在レトモ○此又前論旨ト同  
 一ノ理由ヲ以テ原院判決ヲ破毀スヘキ理由ト爲スニ足ラス其第四點ハ被告七之助ハ控訴シタル  
 コトナシ然ルハ原院ハ控訴シタルカ如ク判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○一件記  
 申七之助ノ控訴申立書アルヲ以テ同人ハ控訴セストノコトハ議ハレナキノミナラス同人ニ關  
 スル事項ハ被告勝次郎ニ於テ上告ノ理由トナスヘキモノニアラス  
 被告勝次郎辯護人江木重上告趣意擴張第一點ハ原院判決ハ犯罪ノ構成ニ必要ナル豫謀ノ事實ヲ  
 明示セサル不法アリ此點ニ對シテハ左ノ二問題ニ就キ茲ニ至高法院ノ判定ヲ仰ク一、故殺ハ意  
 識ニ出テ謀殺ハ豫謀ニ出ツ然レトモ恐迫ノ證據ヲ明了ナラス又豫謀ノ證據ヲ明了ナラスシキ  
 獨リ殺意ノ明了ナル場合ニ於テハ法律ハ單ニ之ヲ故殺罪ニ問フ故ニ刑目ハ單ニ故殺ヲ以テ人  
 ナ殺シタルモノハ故殺ノ罪ト爲スヘキモノトセリ由是觀之苟モ豫謀ノ證據明白ナルニアラリ  
 レハ之ヲ謀殺ノ罪トスルコトヲ得サルナリ二、原院判決ハ犯罪實行ノ前日ニ於テ被告カ他ノ共犯



者ト共ニ罪ヲ犯サンコトヲ謀議シト明旨スルノミニシテ豫謀ノ事實ヲ明示セス犯罪ノ前日ニ於ケル謀議ハ豫備ノ所爲ナリ謀議ニ必要ナル豫謀ニマラス所謂故殺ニ必要ナル感激ハ犯罪ヲ實行スルニ當リニ犯罪者ノ腦裡ノ熱セラルルヲ謂ヒ謀議ニ必要ナル豫謀モ亦犯罪實行當時ニ於ケル犯罪者ノ腦裡ノ靜平ナルヲ謂フ即チ謀議ハ靜平ノ心ヲ以テ大事ヲ實行スルモノナレハ犯罪前日ノ豫備ヲ以テ直チニ實行當時ノ豫謀ト云フヘカラス是レ原判決カ謀議ニ必要ナル豫謀ノ事實ヲ明示セラル不法アリトス所以ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル處ニ依レハ被告信三カ源三ヲ殺害スルノ決意ヲ爲シタルニ共行者ヲ勸誘シ總テ其同意ヲ得タルコトヲ叙シ來リテ其前日即チ同月二十日被告信三宅ニ宿泊シタルニ被告入等ハ同夜ニ於テ彌々兇行ヲ遂クント謀議シト認メタルハ即チ豫謀ノ事實ナルヲ以テ本論旨ノ如ク豫謀ノ事實ヲ明示セサルモノト云フヘカラス而シテ豫謀ノ事實ヲ明示セサル不法アリトノ趣旨ヲ二問題ニ區別シタル所謂第一問題ハ其論旨若ク明確トラス若シ抽象的ニ立論シタル趣旨ナランカ本件ニ關スル上告論旨トシテ判定スル要ナシ具豫謀ノ證據明白ナルニテラサレハ之ヲ謀殺ノ罪トスルコトヲ得スト云フハ至極尤モナリト云フ二外ナシ若シ本件ニ關スル論旨トシテ之ヲ見ンカ原院ニ於テハ前說明ノ旨ク豫謀ノ事實ヲ認メタルハ其事實ノ證據明白ナルカ故ニ認メタルモノニシテ事實認定ノ問題ニ屬シ法律問題ニアラサレハ上告適法ノ理由トナルヘキモノニアラス若シ又其趣旨豫謀ノ證據明白ナルニアラサレハ之ヲ謀殺ノ罪トスルコトヲ得ス然ルニ原判決ハ犯罪實行ノ前日ニ於テ謀議シタルコト即チ豫備ノ所爲ノミヲ認メテ謀殺ニ必要ナル豫謀ノ事實ヲ認

判旨第七點

スシテ謀殺罪ヲ以テ問擬シタルハ不法ナリト云ハント欲スルモノナラン乎此第二問題トシテ掲ケタル趣旨ト同一ニ歸スルヲ以テ一個獨立ノ問題トシテ第二問題ト區別スルノ理由ヲ認メス又第二問題トシテ掲ケタル論旨ニ對シ說明セシニ犯罪ノ前日ニ於ケル謀議ハ何カ故ニ豫備ノ所爲ニシテ豫謀ニアラサル乎刑法ノ必要トスル豫謀ハ犯罪實行以前ニ在テ豫メ其遂行ヲ謀ルニアリ即チ前掲原院ノ認メタル事實ハ豫謀ノ事實ナリト說示シタル所以ナリ而シテ右論旨中謀殺ニ必要ナル豫謀モ亦犯罪實行當時ニ於ケル犯罪者ノ腦裡ニ靜平ナルヲ謂フト云フカ如キハ謀殺罪ハ實行以前ニアルヘキ豫謀ト犯罪ヲ實行スル間繼續スヘキ殺意トヲ混同シタルモノニハアラサルナキカ旁本論旨ハ上告適法ノ理由アルコトナシ被告勝次郎外四名辯護人高木益太郎辯明ノ第一原院ハ本件ニ付刑事訴訟法第二百三十七條ノ法式ヲ踐行セシテ直チニ重罪公判ヲ開キ審理判決ヲナシタルノ不法アルモノナリ何トナレハ原院ニ於テ被告入川本長吉ニ對スル重罪公判下調々書ヲ視ルニ裁判所書記ノ名下ニ捺印ナキテ以テ則チ刑事訴訟法第二十條ニ依リ無効ノ調査タルヲ免カレス既ニ該調査ニシテ無効ナル以上ハ他ニ同入ニ對シ公判ノ下調アリタル事實ヲ確認スヘキ文書之レナキヲ以テナリト云フニ在リ○依テ案スルニ被告長吉ニ對スル原院ノ下調々書ヲ見ルニ裁判所書記ノ捺印ナキヲ以テ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ從ヒ無効ノ文書ニシテ他ニ適式ノ證書ナケレハ本論旨ノ如ク原院ノ判決ハ不適宜ノ審理ニ基キタルモノナレハ全部破毀ヲ免カレサルモノトス而シテ右全部破毀ノ理由ハ被告長吉ニ對スル公判ノ不適宜ニ基クモノナレハ同入ニ對スル原判決ノ全

豫謀ト殺意ノ區別○抗拒スヘカカラサル強制ノ認定



部破毀ノ理由トナルヘキモノニシテ他ノ被告人ニ對スル原判決ヲ破毀スヘキ理由トナルヘキモノニアラス既ニ此點ニ於テ長吉ニ對スル原判決ノ全部ヲ破毀スヘキモノト認ムル已上ハ同人ノ他ノ上告論旨ハ説明スルノ要ナシ其第二豫審判事ハ現行犯ノ場合ヲ除キ檢事ノ請求アルニアラサレハ豫審ニ取掛ルコトヲ得サルモノナリ而シテ被告柴田万七ノ第一回豫審調査ハ明治三十年一月十三日付ニシテ他ニ此日付ノ誤記ナルコトヲ認ムヘキモノナケレハ乃チ正確ノ日付ト云フノ外ナシ左スレハ同人ニ對スル檢事ノ起訴ハ明治三十年二月十二日ナルヲ以テ豫審判事ノ訊問ハ起訴已前ニ係リ從テ刑事訴訟法第六十七條ニ依リ無効ノ訊問調査ナリト云ハサルヘカラス故ニ原判決カ右調査ヲ探テ罪證ニ供シタルハ違法ノ裁判ナリト云ニ在レトモ○柴田万吉ニ對シテハ明治三十年二月八日ニ在テ證人トシテ豫審判事ノ訊問ヲ受ケ全月十日附テ以テ同人ニ對シ豫審ノ請求アリタル處ヨリ見レハ被告人トシテ第一回訊問ハ其調査ニ一月十三日トアルモ二月ノ誤記ナルコト明白疑ヒナシ其誤記ナルコト如斯明白ナル以上ハ之ヲ以テ右調査ヲ起訴已前ノモノニシテ無効ナリト云フヘカラス隨テ原院カ之ヲ探テ斷罪ノ資料トナシタルモ不法ニアラサレハ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ其第三原院ヨリ辯護人草薙親明ニ對スル明治三十年十二月十五日公判開廷ノ呼出狀ハ其前日同人ノ留守宅ニ送達セシタルモノニシテ刑事訴訟法第二百五十七條第二項呼出狀送達ト出頭トノ間少クトモ二日ノ猶豫アルヘシトノ規定ニ違反セリ然ルニ原院ハ右公判期日ニ同辯護人ノ出廷ナク又被告ヨリ同辯護人ノ出廷ヲ要セサル旨ノ申立ナカリシニモ拘ハラズ公廷ノ審理ヲ終了シタルハ不法ナリト云

フニ在リ○依テ審査スルニ萬吉辯護人草薙親明ニ對スル明治三十年十二月十五日公判開廷ノ呼出狀ハ其日付同年同月十三日ニシテ送達ノ日付ハ同年同月十四日午後一時十分ナルハ一件記録中ニ付シアル同人ニ對スル呼出狀ニ依テ明カナリ而シテ原院ノ公判始末書ヲ見ルニ被告人ヨリ同辯護人ノ出廷ヲ要セサル旨ノ申立アリシ事跡ナク又其以前ニ於テ辯護人タルコトヲ解除シタル事實亦見ルコトナシ然ルニ原院ハ刑事訴訟法第二百五十七條ノ規定ニ違背シタル不適式ノ呼出ヲ爲シ辯護人ノ出廷セサル儘公判ヲ開キ審理終了シタルハ本論旨ノ如ク不法ニシテ隨テ其審理ニ基キ言渡シタル判決モ不法ニシテ全部破毀ヲ免レサルモノトス而シテ此破毀ノ理由ハ被告萬吉ニ對シテノミ存スルモノナレハ他ノ被告人ノ爲メニハ原判決破毀ノ理由トナルヘキモノニアラス既ニ此點ニ於テ萬吉ニ對スル原判決全部破毀ノ理由ト認メタル已上ハ同人ノ他ノ上告論旨ハ説明スルノ要ナシ其第四原院ハ立會檢事ヨリ本件ニ對スル事實上ノ意見ヲ聽カスシテ結審ヲ告ケタルハ刑事訴訟法第二百二十條ニ違反セリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ見ルニ事實ノ訊問及證據調結了ノ後檢事ニ於テ被告ノ取爲ハ第一審ニ於テ認メタル如ク五人共謀ノ村田源三ヲ殺害シタルノ證據十分ニシテ其刑ニ於テモ適當ト思料スト述ヘタル旨記載アレハ本論旨ハ謂ハレナシ其第五ハ原判決理由ニ信三ハ云々自宅裏ノ松林ヘ日下石七之助ヲ連レ行キ貴様ハ源三ノ小作人タケレヒ己レノ流儀ニ從ハサレハ貴様ハ只々置カメト先ツ威迫ヲ加ヘト認メアルニ依レハ七之助ノ本件ニ關與シタルハ全ク信三ノ脅迫ニ基因スルニ明白ナリ左スレハ刑法第七十五條ニ所謂抗拒スヘカラサル強制ニ遭ヒ其本意ニ

豫謀ト殺意ノ區別〇抗拒スヘカラサル強制ノ認定



判旨第十二

アラサル所爲ナルヲ以テ其罪ヲ論スヘキモノニアラス然ルニ原判決カ同入チ處罰シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レドモ○抗拒スヘカラサル強制ノ事實ハ法律上定マルヘキモノニアラスシテ事實承審官カ其事實ハ果シテ抗拒スヘカラサルモノニシテ犯罪行爲ハ本意ニアラサルヤ否ヲ判定スヘキモノトス故ニ本論旨ハ即チ原院ノ事實認定ヲ非難スルニ對スルモノナレハ上告適法ノ理由トナラス

被告信三ノ私訴上告趣意(上告趣意書第二點)ハ私訴上告理由ハ公訴理由ト同一ナレハ公訴ノ上告理由ヲ採用スト云フニ在リテ其上告適ノ理由トナラサルコトハ前説明ニ就テ了解スヘシ被告勝三郎私訴上告趣意(上告趣意書第二點)ハ被告人ハ本件被告事件ニ關係シタルコトナケレハ從テ民事原告人ノ請求ニ應スルコト能ハスト主張シタルニ原院ハ却テ被告人ニ其賠償ノ責ヲ負ハシメタルハ不法ノ判決ナリトスト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實認定ノ非難ニ止マルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

被告萬吉長吉七之助ハ其趣意書中私訴上告ノ趣意ト認ムヘキモノナキヲ以テ右三名ノ私訴上告ハ適法ニアラサルモノトス辯護人高木益太郎ノ私訴上告理由ハ生者必滅ハ自然ノ法則ニシテ人類モ亦之ヲ免ルコトヲ得サルモノナレハ假令犯罪ノ爲メニ死亡シタル場合ニ於テモ之ヲ埋葬スル費用ヲ犯人ノ負擔トスヘキモノニアラス然ルニ原判決ハ本件ニ付埋葬費用ノ負擔ヲ上告人ニ命シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアレドモ○死者ヲ葬ムルハ人事上必要ノコトトス而シテ被告等ノ犯罪ニ因テ死シ

タル源三ヲ葬ムル爲メ用ヒタル費用ハ被告等ニ於テ其賠償ノ責ニ任スヘキハ當然ノ事ナレハ原院カ其費用ノ賠償ヲ被告等ニ命シタルハ相當ニシ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ但シ被告萬吉長吉七之助ノ私訴上告ハ不適法ナルヲ以テ本論旨ハ被告信三勝次郎兩名論旨トシ説明ス右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ被告信三勝次郎七之助ノ上告ハ公訴私訴共ニ之ヲ棄却ス被告萬吉長吉ニ對スル原公訴判決ハ全部之ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ事件ヲ東京控訴院ニ移送ス

被告萬吉長吉ノ私訴上告ハ之ヲ棄却ス私訴上告費用ハ總テ上告人ノ負擔トス明治三十一年二月十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○未決囚徒逃走ノ件

明治三十一年第一〇三號  
明治三十一年二月十五日宣告

○判決要旨

囚徒逃走罪ハ多少ノ時間繼續スルモノトス從テ逃走ノ終リタル日時場所ヲ判示スルヲ以テ足レリトシ逃走ノ始マリタル日時場所ヲ判示スルヲ要セス

囚徒逃走罪ノ日時場所



被告人 三原惣八

右未決囚徒逃走及ヒ故殺未遂被告事件ニ付明治三十年十二月十三日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
上告趣旨ノ第一點ハ刑法第二百九十六條ヲ適用シタルノミニシテ其前段ナルヤ將々後段ナル

ヤヲ明示セサルハ即チ法律ノ理由ヲ付セサルモノナリト云フニ在レトモ○原院ノ認定シタル事實理由ニ依レハ被告ハ囚徒逃走ノ罪ヲ免カル、爲メ故殺未遂ノ罪ヲ犯シタルコト明白ナレハ隨テ刑法第二百九十六條ノ後段ニ該當スルコトヲ推知シ得可キヲ以テ特ニ其前段ナルヤ後

段ナルヤヲ明示セサルモ之ヲ以テ法律ノ理由ヲ明示セサルモノト認ムルコトヲ得ス  
第二點ハ原判決ハ刑法第二百六十九條前段ニ該當スルノ意ナリトセン乎擬律錯誤ナリ何トナレハ則本件ノ故殺ハ逃走ヲ遂ケタル後ナレハナリ云々ト云フニ在レトモ○本論旨ハ前項ノ説

明ニ依テ了解ス可シ  
第三點ハ又假ニ刑法第二百九十六條後段ニ該當スルモノトセン乎是亦擬律錯誤ナリ何トナレハ則同條ノ後段ハ第一已ニ犯シタル重罪輕罪ト故殺ノ行爲トハ同時同一ノ場所ナルコトヲ要

シ第二罪ヲ免カル、爲メ見證人ノ如キヲ失ハ罪證湮滅シ犯人ハ法網ヲ脱シ遂ニ罪ヲ免カル、ニ至ル場合ナルヲ要ス然ルニ本件ノ故殺行爲ハ過クル七月十八日午零二時頃ニシテ逃走ト

同時場所ヲ隔ツルコト甚タシ又被害者ハ見證人ニアラスシテ追捕巡查ナリ又巡查ヲ殺シタリトテ犯跡ヲ掩フノ理ナシト云フニ在レトモ○刑法第二百九十六條後段ニハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カルル爲メ人ヲ故殺シタル者ハ云々ト明記シアルニ付已ニ犯シテアル上ハ其免カレントスル所ノ罪ト故殺罪ト同時同所ニ於テ犯シタルコトヲ要スルモノニアラサルハ固ヨリ論ナシ又罪證湮滅シ犯人ヲシテ法網ヲ脱セシムルカ如キ條件ヲ要スルモノニアラサルコトモ亦明ナリトス要スルニ同條後段ノ罪ハ已ニ犯シタル罪ヲ免カル、爲メ人ヲ故殺シタルモノナレハ之ヲ通常ノ故殺罪ニ比スレハ其犯状重シ故ニ通常故殺罪ノ刑ヲ加重スルカ爲メ特ニ此規定ヲ設ケタルニ過キス是以テ其被害者ハ見證人ナルハ追捕巡查ナルトヲ問コトヲ要セス又其故殺シタルカ爲メ已ニ犯シタル罪ヲ免カレ得タルト否トヲ問フコトヲ要セサルナリ因テ本論旨ハ採ル可キノ理ナキモノトス

第四點ハ原判文ニ被告カ大阪ヨリ廣島ニ發送セラレ、途中逃走シタルヲ以テ云々ト掲ケタルノミニシテ其逃走ノ日時場所及ヒ故殺ノ日時ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○逃走罪ノ如キハ其逃走中ハ多少ノ時間繼續スルモノナレハ逃走ノ始マリタル日時場所ヲ明示スルコトヲ要セス其終リタル日時場所ヲ明示スルヲ以テ足レリトス而シテ原判文ニハ明ニ右逃走ノ終リタル日時場所ヲ明示シアルノミナラス故殺ノ日時モ亦之ヲ明示シアルニ付毫モ不法ト認ム可キ點ナシ

第五點ハ刑法第二百二條ノ通算ハ有期刑ニ適用スルモノニシテ無期刑ニ適用ス可キモノニアラ



ス然ルニ本案無期刑ニ前發ノ刑ヲ通算シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ○無期刑ト前發ノ刑トナリ併科ス可キモノニアラサルカ條メ前發ノ刑ヲ通算ストノ言渡ヲ爲シタルモノナレハ之ヲ以テ違法ナリト號スコトヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十一年二月十五日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○山林盜伐再審ノ件

明治三十一年再審第七號  
明治三十一年二月十五日宣告

○判決要旨

再審ノ訴ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ之ヲ爲スヘキモノニシテ他人ヲシテ代理セシムルヲ得ス

原告 大阪控訴院

被告人 細谷佐太郎

右山林盜伐被告事件ニ付明治三十年五月二十二日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決確定ノ後被告代理人佐藤華吉ハ再審ノ訴ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第三百六條ノ定式ヲ履行ニ審判スルコト左ノ如シ

再審ハ訴ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘキノミ他人ニ委任シテ之ヲ爲スコトハ法律ノ許ス所ニ非ス本件被告代理人ヨリ爲シタル再審ノ訴ハ即チ通法ニ成立セサルモノナリ以テ之ヲ棄却スルモノナリ

明治三十一年二月十五日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十一年第五〇號  
明治三十一年二月十七日宣告

○判決要旨

(判旨第十五點) 私訴ニ付テハ特ニ檢事ノ意見ヲ聽クヲ要セス

(判旨第十八點) 不法ノ契約ハ法律ノ保護ヲ受ヘキモノニアラスト雖モ其契約ヲ假裝シテ之ヲ欺罔ノ手段トナシ金圓ヲ騙取シタル所爲ハ犯罪ナリ從テ之カ爲ニ生シタル損害ハ賠償ノ責アリ

第一 新潟地方裁判所長岡支部 第二審 東京控訴院

公訴私訴上告人 阿部 貞義 辯護人 黒岩 鐵之助  
阿部 善治 作 大塚 達善 平 花井 卓藏

私訴上告人 江口 澤久 七

檢事ノ私訴意見○不法契約ニ基ク損害



右圖後作ノ三被告取財被告事件ニ付明治三十年十二月十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル  
 公訴私訴ノ判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第三百八十三條ノ定式ヲ履  
 行シ各辯護士ノ辯論檢察官野野新平ノ意思ヲ隨キ判決スル左ノ如シ

被告關係作ノ公訴上告趣意ハ被告ハ罪ヲ犯シタルコトナキニ原院カ不當ニ事實ヲ認定シ有罪  
 ノ判決ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在リテ

〇原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ  
 過キサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス辯護士黒岩鐵之助ノ擴張論旨前段ハ原判決ノ認定ニ  
 依レハ被告關係作方相續被告岡部貞義ニ對シ犯罪ノ助言ヲ爲シタルハ未ダ以テ犯罪教唆ノ罪ヲ裁  
 成セサルニ之ヲ教唆トナリトシテ處斷シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ

〇原判決ノ說明ハ  
 依リ被告貞義カ被告關係作ノ教唆ヲ受ケテ詐欺取財罪ヲ犯シタル事實ハ明瞭ナリ後段ノ論旨ハ  
 被告關係作ハ岡部貞義ト共謀シテ江口源太郎ヲ欺罔シ金一千圓ノ偽造紙幣ヲ買入ルト相シ  
 金六百圓ヲ取取シタリトシテ刑法第三百九十九條及第三百九十四條ヲ適用セラレタリ然レトモ  
 該金六百圓ハ高法公案トシテ受領シタル事實ハ被害者タル江口源太郎ノ自書捺印シタル金圓  
 ノ包紙ニ依テ明カナルヲ以テ原判決ハ違法ナリト云フニ在リテ

〇原院ノ職權ニ屬スル事實ノ  
 認定ヲ批難スルモノナルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス被告岡部貞義ノ上告趣意ハ原判決ハ  
 不當ニ事實ヲ認定シタル犯行錯誤ノ不法アリト云フニ在リテ其辯論旨第一點ハ本案被告事件  
 ハ被告ヨリ店日常吉ニ對スル完全ナル貸借ニ原因シ決シテ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラス然  
 ルニ原判決ニ有罪ノ認定ヲ下サレタルハ違法ナリト云フニ在リ

第二點ハ假リニ歸取ノ目的ヲ

リタリトスルモ民事原告人タル野野久七ト被告店日常吉ト生絲賣買ノ契約上右代金ノ内百八  
 十圓等相渡シ該金九百五十圓ハ雙方承諾シテ十日間貸借ノ契約ヲ爲シ借用證書ヲ添入レメ  
 ヲノニシテ眞正ノ證書ナルニ原判決ニ借用證書ヲ假裝シタルモノナリト認定シタルハ違法ナ  
 リト云フニ在リテ

〇原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キテ第三點ハ小野榮次郎  
 ニ對シ詐欺取財未遂罪ヲ犯シタルコトナキヲ以テ原判決ニ刑法第二百二十二條ヲ適用セラレタ  
 ルハ違法ナリト云フニ在レトモ

〇被告貞義カ榮次郎ヨリ生絲ヲ騙取セントシテ送ケザリシ事  
 實ハ原判決ニ明示スル所ナルヲ以テ原判決ハ違法ニラス

第四點ハ被告ハ關係作ノ教唆ヲ依  
 テ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルコトナシト云フニ在レトモ

〇被告貞義カ被告關係作ノ教唆ヲ依  
 テ詐欺取財罪ヲ犯シタル事實ハ原判決事實ノ理由中ニ明示スル所ナルヲ以テ公言論旨ハ其理由  
 ナシ

第一點辯論旨ハ本案ハ假令詐欺取財罪ヲ構成スルモ其所爲ハ民事上ノ不法行爲トモ認  
 ヘテ犯罪ニ事關アルニ原院カ被告ニ重刑ヲ科シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ

〇刑罰ノ  
 量定スルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ其當否ヲ論争シテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

第二點辯論旨  
 明書第一點ハ原院カ被告シタル證據金圓ヲ被告ニ示サス辯論ヲ爲サシメザリシハ違法ナリト  
 云フニ在レトモ

〇本件證據ノ原院ハ之レヲ省察シテ眞實ナキ旨被告ヨリ申立タル事及ヒ一  
 ノ證據物件ヲ被告ニ示シ且證據及ヒ證據物件ニ付辯論スルヲ得ヘキ旨被告等ニ告知シタル  
 トハ公判開始書ニ明記スル所ナリヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ

第二點ハ證人廣井庄三郎ハ眞  
 實原告人野野久七ト後述ナルニ之ヲ證人トシテ訊問シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ



三郎ハ訊問調査ニ刑事訴訟法第二百三條等ニ記載セル條件ニ抵触ナキヲ認メタル旨明記シタルニ依リテ告諭旨ハ其理由ナシトシテ告諭旨同達治作ノ上告趣意第一點ハ被告ハ原判決ニ記載シタルカ如キ犯罪ナシ然ルニ原院カ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在リテ〇原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得テ第二點ハ證據類別ノ省界ニ付被告等ノ意見ニ聽キタルノミニテ檢事ニ其意見ヲ聽カサリシハ適法ナリト云フニ在リトモ〇證據類別ニ付檢事ノ意見ニ聽クヘキコトハ刑事訴訟法ニ其規定ナキヲ以テ原院カ檢事ニ其意見ヲ聽ルサリシハ違法ニアラス』辯護士花井卓藏ノ擴張論旨ハ本件ニ付被告治作ハ相被告後作ノ教唆ヲ受ケタルコトナキヲ以テ原判決事實ノ理由ニ其說明ヲ然ルニ法律ノ理由ニ後作ト治作トノ間モ亦教唆被教唆ノ關係アルカ如ク法律ヲ適用シタルハ違法ナリト云フニ在リトモ〇原判決ノ說明ニ依レハ被告治作ハ被告後作ノ教唆ヲ受ケ被告貞義等ト通謀シテ『澤久七ヨリ生絲ヲ騙取シタル事實ナルヲ以テ判決ニ被告治作カ後作ノ教唆ニ依リ詐欺取財ヲ犯シタリトシテ之ニ對スル法律ヲ適用シタルハ違法ニアラス』被告治作ノ辯明書第一點ハ被告治作ハ本件ノ犯罪ニ加功シタルハ從犯ノ所爲アルノミナルニ原判決ニ被告治作ハ本案詐欺取財實行ニ加功シタル正犯ニシテ豫備ノ行爲ヲ以テ犯罪ヲ幫助シタルニアラスニ依リ上告論旨ハ適法ノ理由ナシ』第二點ハ第一點ノ趣意ヲ敷衍シタルニ過キササルヲ以テ重子ヲ說明ヲ要ス』第三點ハ本件ノ犯罪中小西榮次郎ニ對スル所爲ハ被告治作ノ關與セサル所ナルヲ以テ此點

ニ付被告ヲ處斷シタルハ違法ナリト云フニ在リテ〇原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサス』第四點ハ本件私訴ニ付原院カ檢事ノ意見ヲ聽カサリシハ違法ナリト云フニ在リトモ〇私訴ニ付テハ特ニ檢事ノ意見ヲ聽クヘシトハ規定ナキヲ以テ原院カ其意見ヲ聽カサリシハ違法ニアラス』被告大塚善平ノ上告趣意ハ原院カ調書ヲ則讀セスシテ裁判シタルハ不法ナリト云フニ在リトモ〇證據類別ノ省界ニ付被告一同誤謬ナカリシコトハ公判始末書ニ明記スル所ナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ』辯護士龜崎浪重ノ擴張論旨ハ本件ノ事實中被害者堀澤久七ニ對スル所爲ニ付キ被告善平カ加害シタル事實ハ原院判決ノ認メサル處ナリ然ルニ法律適用ニ至リ善平モ之レニ加切シタルカ如ク法律ノ理由ニ付セラレタルハ違法ナリト云フ有テモ〇被告善平カ堀澤久七ニ騙スル詐欺取財ニ付終始其所爲ニ加功シ最終ニ其贓金ヲ分配シタル事實ハ原院判決ノ說明ニ依リ認メ得ヘキヲ以テ原院判決ハ違法ニアラス』被告關侯作上告趣意ハ被告上告人江口源太郎ノ請求スル金六百圓ハ上告人ト田中具太郎カ商業資本ニ供スル爲メ被告上告人ヨリ借受ケタルモノナリ其事實ハ被告上告人ノ自書捺印セル金圓ノ包紙ニ依テ明カナリ然ルニ原院判決ニ之ヲ騙取シタリト認定シタルハ違法ナリ若シ原院判決ニ認メラレタル如ク偽造紙幣ヲ買入ル、爲メナリト詐言シテ騙取シタルモノトセハ其授受ノ原因ハ不法ナルヲ以テ被告上告人ニ請求ノ權利ナキモノナリ故ニ其償却ヲ命ジタル原院判決ハ違法ナリト云フニ在リ

〇右前段ノ論旨ハ原院ノ職權ニ對スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサス後段ノ論旨ニ付キ審案スルニ不法ハ契約即チ偽造紙幣買入ハ約定ハ固ヨリ法律ハ保護ヲ受ケヘキ行爲ニアラスト雖

檢事ノ私訴意見〇不法契約ニ基ク損害



モ、上告人俟作ハ其約定ヲ假裝シテ金圓騙取ノ手段ト爲シタルモノハ被上告人ハ受ケ知ル  
訊害ハ上告人ノ犯罪ニ起因スルヲ以テ被上告人ニ其賠償請求ノ權利アルコト勿論ナリ故ニ原  
判決ハ適法ニシテ上告論旨ハ其理由ナシトス

右ノ理由ナラシテ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件控訴ハ之ヲ棄却ス私訴上告訴訟費  
用ハ上告人之ヲ負擔ス可シ

明治三十一年二月十七日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○公印盗用等詐欺取財ノ件

明治三十一年第五四號  
明治三十一年二月十七日宣告

○判決要旨

陪席判事裁判長ニ告ケテ被告人ヲ訊問スル法則刑事訴訟法第九十四條第  
一項ハ專ラ審理上ノ秩序ヲ保證スル主趣ニ出タルモノナルヲ以テ告ケスシテ被  
告人ヲ訊問スルモ裁判長之ヲ默許シタルトキハ其訊問ハ不法ニアラス

(參照) 陪席判事及檢事ハ裁判長ニ告ケ證人及被告人ヲ訊問スルコトヲ得(刑事訴訟法  
第九十四條)

二條第  
二項

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 大野松次郎 大野留五郎 辯護人 下部喜太郎

右公印盗用公私文書私印偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年十二月十八日東京控訴院  
ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定  
式ヲ履行シ辯護士下部喜太郎ノ辯論檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

被告兩名ノ上告趣意第一點ハ原判決ニ認定シタル事實ハ刑法上ノ犯罪ヲ構成セス然ルニ有罪  
ノ判決ヲ爲シタルハ適法ナリト云フニ在レモ○被告カ公私文書偽造行使詐欺取財罪ヲ犯シタ  
ルコトハ原判決ニ明示スル所ナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ○第二點ハ被告ハ原判決ニ認定  
シタルカ如ク罪ヲ犯シテコトナク一件記録中亦之ヲ證明スヘキモノナキヲ以テ原公決ハ適法  
ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ批難スル過キサルヲ以テ  
上告ノ理由ヲ爲スヲ得ス

辯護士下部喜太郎ノ辯明第一點ハ原判決ニ被告大野松次郎大野留五郎ニ對シ身分ノ關係ヲ取  
調ヘサル證人高田勝藏宮内又一郎ノ證人調書ヲ證據トシテ採用シタルハ適法ナリト云フニ在  
レトモ○高田勝藏宮内又一郎ノ證人調書ハ被告箕輪健之助ニ對スル證據トシテ採用シタルモ  
ノニシテ被告松次郎留五郎ノ證據ニアラサルコトハ判文上自ラ明カナルヲ以テ上告論旨ハ其



理山ナシ第二點ハ原院判決ハ原院ノ公判ニ於テハ被告其ノ供述ヲ斷罪證據ト爲シタルトモ同公判始末書ハ陪席判事カ裁判長ニ告ケスシ被告ヲ訊問シタル記載アリ右ハ刑事訴訟法ノ規定ニ違背スルヲ以テ此訊問ヲ錄取シタル部分ノ違背ナルニ原判決ニ之ヲ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○陪席判事又ハ檢事カ證人被告人等ヲ訊問スルニ方リ先ツ裁判長ニ告ケヘキコトヲ規定シタルハ審判ノ秩序ヲ保ツ爲メナルヲ以テ假令陪席判事カ裁判長ニ告ケスシテ被告ヲ訊問シタルトハハモ裁判長之ヲ妨ケナシトシテ欺詐シタル上ハ違法ハ訊問ニアラサルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ第三點ハ原院カ認メタル事實ハ詐欺取財ト因テ犯シタル二個ノ公文書偽造行使二個ノ私文書偽造行使及一個ノ公印盜用罪ナレハ詐欺取財ト因テ犯シタル數個ノ公私文書偽造ニ付刑法第三百九十九條第二項ヲ適用シテ一ノ重キモノヲ定メ而シテ刑法第三百條ニ從ヒ之ヲ公印盜用ノ罪ト比較シ一ノ重キニ從テ處斷スヘキモノナルニ原院カ刑法第三百條ヲ適用セスシテ直ニ同法第二百六條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○本件ハ公私文書ト詐欺取財ヲ比較シ一ノ公文書偽造ヲ重シト爲シタルモノナレハ其公文書偽造ト因テ犯シタル公印盜用ノ所爲ニ付テハ同法第二百六條ヲ適用スヘク同法第三百條ヲ適用スヘキモノニアラサルヲ以テ原判決ハ違法ニアラス

右ノ理山ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十一年二月十七日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○謀殺未遂ノ件

明治三十一年九月第一一號  
明治三十一年二月十七日宣告

○判決要旨

重罪ノ現行犯アル場合ニ於テ司法警察官ハ刑事訴訟法第四百十七條ノ法則ニ基キ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ從テ其證人ヲ訊問シテ作成シタル文書ハ性質上豫審調書ナリ

(參照) 地方裁判所檢事及區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急遽ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金及費用賠償ノ旨渡テ爲スコトヲ得ス證人及鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ用ユルコトナク之ヲ聽ク可シ(刑事訴訟法第百四十四條)

第四百四十四條第四百十六條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得但勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス(刑事訴訟法第二百四十七條第二項)

第一審 札幌地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告 渡邊六三郎 辯護人 澤田俊三

司法警察官ノ豫審調書



右謀殺未遂被告事件ニ付明治三十一年一月十七日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ然ルニ原院カ刑法第二百九十三條等ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リトモ○證據ノ取捨事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ屬ス而シテ原院ハ謀殺未遂犯罪ナリト認定シ刑法第二百九十三條等ヲ適用シタルモノナレハ擬律ニ錯誤アルコトナシ上告辯明書第一ハ被告ハ警察官ヲ信用セサルユヘ裁判所ノ判決ヲ受ケンコトヲ決意セリ檢事局ニ於テ取調ヲ受ケタル節ニ被告ハ沈黙シテ誦讀セシノミ而シテ豫審判事ノ取調ヲ受ケタル節ハ恐怖ノ念全身ヲ蔽ヒ判事ノ叱責ヲ受ケタルコトノ外何事ヲモ記憶セス第一審裁判所ニ於テハ數日間公判ヲ中止セシユヘ書類ノ事實ヲ忘却セリ且各證據ノ取調終ヘタル毎ニ被告ノ意見ヲ聽カサリシ又其判文ニ揭ケタル證據即チ診斷書ノ日附ハ曖昧ニシテ信ヲ置キ難ク被害者カ子ヲ強テ招キ及ヒモルヒ子タルヲ知テ服用セシメタリ等ノ事實ハ相違セリ依テ控訴ヲ爲シタルニ原院ハ公判開廷ノ當日辯護人ヲ私撰スル爲メニ請求シタル公判ノ延期ヲ聽許セス及ヒ診斷書等ノ朗讀ヲ求メタルモ亦之ヲ許サス以テ被告ノ辯護權ヲ奪却セリ則チ原院ハ形式的ノ裁判ヲ爲シタルノミニシテ豫審ノ實ニ背クモノナリ而シテ本件ノ事實ハ被告カ被害者及ヒ其養父等ヨリ非常ノ罵詈喧嘩ヲ受ケタルヨリ一時憤怒ニ乘シ殺害ノ豫備ヲ爲シタルニ過キス然ルニ原院カ之ヲ謀殺未遂罪トシテ處斷シタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ第一審判決及ヒ其以前ニ係ル手續上右

等ノ瑕瑾アリトスルモ第二審ニ於テ相當ノ手續ニ依リ判決ヲ受ケタル上ハ該瑕瑾ヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス而シテ第二審ニ於テハ被告ヨリ公判ノ延期ヲ求メタル事蹟ナキノミナラズ公判手續上上告論旨ノ如キ不法ノ點ナキコトハ其始末書ニ依リ明白ナリ而シテ事實認定ノ非難ハ上告ノ理由トナラサルコト前ニ説明セシ所ノ如シ辯明書第二ハ原院ニ於テ本件ヲ審理スルニ先チ裁判官一名書記ノ立會ニテ取調ヲ爲シタルモ其調書ヲ被告ニ讀聞カセサリシハ不法ナリ又本件ノ如キハ事實ノ陳述ヲ爲スニ付キ猥褻ノ言語ヲ發セサルヲ得ス然ルニ原院ハ傍聽ヲ禁セス裁判ヲ公行シタルユヘ被告ノ意思ヲ述フルコトヲ得サリシト云フニ在リトモ○開廷前ニ於ケル重罪事件ノ取調ニ付テハ其調書ヲ被告人ニ讀聞カスヘシトノ規定ナク又裁判所ニ於テ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルニ非ケレハ對審ノ公行ヲ停止スヘキモノニ非ス故ニ該論旨モ亦上告ノ理由トナラス此他該辯明書中繰述スル所アルモ要スルニ第一辯明書ノ旨趣ヲ敷衍スルニ過キサルヲ以テ重子ヲ説明チ與フル要ナシ辯護人澤田俊三上告擴張論旨ハ原判文ニ以上ノ證據ハ司法警察官ノ作リシ檢證調書證人阿部仙太郎尾立方實樞本駒吉楢本カ子鑒定人北村精藏被告六太郎ニ對スル豫審調書云々トアレトモ證人尾立方實樞本駒吉ハ宣誓ノ式ニ則リ相當官ノ面前ニ證言シタルコトナシ右兩名ハ公訴前ニ無宣誓ニテ警察官ト問答シタル調書アルノミ又鑒定人北村精藏ハ豫審ニ於テ證言シタルコトナシ故ニ原院ハ記録中ニ存在セサル證據ヲ採用シタル不法アリ假リニ前掲ノ調書ヲ豫審調書ト云フヲ得ヘントスルモ皆ナシ是宜言フキモノナルヲ以テ適法ノ證言ト認ムルヲ得スト云フニ在リ○然レトモ○



訴訟法第四百十七條ニハ第四百十四條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行ハトトテ得ヘキ旨ヲ定メ而シテ第四百十四條ニ地方裁判所檢事及ヒ區裁判所檢事ハ豫審判事ニ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯ナルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急遽ヲ要スルトキハ云々犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得云々證人及ヒ鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ用ユルコトヲ之ヲ聽カ可シトアリ而シテ本件ハ重罪ハ現行犯ナルニ依リ右ノ規定ニ基キ司法警察官ニ於テ犯所ニ臨檢シ是立方實情本駒吉等ニ對シ證人トシテ訊問ヲ爲シ以テ其調書ヲ作ルモノナレハ該調書ハ之ヲ豫審調査ト云ハテ得ヘク從テ原院カ記録ニ存在セザル證人調書ヲ採用シタルニ非ザルヤ明ナリ又同條ノ規定ニ基キタル取調ナル以上ハ宣誓ヲ爲サシムヘキモノニ非ザルカ故ニ宣誓ナキノ故ヲ以テ證言タル効力ナシト云フヲ得ヌ又鑑定人北村精造ノ調書モ右同一ノ規定ニ依リ作成セラレタルモノニシテ即チ鑑定人調書ト題スル同人ノ調書ナルヲ以テ原判決ハ採證上毫無不法ノ點ヲキモノトス

又被告ハ原判決ヲ破毀スルニ於テハ更ニ訊問ヲ受度トテ其事項ヲ揭ケル願書ヲ提出スト雖トモ原判決ヲ破毀スヘキ理由ナキコトハ前ニ説明スル如クナルヲ以テ該書面ニ對シテハ別ニ説明セズ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十一年二月十七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○恐喝取財ノ件

明治三十一年一月第二三〇號  
明治三十一年二月十七日宣告

○判決要旨

裁判費用ノ連帶負擔ヲ命スルハ刑法第四十七條ノ法則ニ基クモノナリ從テ其判決ニ該條ヲ援用セザルモ不法ニアラス

(參照) 教人共犯ニ係ル裁判費用贖物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシ  
 (刑法第四十七條)

第一審 青森地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 鹿内甚悦 辯護人 花井卓藏

右恐喝取財被告事件ニ付明治三十一年一月二十四日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ被告ニ於テ長谷川與兵衛ノ松村四木ヲ福太郎ニ賣渡シタルコトナキノミナラス酒其他ノ代金トシテ福太郎ニ支拂フ可キ義務ハ獨リ被告ノ負擔スヘキモノニアラスシテ其實與兵衛其他數人ノ共同義務ナルコトハ證人等ノ申立ニ依リ明ナルニ原院カ本件ノ基因トシテ

裁判費用連帶負擔ノ法則



之ヲ認メタルハ不當ナリ且嘉七宛金七十圓ノ預證書ノ事及ヒ該金額受領ノ事ハ被告ノ開示ニ  
 タルコトナキニ原院カ證書ヲ騙取シタルモノト裁判シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右  
 ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定探證ノ當否ヲ非難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由トナ  
 ス

辯護人花井卓藏上告趣意擴張第一ハ刑法第三百九十條ニ所謂證書トハ權利義務ノ成立關係  
 證明スヘキ文書ノ謂ナリ故ニ名ハ證書ナルモ其實權利義務ノ證明ニ關係ヲ有セサル文書ハ  
 欺取財ノ目的物トナスヲ得ス然ルニ原判決ハ其主文ニ於テ押收ニ係ル念書ハ被害者ニハ  
 付ストト判定シ理由ノ部ニ至リ被告甚悅宛念書ヲ差出サセ共ニ之ヲ騙取シタルモノトス  
 ○然レニ止リ該念書ノ果シテ權利義務ノ成立關係ヲ證明スヘキ性質ヲ有スルモノナリキ  
 理由ヲ說明セサルハ理由ニ不備アル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○然レトモ原判決ニハ福太  
 耶ハ茲ニ畏懼ノ念ヲ生シ松村ハ已レガ勝手ニ費消セシモノナル旨無實ノ自白ヲ爲シ至リ  
 レハ被告ハ金員及ヒ勝手ニ費消シタル旨ノ念書ヲ差出スヘシト云ヒ云々金七十圓ノ預  
 及ヒ被告甚悅宛念書ヲ差出サセ云々トアリテ則チ該念書トハ福太郎カ勝手ニ費消シタル旨  
 リテ負擔シタル義務ヲ證明スヘキ證書ナリトノ理由明瞭ニシテ上告論旨ノ如ク不法ヲ闡明  
 二ハ原院ハ判決主文ニ於テ公訴裁判費用金二十圓十錢ハ被告及原裁判相被告太田嘉七ノ負擔  
 トスト云渡シ被告及第一審ノ相被告太田嘉七ノ兩名ニ負擔ヲ命シタルニ拘ハラフハ法律適用ノ  
 部ニ至リ公訴裁判費用ハ同第二百一一條ニ依リ被告ヘ負擔セムヘキモノトストト判示シ單ニ上

告人一名ニ於テ負擔スヘキモノノ如ク說明シタルハ理由ニ顯著アル不法ノ裁判ナリト云フ  
 在リ○依テ原判決ヲ開スルニ法律適用ノ部ニ所謂被告ニ負擔セシムヘキモノトストト文書  
 特ニ被告一人ニテ負擔スヘシトノ旨趣ニアラスシテ其義務ノ連帶タルコトヲ明示セザル  
 キス故ニ該判決ノ旨趣ニ於テハ毫モ主文ニ異ナルコトナシ同第三ハ原院ハ公訴裁判費用  
 運算負擔ヲ命シタルニ拘ハラフハ法律適用ノ部ニ於テ刑法第四百七條ヲ援用セサルハ法律適用  
 用セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院カ連帶負擔ヲ命シタルハ則チ刑法第四百七  
 條ヲ適用シタルニ因ルハリ故ニ法則ヲ適用セサルモノト云クカ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十一年二月十七日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣言ス

○冒認販賣ノ件 明治二十年第七七〇號  
 明治二十一年二月十八日宣告

○判決要旨

呼出狀ヲ辯護人兩名ニ宛テ送達シタル場合ニ於テ其副本一名ノ署名捺印  
 ルニ止マルトキハ他ノ一名ニ對シテハ送達ノ効ナキモノトス

辯護人ノ呼出狀ノ送達



第一審 新潟地方裁判所新發田支部 第二審 東京控訴院

被告人 (相馬 峯藏) 辯護人 (山口 憲)  
(相馬 虎藏) (高木 益太郎)

右旨認實被告事件ニ付明治三十年六月二十六日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當トシ被告兩名ハ上告ヲ爲シ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條及ヒ裁判所構成法第四十九條ニ依リ審判スルコト左ノ如シ

被告兩名ノ辯護人山口憲被告峯藏辯護人高木益太郎ハ上告總意擴張第一點ハ刑事訴訟法第二百五十七條ニ控訴裁判所ニ於テハ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ルヘシ呼出狀ノ送達ト出頭ノ間少クとも二日ノ猶豫アルヘシトノ規定アリ然ルニ明治廿年六月二十六月原院ニ於テ本件ノ公判ヲ開シニ當リ辯護人昆田文治郎ニ對シ適式ノ呼出ヲ送達セシメトナキヲ以テ同辯護人ハ固ヨリ出廷シタル事ナク又公判始末書ニモ被告人ニ於テ同辯護人ノ出廷ヲ要セザル旨ノ記載アルヲ視テ而シテ所謂訴訟關係人中ニハ辯護人ヲ含ムモノト解釋スヘキモノナレハ原院カ訴訟關係人タル辯護人ニ向フテ適式ナル公判期日ノ通知ヲ爲サスシテ公判ヲ終リタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ被告人ニ於テ辯護人ヲ選定シタル旨ノ届出ヲ爲シタル以上ハ裁判所ハ刑事訴訟法第二百五十七條ノ規定ニ從ヒ其届出アル各辯護人ニ對シ公判期日前之カ呼出狀ヲ發シ以テ審判ニ着手スヘキハ勿論ノ事ナリトス然ルニ明治三十年六月二十六日原院カ本件ノ判公ヲ開クニ際リ被告兩名ノ辯護人タル昆田文治郎ニ對シ

呼出狀ノ送達ヲ爲シタル事跡ナク又同辯護人カ同日出廷シテ辯論ヲ爲シタル事跡ナシ但被告虎藏ハ辯護人タル小林豊太郎ト昆田文治郎トニ宛テタル一通ノ呼出狀副本ノ存スルモ其受取人署名ノ部ニハ獨リ小林豊太郎ノ署名捺印アルハミニシテ昆田文治郎ノ署名捺印ナキニ依リ之ヲ以テ文治郎ニ對シテ呼出狀送達ノ效アリト爲スコトヲ得サルナリ然レハ原院公判ハ當然呼出スヘキ辯護人昆田文治郎ヲ呼出スコトナク辯論ヲ終結シタル不法アルモノニシテ其不法ノ手續ニ基キ下シタル判決ノ不法タル亦勿論ナリトス原判決ハ此點ニ於テ全部ノ破毀ヲ免レサルヲ以テ他ノ上告論點ニ對シテハ說明ヲ與フルノ要ナシトス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則リ原判決ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ニ移送ス

明治三十一年二月十八日大審院刑事聯合部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○嬰兒壓殺ノ件 明治三十一年第一二二六號  
明治三十一年二月十八日宣告

○判決要旨

被告人ノ特徴



公訴狀ニ被告人ノ特徴トシテ郡村名及一定ノ官署ニ捕ヘラレ居ルモノナルコトヲ指示スル以上ハ其氏名ヲ明示セサルモ有効ノ起訴ナリ

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 篠原安次

右安次カ嬰兒壓殺被告事件ニ付明治三十年十一月八日大阪控訴院ニ於テ公訴不受理ノ判決ヲ爲シタルニ對シ同院檢事長林誠一ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ請求シ被告ハ本上告ハ其理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第三百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ  
上告ノ要旨ハ本案不受理ノ理由トスル所ハ檢事ノ豫審請求書ニ被告人ノ氏名ヲ掲ケサルヲ有

効ノ起訴ト認ムル能ハスト云フニ在ルカ如クナレトモ其起訴ノ手續ハ判決書ニモ記載スル通リ佐川分署長ヨリ高知地方裁判所檢事正ニ宛テタル電報昨午前三時嬰兒壓殺犯アリ犯人捕獲檢證最必要云々トアリテ基礎トシ現ニ佐川分署ニ捕獲シアル所ノ其人ニ對シ豫審ヲ求メタルモノナルコトハ豫審請求書ニ明記アリ此請求ニ依リ豫審判事ハ直ニ出張シタルニ果シテ其犯人ハ即チ同村篠原安次ヲ捕獲シアリタル事實ニシテ之レヲ約言スレハ檢事ノ起訴ハ嬰兒壓殺ノ被告人高岡郡佐川村ノ者ニシテ氏名ノ未タ詳カナラサルモ現ニ佐川分署ニ捕ヘアル者ニ對シ豫審ヲ求ムト云フニ在リ被告人ノ誰タルコトハ素ヨリ確定ノ人アリテ單ニ其氏名ヲ詳カニセサルノミ之ヲ警邏氏名不明ノ場合即被告ノ誰タルヲ推知シ得サル場合ト同視スヘキ者ニ

アラス判文ノ趣意ニ依ルモ人相特徴等以テ他人ト區別シ得ル場合ハ氏名不明ナルモ猶有効ノ起訴ナリト認ムルニアラスヤ本案ハ管ニ其人相特徴ナルノミナラス現ニ捕獲シアル人ニ對シ他人ト區別シ得ル之ヨリ明白ナルハナカルヘシ然ルニ原判決ハ現ニ捕獲シアル一定ノ人ニ對シ豫審ヲ求メアル事實ハ認メナカラ其氏名人相特徴等ノ記載ナキノミヲ以テ有効ノ起訴ニアラストナシ公訴不受理ノ旨渡チ爲シタルハ頗ル失當ナルヲ以テ該判決ヲ求ムト云フニ在リ  
依テ該豫審請求書ヲ見スルニ被告事件訴名ノ欄ニ嬰兒壓殺トアリテ被告人ノ欄ニハ高岡郡佐川村氏名不明トアリ又其裏面ニ別紙電報ノ通ニ付直チニ臨檢有之度候也トノ追書アリ而シテ之ニ添付シタル電信ハ佐川分署長久下警部ヨリ高知地方裁判所長森檢事正宛ニシテ其文ニ佐川村ニテ昨午前三時嬰兒壓殺犯アリ犯人捕獲檢證尤モ必要醫師ノ同行望解剖モ必要ト認ムトアルニ依レハ檢事ハ長岡郡佐川村村人ニシテ且ツ現ニ佐川警察分署ニ捕ヘラレ居ル人ニ對シ嬰兒壓殺犯ノ起訴ヲ爲シタルコト明瞭ナリ凡ソ起訴狀ニハ一定ノ人ヲ指稱スルコトヲ要スルカ故ニ被告人ノ氏名明カナル場合ハ其氏名若シ其氏名ヲ詳カニセサル時ハ其人相特徴等ヲ以テスルモ妨ケナキモハナルニ本件ハ如ク犯人ハ郡村名及一定ノ官署ニ現ニ捕ヘラレ被告人ナルコトヲ指示スル以上ハ其氏名ヲ詳ニセサルモ一定ノ人ナルコトヲ確ムルニ十分ナレハ該豫審請求書ニ依リ提起セラレタル本件公訴ハ有効ナルハ勿論トス然ルニ原院カ右豫審請求書ニ犯人ノ氏名若クハ人相特徴等記載ナキノ故ヲ以テ檢事ハ被告ノ何人タルヲ確メ能ハザリシモノト爲シ隨テ本公訴ハ有効ノモノニアラスト論結シ以テ公訴不受理ノ旨渡チ爲シタル

被告人ノ特徴



ハ上告諭旨ノ如ク不法ノ判決ニシテ破毀ノ理由アリトス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十二條ヲ準用シ原判決ヲ破毀シ本案ノ裁判ヲ爲サシ  
ムル爲メ本訴ヲ大阪控訴院ニ差戻ス

明治三十一年二月十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○官私文書偽造行使等ノ件 明治三十一年第二號  
明治三十一年二月十八日宣告

○判決要旨

詐欺取財ヲ爲スニ因テ官文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ刑法第三百九十條第二  
項ヲ適用シ一罪トシテ處斷スヘキモノトス

(參照) 人ヲ欺罔シ又ハ恫喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト  
爲レ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ官私  
ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑  
法  
第九十條)

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴私訴上告人 瀧 興純  
私訴被上告人 山根 龜吉

右瀧純カ官私文書偽造行使私印盗用詐欺取財破告事件ハ控訴ニ付明治三十年十二月十一日大  
阪控訴院ニ於テ審理ノ末公訴ニ付テハ原判決中私印盗用私書偽造行使ニ關スル以外ノ部分ヲ  
取消シ更ニ被告ヲ重懲役九年ニ處ス抑収書類ノ内偽造ニ係ル文書ハ之ヲ沒收シ其他ノ書類ハ  
各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トス私印盗用私書偽造行使ニ關スル檢事ノ控訴  
之ヲ棄却スト旨被シ私訴ニ付テハ本件控訴ハ之ヲ棄却ス控訴費用ハ控訴人ノ負擔トスト旨  
渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ公訴相手方原院檢事長林誠一ハ  
上告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ遂クル處  
被告カ上告ノ要旨第一點ハ原判決第一ノ事實中明治二十八年年度造林費ノ豫算額トシテ金四拾  
四圓ノ令達ヲ受ケ居リタルヲ以テ明治二十九年一月十三日造林實行伺書及同月二十七日其見  
込書ヲ調製シ之ヲ高知大林區署ニ進達シテ該事業者手ノ認可ヲ經タルヨリトアル迄ノ事實ニ  
ハ固ヨリ犯罪行爲ト認メラレタルモノニ非サルコトハ判文上明瞭ナリ然ルニ法律適用ノ部ニ  
至リ造林實行伺書及見込表(原判決ニハ及見込表ノ四字ナシ被告ノ誤記ト認ム)ニ官署ノ印ヲ盜  
用シタル所爲ハ孰レモ同法第九十七條第二項第九十五條ニ該ル云々トアルハ擬律ノ錯誤  
ナリト云フニ在レトモ○原判決第二ノ事實中明治二十九年五月十九日付高知大林區署長林務

詐欺取財ニ基ク官文書偽造



官和田國次郎宛造林實行書及之ニ添付スル造林實行見込表ヲ偽造シ自ラ監守スル姫ノ井小  
 林區署印ヲ以テ書ノ表面上部ニ契印ヲ爲シ後同日之ヲ高知大林區署ニ進達シトアル官印盜  
 用ノ所爲ニ對スルモノニテ本論旨ハ畢竟被告ノ誤解ニ基キ適法上告ノ理由ナシ同第二點ハ原  
 判決第一ニ於テ明治二十九年四月六日付高知大林區署長林務官和田國次郎ニ宛テタル明治二  
 十八年三月分造林實行報告書及同年四月十五日付同人宛ノ造林賣下渡シニ付テノ上申書ヲ偽  
 造シ上申書ノ表面上部ニハ自ラ監守スル姫ノ井小林區署印ヲ以テ契印ヲ爲シ云々ノ行爲ヲ目  
 シ官文書偽造官印盜用ト認メラレタルモ右ノ書類ハ原判決ノ認定ニ依ルモ被告カ騙取セント  
 認メラレシ金九圓ノ外ナル三拾五圓ノ造林費ヲ得ル爲メニモ必要ナルモノニシテ現ニ此書類  
 ニ依テ下付セシ金員四拾四圓ノ内金三拾五圓ハ受領人共ノ領收セシハ原判決ニ認メラレシ處  
 ナリ此ノ如ク一部ニ無實アルニ過キタルモノヲ全體ニ無實アルモノト同視シ官文書偽造官印  
 盜用ナリト疑律セラレシハ不法ナリト云フニ在レトモ○苟クモ官文書ヲ偽造シ官印ヲ盜用シ  
 之ヲ行使シタル上ハ其文書中ノ一部ニ真正ノ事實ヲ一載シアルモ之カ爲メ罪責ヲ免カルヘキ  
 モノニ非ス同第三點ハ官印盜用ニ付テハ第一審判決ニ明示セラル、如ク未タ豫審請求ナキ事  
 件ナレハ第一審判決ノ如ク受理セラレサル正當トス然ルニ原判決之ヲ受理シテ判決セラレ  
 タルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件ハ官文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ盜用シタルモノ  
 ナレハ官文書偽造ニ對シテ起訴ト共ニ官印盜用ノ點モ亦起訴セラレタルモノト認メサルヘカ  
 ラス故ニ原判決カ此理由ヲ以テ官印盜用ノ點ヲモ受理審判シタルハ相當ナリトス同第四點ハ

原判決第二ノ事實ニ於テモ造林實行書之ニ付スル造林實行見込表モ偽造ノ内ニ算ヘラレ  
 タルモ是等ハ未タ官文書偽造官印盜用ニアラスト云フニ在リテ○原審官ノ職權ニ屬スル事  
 實ノ認定ヲ非難スルニ過キス上告適法ノ理由ナシ

上告擴張ノ要旨第一點ハ原判決ハ被告ノ偽造シタリトスル官文書ノ日附ハ之ヲ明示シタルモ  
 其文書カ高知大林區署ニ達シタル月日即チ行便ノ日ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レト  
 ○原判決第一ニハ明治二十九年四月六日付云々同年四月十五日附云々偽造云々高知大林  
 區署ニ送致シ同年六月頃大林區署ヨリ金四拾四圓ノ送付ヲ受ケトアリテ行使ノ日ハ詳ナラサ  
 ルモ明治二十九年四月十五日ヨリ同年七月迄ノ間ニ在リタルコト明カナリ同第二ハ明治二十  
 九年五月十九日付云々ヲ偽造シ云々右同日之ヲ高知大林區署ニ進達シトアリテ行使ノ日ヲ明  
 記シアリ次ニ明治二十九年七月十一日付云々同年七月十一日付云々ヲ偽造シ云々高知大林區  
 署ニ送致シ同日不詳右大林區署ヨリ金四十四圓ノ交付ヲ受ケトアリテ行使ノ日ハ詳ナラサ  
 ルモ明治二十九年七月十八日ヨリ同月末日迄ノ間ニ在リタルコト明ナリ左レハ本件間文書偽  
 造行使ノ所爲ハ孰レモ公訴ノ時効ニ罹ルヘキモノニ非サルヤ言テ候タス旁々以テ本論旨ハ原  
 判決破毀ノ理由ト爲スニ足ラス第二點ハ原判決第二ノ事實中被告契純ハ前掲防線路修繕ノ  
 爲メ其筋ヨリ明治二十九年年度造林費ノ豫算額トシテ金四十四圓ノ令達ヲ受ケ居リタルヨリ再  
 ヒ高知大林區署ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ先ツ云々トアリテ被告カ既ニ騙取ノ決意アル  
 モノト認メラレナカラ其末ニ而シテ被告ハ専ラ事業ニ着手スルコトナク監督官廳ニ對シテハ



云々トアリテ此時始テ騙取ノ意ヲ發シタルモノ、如ク認メラレタルハ理由顯赫ノ裁判ナリト云フニ在レトモ、被告カ騙取ノ意ヲ決シ先ツ造林實行調書等ヲ偽造リ之ヲ高知大林區署ニ進達シ次ニ造林實行報告書等ヲ偽造シ同シク之ヲ進達シ以テ豫算額通りニテ工事ヲ竣功シタルモノ、如ク監督官廳ナ欺罔シタル事實ハ原判決中明確ニ叙記シアリテ毫モ其理由ニ翻辯アルナ見ス同第三點ハ原判決法律適用ノ部ニ第一第二ノ所爲トモ官文書偽造行使ノ數罪俱發ニ係ルヲ以テ同法第百條ニ依リ云々トシテ同法第三百九十條第二項ニ依リ官文書偽造行使ノ所爲ヲ重トシ之ヲ論スヘキモノナルモ二罪俱ニ發シタルニ付同法第百條ヲ適用シ第二ノ所爲ニ從ヒ處斷スヘキモノタリトアリテ右官文書偽造行使ハ事實上詐欺取財ト一罪ナルニ拘ハラス數罪トシ數罪俱發ノ法條ヲ再ヒ適用シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○本論旨ハ其理由アリ何トナレハ詐欺取財ヲ爲スニ因テ官文書ヲ偽造行使スル場合ニ於テハ刑法第三百九十條第二項ニ依リ其各本條ニ照シ重キニ從テ處斷シ即チ結局一罪ト爲ルヘキモノニシテ偽造文書一通毎ニ一罪ヲ構成スヘキモノニ非ラハナリ然ルニ原判決數箇ノ官文書偽造行使ヲ數罪トシ刑法第百條ヲ適用シタルハ法律ノ錯誤ニシテ此點ハ破毀更正ヲ免カレサルモノトス同第四點ハ根元タル私文書偽造ニ無罪トシナカラ之ニ一申セタル官文書ノ偽造行使ト認メラレタルハ不法ナリト云フトニ在レトモ○官文書ト私文書トハ固ヨリ各別ノ文書ナレハ一方ハ偽造ニ係ルモ他ノ一方ハ誦法ニ作來セラルコトアルヘキト言テ俟タス故ニ原判決私文書偽造行使ノ點ハ證據不十分ナリトシ無罪ヲ言渡シタルニ拘ハララス官文書偽造行使ノ點ハ證據充分ナリト

有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ相當ニシテ本論旨ハ其謂レナシ  
被告ハ私訴判決ニ對シテモ上告ヲ爲ス旨申立テ而シテ其趣意トシテ私訴ノ判決ハ言渡書中ニ記載無之候條更ニ相當ノ御判決相成度ト云フモ右ノ如キハ上告トシテ適法ニ成立スヘキモノニ非ス  
右ノ理由ナルヲ以テ私訴ノ上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ之ヲ棄却シ公訴ノ上告ニ付テハ同法第二百八十六條第二百八十七條ニ則リ原判決擬律ノ部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スルコト左ノ如シ

右  
混 濁 純

原院ノ認定シタル被告カ第一第二ノ所爲中會員ヲ騙取シタルハ○レモ刑法第三百九十條第一項第二百九十四條ニ該リ官文書ヲ偽造行使シタルハ○レモ同法第二百三條第二百五條第一項ニ該リ官印ヲ盗用シタルハ○レモ同法第九十七條第二項第九十五條ニ該ル然ルニ官文書ヲ偽造スルニ因リ官印ヲ盗用シタルモノナルニ付同法第二百六條ニ依リ○レモ造林費下渡ニ付テノ上申書ヲ偽造行使シタル所爲ヲ重トシ之ヲ論シ尙ホ詐欺取財ト爲スニ因リ官文書ヲ偽造行使シタルモノナルニ付○レモ同法第三百九十條第二項ニ依リ前掲上申書ヲ偽造行使シタル所爲ヲ重トシ之ヲ論スヘキモノナルモ第一第二ノ二罪但發ニ付同法第百條ヲ適用シ第二ノ所爲ニ從ヒ處斷スヘキモノトス餘ハ原判決ノ通



明治三十一年二月十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○強盜殺人ノ件

明治三十一年第五號  
明治三十一年二月十八日宣告

○判決要旨

公判下調書ニハ被告人ニ於テ身體ノ拘束ヲ受スシテ出廷シタル旨ヲ記載スル

ヲ要セズ

第一審 岡山地方裁判所津山支部 第二審 廣島控訴院

被告人 延原孫次郎 辯護人 高木彦太郎

右強盜殺人被告事件ニ付明治三十年十二月二十二日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ  
被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
上告趣旨ノ第一點ハ原院ニ於テ被告カ明治二十八年二月一日午前十時頃根雨村大字放井原

西畑直次郎方ヨリ被害者永井竹次郎ト同道シ翌二日午前三四時頃要北條郡田邑村字下田村瀨  
戸ニ誘來リ殺害シ所持ノ金圓ヲ強取シタリト認メタレトモ竹次郎ハ明治二十八年二月一日午  
後八時頃既ニ該地ニ於テ殺害セラレ居タルコトハ宮尾專治ノ鑑定及ヒ其供述ニ依テ明ナリ且  
西畑直次郎方ヨリ犯罪地迄十九里餘アリ殊ニ積雪丈餘ノ難路ナレハ到底爲シ能ハサル事ナリ  
然ルニ原院カ右ノ如ク認メ有罪トシテ處斷シタルハ違法ナリト云フニ在テ○原承審官ノ職權  
ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス

第二點ハ原院カ罪證ニ供シタル附木二個ヲ被告ニ示シテ辯解ヲ爲サシメサリシハ違法ナリト  
云フニ在レトモ○押収ノ各證據書類物件ヲ被告ニ示シテ辯解ヲ求メタルコトハ原院ノ公判始  
末暨ニ明記シアルニ付本論旨ハ其謂レナキモノトス

第三點ハ原院カ斷罪ノ資料ニ供シタル各證據ハ被告ノ無罪タルコトヲ立證シ得ラルヘキモノ  
ナルニ犯罪ノ證據十分ナリト爲シタルハ理由齟齬ナリト云フニ在テ○原承審官ノ探證ノ不當  
ナルコトヲ論難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

第四點ハ原院ニ於テ立會檢事ヨリ被告事件ノ陳述ヲ爲サス其儘終結シタルハ違法ナリト云フ  
ニ在レトモ○刑事訴訟法第二百八十八條第二項ニ檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シトアルハ第一審  
ノ公判ノミニ適用ス可キ規定ニシテ第二審ニ於テハ控訴申立人ニ於テ控訴ノ趣旨ヲ陳述スル  
ヲ以テ足ルモノナレハ本論旨ハ被告カ法律ヲ誤解シタルモノト認ム

第一擴張書ノ第一點ハ原判文證據列記ノ部ニ證人川田長平治ノ豫審訊問調書トアレトモ本件



ニ付此ノ如キ証人ナシ然ルニ之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ川田長平治トアル川ノ字ハ河ノ字ノ誤記ニシテ即チ原院ハ証人河田長平治ノ豫審調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルモノト認ムルニ付不法ニアラス

第二點ハ被告カ明治二十八年二月一日西畑直次郎方ヨリ同行セシハ被害者永井竹次郎ニ非サルコトハ直次郎及西村シケノ證言等ニ於テ明ナリ云々然ルニ原院ニ於テ被害者竹次郎ト同行シタルモノト認メタルハ不法ナリト云ヒ第三點及ヒ第四點ハ上告趣旨ヲ反覆致行スルニ過キス第五點ハ証人立石實五郎ノ供述ニ依ルモ本件ノ加害者ハ必ス他ニ在ルコト明ナリ云々被告ハ當時伯耆地方ニ在テ犯罪アリシ地ニ居リシコトナント云フニ在テ○右論旨ハ總テ原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサルモノトヘ

第二擴張書ノ第一點ハ上告趣旨第三點ト同一ナルニ付其說明ニ依テ了解ス可シ  
第二點ハ第一擴張書第二點ノ論旨ヲ敷衍シ明治二十八年二月一日西畑直次郎方ヨリ同行セシハ被害者永井竹次郎ニアラスシテ藪木九平ナル者ナリ故ニ同人ヲ証人トシテ喚問アランコトヲ申請シタルニ之ヲ却下シ其採用ス可キ證據ヲ採用セザリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○証人喚問ノ必要アルヲ否テ判斷シテ其申請ヲ許スルハ原承審官ノ職權ニ存スルモノナレハ右申請ヲ採用セザリシハ違法ナリト爲スコトヲ得ス其他ハ第一擴張書第二點ニ對スル說明ニ依テ了解ス可シ

第三點ハ被告ハ慶應三年十二月五日生アルニ原判文ニ三十一年十二月生トアルハ違法ナリト

云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ附スルニ被告ハ三十一歳十二月生ト申立タルヨリ原院ニ於テ被告ノ年齢ヲ三十一年十二月生ト認メタルモノナレハ之ヲ以テ不法ナリト爲スコトヲ得ス

第四點ハ被告ハ明治二十八年二月二日午前二時頃目木村木浦津平方ニ宿泊シ同三四時頃同所ニ在リタルコトハ同人ノ證言等ニ依ルモ明ナリ且同人方ヨリ犯罪地迄里程七里餘アリ云々然ルニ原院ニ於テ右同日午前三四時頃犯罪地ニ於テ被害者竹次郎ヲ殺害シタルト認メタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○本論旨モ亦原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス

第五點ハ第一擴張書第一點ノ論旨ト同一ナルニ付其說明ニ依テ了解ス可シ  
辯護人高木益太郎ノ辯明論旨第一點ハ被告ノ第二回豫審調書ヲ見ルニ其記載ノ事項ハ毫モ本案ノ事實ニ關スル供述ニアラス唯立會書記ニ對スル忌避ノ申立ヲ記載シタルニ過キサレハ右書ハ實體上本件ノ犯罪事實ヲ證明スルノ價值ナキモノナルニ原院カ右調書ヲ形式上ノ證據トシテ列擧シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○實體上犯罪事實ヲ證明スルニ足ルモノナルヲ否テ判斷スルハ法律上承審官ノ職權ニ任スルモノナレハ本院ノ審査スヘキ事柄ニアラス故ニ本論旨ハ要スルニ原承審官ノ職權ニ存スル證據ノ取捨ヲ論難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス  
第二點ハ原院ノ下調調書ヲ見ルニ被告ハ身體ノ拘束ヲ受ケス出廷シタリトノ記載ナキヲ以テ



其拘束ヲ解キタルモノト認ムルコトヲ得ス異シテ然ラハ其訊問調査ハ無効ニ歸ス可キモノナ  
 ルニ原院力之ヲ有効ノ下調アリタルモノト認メ直チニ公判ヲ開キタルハ不法ナリト云フニ在  
 レトモ○公判ハ下調調査ニ被告カ身體ハ拘束ヲ受ケス出廷シカトハ記載ヲ要スルハニア  
 ハス故ニ其記載ナキヲ以テ右調査ヲ違法ニシテ無効ナリト爲スコトヲ得ス因テ原院力有効ノ  
 下調ヲ爲シタルモノトシテ公判ヲ開キタルハ決シテ違法ニアラサルナリ  
 第三點ハ本件ハ明治二十八年二月二日檢事ヨリ控訴アリタル末同年四月十六日公判ニ移サレ  
 尋テ其決定確定シタルコトハ明治二十九年一月二十七日附岡山地方裁判所津山支部檢事局書  
 肥ノ證明書ニ依テ明ナリ然ラハ則チ其後一件記録火災ノ爲メ焼失シタリト雖トモ之カ爲メ確  
 定裁判ノ効力ヲ無視スヘキ筋合ナキニ付第一審裁判所檢事カ再ヒ同一事件ニ付起訴シタルハ  
 不法ナルヲ以テ不法ノ公訴ニ基キ成立タル豫審調査ハ無効ナルニ原院力之ヲ罪證ヲ供シタル  
 ハ不當ナリト云フニ在レトモ○本件ハ蓋キニ明治二十九年三月十四日大阪控訴院ニ於テ檢事  
 ノ起訴ナキモノト認メ公訴不受理ノ判決ヲ爲シ其判決確定シ乃チ初メヨリ檢事ノ起訴ナキモ  
 ノトナリタルカ故ニ檢事ニ於テ同月十八日更ニ起訴シタルモノナレハ固ヨリ適法ノ起訴ナル  
 ニ付此起訴ニ基キ成立タル豫審調査ノ有効ナルコト勿論ナリ故ニ原院力之ヲ罪證ニ供シタ  
 ルハ決シテ不當ニアラサルナリ  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十一年二月十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○官印盜用官文書偽造詐欺取財ノ件

明治三十一年第八九號  
明治三十一年二月十八日宣告

○判決要旨

偽造ノ賣買證書ニ登記濟ト記載シテ行使シタル場合ニアリテハ賣買證書偽造  
 ノ所爲ハ公證文書偽造ノ所爲ニ包含ス從テ刑法第二百四條ヲ適用シテ處斷ス  
 ヘキモノニシテ同法第二百十條第一項ヲ適用スヘキモノニアラス

(參照) 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタ  
 ル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二二四條) 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ  
 又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓  
 以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第二二五條第一項)

第一審 盛岡地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 鈴木鐵郎 辯護人 高木益太郎

公私文書ノ偽造行使



右義郎カ官印盗用官文書偽造詐欺取財等被告事件ニ付明治三十年十二月廿一日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル公訴私訴ノ判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定<sub>レ</sub>テ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告カ上告ノ旨趣ハ原院ニ於テ被告ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタルトモ被告ニハ刑ノ言渡ヲ受クヘキ所爲更ニナシ從テ刑ノ言渡ヲ受クヘキモノニアラス且私訴ノ控訴ヲ棄却スヘキ理由ナキニ之ヲ棄却シタルハ共ニ法律ニ反キタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リテ

○原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ總テ上告ノ理由トナルヘキモノニアラス

同擴張書第一點ハ原判決ニ認メサル事實ヲ揭ケ結局被告ハ犯罪行爲ヲナシタルコトナシ同書記内村孫太郎ノ犯罪行爲タルヲ以テ被告モ之ニ共謀シタリトシテ裁判ヲ受クルハ實ニ同<sub>レ</sub>タリシ緣故ニ因リ公務上ハ勿論私事ト雖モ總テ密接ノ交際ヲ爲シ從テ金錢等ノ貸借等モ相共ニスルハ自然ノ情勢ニシテ被告ハ孫太郎ヨリ金五十圓相預リタル迄ナルニ裁判官ハ想像ヲ以テ有罪ヲ言渡シタルハ不法ナリト云フモ在リテ

○之レ亦事實認定ノ非難ニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

同第二點ハ原判文ノ第一項ニ被告ハ内村孫太郎内村已代治ト共謀シ中略企テアリテ假リニ其企テノ事實アリトスルモ後段ニ於テ登記簿ノ附<sub>レ</sub>テ偽造シトアリテ理由中明カニ其債主ニ對シ先キニ誓人ニ係ルコトヲ了知セシヤ否注意ニ關スル事實ヲ表彰シタル廉ナシ是レ理由不備ノ判決ナリト云フニ在リトモ

○原判文ヲ看ルニ被告等ハ内村<sub>レ</sub>太郎所有名義ナル地所三筆ハ

伊藤儀兵衛及城戸吉六ニ抵當ト爲シ金圓借入レアル事實ヲ隱蔽シ更ニ右地所ヲ大森金次郎ニ一番抵當トナシ金圓借入レシコトヲ企テ右金次郎ニ對シテハ一番抵當ト申訴リ云々トアルニ依レハ債主金次郎ニ對シ一番抵當ト申訴リタル<sub>レ</sub>ハ明ニ示シアリテ毫モ理由不備ト認ムヘキ點アルコトナケレハ本論旨モ上告ノ理由ナシ同第三點ハ原判決ノ第三項ニ被告ハ春治内村<sub>レ</sub>太郎ト共謀シ云々以下前第二項ト其趣意同シト云フニ在ルモ

○前説明ニテ了解スヘキヲ以テ更ニ説明ヲ要セス

同第四點ノ要旨ハ原判決第四ニ依レハ借用證書ニ登<sub>レ</sub>濟ノ旨ヲ<sub>レ</sub>入シ之ニ官印ヲ盗用シトアリ然ルニ其官印ハ何稱アル官印ナルカ又其監守シタル者ハ某ナルヤ被告カ監守シタルモノナ<sub>レ</sub>ハ其理由及官印ノ名稱明カニ判決アルヘキ事

茲ニ出テスシテ刑法第九十七條一項第百九十五條第百九十七條二條ヲ適用シタルハ擬律錯誤且<sub>レ</sub>由不備ナル判決ナリト云フニ在リトモ

○原判決文第四ニ義郎ハ實買證<sub>レ</sub>ニ登<sub>レ</sub>濟ノ旨ヲ<sub>レ</sub>入シ之レニ官印盗用シトアルハ盛岡區裁判所郡山出張所ノ官印ナルコトハ前後ノ文詞ニ徴シテ明瞭タリ又官印ノ監守者ハ同出張所ノ書<sub>レ</sub>則チ被告等ナルコトモ明カナルコトニ付特ニ其監守中ニ係ルコトヲ明示セザルモ理由不備ト云フニ足ラサルハ勿論擬律ニ於テモ錯誤アルコトナケレハ本論旨モ上告ノ理由ナシ

同第五點ハ差押物中被告ヨリ金三十圓押收シアリ然ルニ之レニ何等ノ判決ヲ與ヘサルハ不法ナリト云フニ在リトモ原判決主文ニ偽造ニ係ル官私文書ハ總テ官ニ沒收シ其餘ノ差押物ハ各差出人ニ還付ストアリ<sub>レ</sub>各差出人トハ被告ヲモ包含スルモノニ付若シ被告ヨリ差押タル金圓



アリトセハ則チ遺付ノ言渡アリタルモノトス因テ本論旨モ上告ノ理由ナシ  
 辯護人高木益太郎カ辯明書第一ハ内村孫太郎ノ豫審調書中明治二十九年十一月廿四日盛岡地  
 方裁判所ニ於テノ二十三字挿入ニ係ルコト一目瞭然タリ而シテ此挿入ノ個所ニ認印ナキチ以  
 テ視レハ乃チ無効ノ入タルヲ免レス然ラハ右調書ニハ年月日場所ノ二載ナキニ販スルチ以  
 テ刑事訴訟法第二十條ニ依リ無効ノ文書ナリト云ハサルヲ得ス故ニ原判決力之ヲ罪證ニ供セ  
 タルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○因テ内村三太郎ニ對スル豫審訊問調書ニ査閱スルニ其  
 末段ニ「明治廿九年十一月廿四日盛岡地方裁判所ニ於テ豫審掛下」載シタルハ只同一欄内ヘ  
 二行ニ「載シタルニ過キス」テ挿入タルモノアラサレハ之ヲ認印ナキモ違法ニアラス從テ  
 之ヲ斷罪ノ證據トナシタル原判決モ亦不法ニアラス

同第二點ハ本件第四ノ賣買ノ證書ニハ登「濟」ト「載」シアル點ヲ以テ原判決ハ刑法第二百四條  
 ナ適用シタリ「ス」レハ賣買證書偽造ノ所爲ハ當然公證文書ノ偽造所爲中ニ包含セラルヘキモ  
 ノナレハ尙刑法第二百十條第一項ヲ當行スヘキモノニアラス然ルニ原判決カ右適用シタルハ  
 違法ナリト云フニ在リ○因テ原判決ヲ査文スルニ判決中刑法第二百四條ヲ適用シタル事蹟ハ  
 之レハシト雖モ之レハ同法第二百三條ノ誤リトモカ被告カ第四ノ所爲ハ末段ニ登「簿」偽造  
 並ニ登「濟」官文書行使ハ意思繼續シテ之ヲ犯シタルモノト認「ト」アリ而シテ法律適用ノ部  
 チ見レハ第四ノ登「簿」偽造並ニ第四ノ印「簿」偽造ノ所爲ハ刑法第二百三條一項云々トアリテ  
 借用證書ニ登「濟」官文書行使ハ點ト登「簿」偽造トハ一所爲ト認「ト」既ニ官文書偽造罪ハ成立

シタル以上ハ尙ホ借用證書偽造ノ所爲アリトシ同法第二百十條第一項ノ適用ヲ要セサルモノ  
 ナルニ原判決同法條ヲ適用處斷シタルハ疑律錯誤ハ裁判ナルチ以テ破毀ノ原因アルモノトスレ  
 被告カ控訴上告擴張ノ旨趣ハ被告ハ大失五職ニ對シテハ損害ヲ加ヘタルコトナケレハ賠償ノ  
 責メナキニ原院ニ於テ控訴ヲ棄却セラレタルハ不法ノ判決ナリト云フニアリテ○要スルニ事  
 實認定ノ非難ニ過キサルチ以テ上告ノ理由トナルモノニアラス

辯護人高木益太郎カ私訴上告辯明書ノ旨趣ハ本件ノ第一審判決ハ「審」裁判ニ基キ言渡ヲ爲シ  
 タルモノナレハ原院ニ於テ公訴判決ニ違法ノ廉アリトシテ其判決全部ヲ取消シタル上ハ之レ  
 ニ基因シタル私訴モ亦取消サ「ル」ヘカラサルハ必然ノ事ナリ然ルニ原判決「後」ニ出テサリシ  
 ハ法則ヲ適用セサル不法アル者ト云フニ在レトモ○公訴ト私訴トハ必スシモ併行スヘキモノ  
 ニアラサレハ縱令公訴ノ判決ハ取消シトナルモ私訴判決ヲ取消スノ必要ナキ場合ニ於テハ之  
 チ取消スヘキモノニアラス故ニ原判決ハ相當ニシテ不法ニアラス  
 右ノ理由ナルチ以テ刑事訴訟法第二百八十六條同第二百八十七條ニ則リ原判決罪律ノ部分ヲ  
 破毀シ本院ニ於テ左ノ如ク判決ス訴上告ハ同法第二百八十五條ニ則リ之ヲ棄却ス

右

鈴木義郎

原判文ニ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ被告義郎カ第一第三第四ノ登記簿偽造並ニ第  
 四ノ印鑑簿偽造ノ所爲ハ各刑法第二百三條一項第二百五條第一項ニ第四ノ官印盗用ノ所爲ハ



同法第九十七條第一項第九十五條第九十七條第二項ニ第四ノ委任狀偽造行使ノ所爲ハ  
 同法第二百十條第一項第二百十二條ニ登門願書偽造行使ノ所爲ハ同法第二百十條第二項第二  
 百十二條ニ第四ノ冒認抵當ノ所爲ハ同法第三百九十三條第一項第三百九十條第一項第三  
 百九十四條ニ該當シ第一第三ノ欺隱重抵當ヲ爲スニ因テ官私文書ヲ偽造行使シタルヲ以テ同  
 法第三百九十條第二項ニ依リ共ニ官文書偽造ヲ重シトシ當第四ノ借用證書ニ登門濟ミノ官文  
 書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ盗用シタルヲ以テ同法第二百六條ニ依リ官印盗用罪ヲ重シトシ數  
 罪俱發ニ係ルヲ以テ同法第九十條ニ依リ官印盗用罪ニ從ヒ重懲役ニ處スヘキ處所犯情狀原諒ス  
 ヘキヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ處斷スヘキモノトス因テ被告義  
 郎ヲ輕懲役七年ニ處ス其他ハ總テ原判決ノ通り  
 但上告ニ關スル私訴訴訟費三ハ上告人ノ負擔トス  
 明治三十一年二月十八日大審院第一刑事公部廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十一年第八八號  
明治三十一年二月二十二日宣告

○判決要旨

(判決第一點) 一罪中ノ一部ニ屬シ分ツヘカラサル犯罪事實ニシテ豫審終結決  
 定ニ遺漏アルトキト雖モ裁判所ハ自ラ進ノテ之ヲ裁判スヘキ職責ヲ有ス  
 (判決第五點) 訊問辯論ノ文字ニハ合議ヲ包含セス

第一審 岐阜地方裁判所高山支部 第二審 名古屋控訴院  
 被告人 井野安右衛門 辯護人 三好退藏  
 杉浦長七 長島鷲太郎  
 民事原告人 植昇 訴訟代理人 奥田大治

右被告三名カ詐欺取財ノ件ニ付明治三十年十二月二十七日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル公  
 訴私訴ノ判決ニ對シ被告三名ハ上告ヲ爲シ民事原告人植昇ハ其訴訟代理人奥田大治ヲ以テ  
 私訴判決ニ對シ上告ヲ爲シタリ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ斷テ履行シ審判ス  
 ル左ノ如シ

被告三名カ公訴上告趣意書第一點ノ要旨ハ原院カ豫第七號ノ金七百圓ノ借用證書ヲモ上告人  
 ニ騙取ノ行爲アリタルモノト認メラレ之レカ有罪ノ疑律ニ及ハレタルモ第一審裁判所ノ檢事  
 ノ公訴ハ豫審決定書ニ掲ケラレタル事實ニ過キサリシノミナラス却テ右金七百圓ノ證書ニ關  
 シテハ追ケ處決セラル事見込ニテ公訴ヲ提却セラレサリシ事ハ第一審公判始末書中檢事ノ陳  
 豫審決定ノ遺漏ノ合議



述及ヒ論告ノ末段ニ依リ明カナリ而シテ豫審決定書ニハ該金七百圓ノ證書ニ付毫モ云爲シタル痕ナキノヨナラス檢察力持更ニ附言シテ該證書ニ付テハ追テ處決スヘキ見込ナルコトヲ明陳セラレ其公訴中ニ包含セサルノ意ヲ表セラレタルヨリ第一審裁判所カ斯ノ公訴ナキノ事件ニ對シ何等到判定ヲ與ヘラレザリシハ適法ニシテ原院檢察事ノ附帶控訴ハ當然成立スヘキ事由ナシ然ルニ第二審ナル原院カ此公訴ナク第一審判決ノナカリシ事件ニ對シ裁判ヲ與ヘラレタルハ適法ノ判決ナリト云ヒ辯護人三好退藏長島鷲太郎花井卓藏カ擴張書第一點ハ原判決ハ(前署)其場ニ於テ昇ヨリ仙藏ニ宛テタル金七百圓ノ借用證書ヲ作成セシメ之ヲ仙藏ノ手ニ騙取シタリト認定シ其後段ニ於テ故ニ原裁判所ニ於テ金七百圓借用證書騙取ノ屬實ヲ不問ニ附シタルハ失當ニシテ本院檢察事ノ附帶控訴ハ其理由アリト說明セリ然レトモ該所爲ハ第一審裁判所ニ於テ公訴トシテ未タ受理セサル事件ニシテ其判決ヲ經由セザリシ所ノモノナリ地方裁判所ハ豫審終結ノ決定スハ檢察事ノ起訴アルヲ俟テ始メテ其公訴ヲ受理シ依テ以テ審理判決スヘキモノニシテ自ラ進ンテ公訴以外ノ事件ヲ判決スル職權ヲ有セサルハ刑事訴訟法第二百三十五條ノ明定スル所ナリ而シテ本件ニ於テ該所爲ノ豫審決定書及ヒ第一審判決書ニ掲ケラレサル事ハ原院檢察事モ又之ヲ言明セリ要之該所爲ハ未タ第一審判決ヲ經由セサルモノニシテ又之ヲ判決セザリシハ當然ナリ抑モ控訴ハ第一審裁判所ニ於テ爲シタル判決ニ對シ爲スヘキモノナルコトハ刑事訴訟法第二百五十條ノ宣明スル所ナリ然ラハ第一審ニ於テ判決セザリシ新ナル所爲ヲ呈出シテ控訴ヲ爲スモ第二審裁判所ハ圖底之ヲ判決スルノ職權ヲ有スヘキモノニアラス

然ルニ原院カ該所爲ニ關シ檢察事ノ附帶控訴ヲ採容シ前掲ノ如ク判決シタルハ法則ヲ適用セザル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ〇一件ニ條ヲ查閱スルニ本件被告三名ニ對スル檢察事ノ豫審請求書ニハ單ニ詐欺取財ノ罪名ヲ付シアルモ其之ニ對テハ證據書類ノ主ナルモノハ被害者ハ告訴狀申上申等ニシテ該告訴狀ニハ金七百圓借用證書ハ騙取ハ勿論其他本件一切ノ事實ヲ詳述シタルニ依リハ右檢察事ノ豫審請求即チ起訴中ニハ金七百圓ノ借用證書ハ騙取チモ包含シタルモノナルコト明瞭ナルハミナラス右證書ノ騙取ハ本案詐欺取財罪一罪中ハ一部ニシテ分ツヘカラサルモノナル已上ハ其一部ノ事實カ豫審判定書中ニ誤説セリトテ之ヲ以テ其一部ハ右決定ニ因リ公判ニ移サレザリシモノト云フヲ得サルナリ故ニ第一審裁判所ハ立會檢事ハ論告又ハ意見ハ如何ニ拘ハラス右事實ニ對シ相當ハ判定ヲ下スヘキハ其職責ナルニ何等判定スル所ナカリシハ不法ハ裁判タルヲ免レサルカ故ニ原院檢察事ニ於テ其不當ヲ論シテ附帶ハ控訴ヲ爲スハ權アルハ勿論原院カ之ヲ採用シテ金七百圓借用證書騙取ハ所爲アルコトヲ判定セシハ毫モ不法ニアラスシテ上告趣意擴張論旨共ニ其理由ナシトス

上告趣意第二點ノ要旨前段ハ原院ハ豫第六號ノ家屋明渡ニ關スル證書ヲ騙取シタリト認メラレタルモ右證書ハ金員ニアラス又金員代用ノモノニモ非レハ騙取物トナルヘキモノニ非スト云フニ在レトモ〇刑法第三百九十條ハ其明文ノ如ク證書類ヲ騙取スル所爲ヲモ罰スルニ在レハ財產權ニ關スル家屋明渡證書ヲ騙取スルカ如キ同條ノ制裁ヲ受クヘキハ勿論ナリ同後段ハ原判決ハ明治二十九年三月三日ニ豫第七號ノ金七百圓ノ借用證書ヲ騙取シタリト認メラレタ



レトモ同證ハ三月四日登<sup>レ</sup>濟ニテ成立シタル事ハ同證書本件ニ於テ明確ナルノミナラス三月三日ニハ山林賣買ノ登<sup>レ</sup>手帳ニ不完全ノ原アリテ空ク引取リタル事一件<sup>レ</sup>録ニヨリ判然タルハ同日ニ於テ豫第七號ノ證書ヲ授受シ得ラルヘキ答ナキニ三月三日ニ之カ騙取即チ犯罪アリタリト認メラレタルハ不能ニ屬スル事實ヲ認メラレタルモノニシテ違法ノ判決ナリト云フニ在<sup>レ</sup>トモ〇翌日付ノ證書ヲ其前日ニ受付セシメ置キ其翌日ニ至リ登<sup>レ</sup>ヲ受ルノ類決シテ絶無ノ事實ニアラサレハ假リニ其證<sup>二</sup>ハ四日付ニシテ<sup>一</sup>登<sup>レ</sup>ヲ受ケタリトスルモ其前日既ニ該證書論取ノ所爲アリトスル之ヲ不能ト謂フ可カラサルノミナラス本論旨ハ<sup>レ</sup>實認定ノ非難ニ外ナラサレハ上告ノ理由器ナラス

同第三點ノ前段ハ區判決ニ被告等ハ賣買名義ノ下ニ於テ現金ノ外昇所有ノ家屋ヲモ<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>セシト欲シト揚ケラレタルモ不動産ハ<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>ノ目的物タラサルコト法律上明確ナレハ家屋其物ヲ<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>セントシタリト認メタルハ不法ナリト云フニ在<sup>レ</sup>トモ〇刑法第三百九十條ノ所謂財物ハ獨<sup>レ</sup>リ動産ノミチ言フノ謂ニアラサレハ家屋モ亦詐欺取財ノ目的物タルハ勿論ナリトス同後段  
 原判決前段ニ於テハ家屋其物ヲ<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>セント共謀シタリト認メナカラ後段ニ至リ該家屋賣買渡<sup>レ</sup>證<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>シ云々ト認メラレタルハ理由齟齬ノ不法アル裁判ナリト云フニ在<sup>レ</sup>トモ〇原判決ノ前段ハ被告等共謀ノ目的ヲ揚ケ後段ハ其目的ヲ達スルノ方法トシテ家屋賣渡證書ヲ<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>シタル事實ヲ揚ケルニ在<sup>レ</sup>リテ此證書<sup>二</sup>取<sup>レ</sup>ノ所爲ヲ以テ直チニ家屋ヲ<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>シタルモノト爲シタルニ非ラサレハ原判決ハ<sup>レ</sup>實ノ理由ニ齟齬アルニ非ルナリ

判旨第五點

辯護人擴張第二點ノ要旨ハ原院公判始末書ニ看護人ヨリ爲シタル人證及ヒ鑑定ノ申請ニ對シ裁判長ニ於テ合議ノ上其申請ヲ棄却シタル決定アリ而シテ該合議ノ筆談其他秘密ノ方法ニ依<sup>レ</sup>リテ行ハレタル事實ノ見ルヘキ蹤跡ナシ加之該始末書ノ末段ニ以上ノ訊問辯論云々ハ凡<sup>レ</sup>之ヲ公開シタリト記載セリ然レハ該合議ハ公達ニ於テ公開セラレタルモノト解釋スルノ外ナシ即チ原判決ハ此點ニ於テ裁判所構成法第二百一十一條ニ背戾スル不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在<sup>レ</sup>トモ〇原院公判始末書ヲ見ルニ裁判長ハ合議ノ上辯護人ノ申請中書類取寄ハ之ヲ認可セシ其他證人鑑定ノ申請ハ之ヲ棄却ストハ決定ヲ言渡シ云々トアリ又同始末書ハ末尾ニモ已上ノ訊問辯論及判決言渡ハ凡<sup>レ</sup>之ヲ公開シタリトアルハハハニシテ合議ヲモ公行シタリトハ記事ハアルニ非ラサレハ之ヲ公ケニシタリトノ本論旨ハ相立タス

同第三點ノ要旨ハ刑事訴訟法ハ原被告兩造ノ當事者アルコトヲ認メ或ル法定ノ場合ヲ除キ檢事並ニ被告入ノ有スル法律上ノ住地關係有罪ノ證據トシテ呈出シタルモノナリ從テ書類朗讀者者署ニ付テハ被告入ノ外檢事ノ意見ヲ聽クヘキ筋ナリトス然ルニ原院カ被告人ノ意見ノミチ聞キ原告官ノ意見ヲ徵メスシテ省略ノ處措ヲ爲シタルハ不法ナリト信スト云フニ在<sup>レ</sup>トモ〇檢事ニ於テ調書其他證據書類ノ朗讀ヲ要セハ之ヲ請求シ得ヘキハ勿論ノ事ナルニ裁判長ノ宣告ニ對シ合議ナクシテ辯論ヲ遂行セシニ依<sup>レ</sup>レハ檢事モ亦朗讀者略ニ同意ヲ表シタルモノナルコト推認シ得ヘキナリ然レハ裁判長カ書類ノ朗讀者略ニ付明カニ檢事ノ合議ノ有無ヲ聽カザ<sup>レ</sup>シハ允當ナク據アリトスルモ之ヲ以テ原判決破段ノ原因ト爲スニ足ラサルナリ

豫審決定ノ遺漏〇合議



同第四款ハ合意ハ法律ニ同シトハ法理上ノ原則ニシテ原院モ亦本件ヲ以テ賣買ナル同意ノ結果ナル事實ヲ認定セリ果シテ然レハ其取引ノ間多少不穩ノ所爲アリトスルモ之レ民事上賣買解除ヲ求ムルノ一原因タルニ過キサルヘシ決シテ刑事上ノ犯罪ヲ構成スヘキモノニ非ラス之ヲ要スルニ原判決ハ民事上ノ詐欺ト刑事上ノ詐欺トヲ混同シタルモノニシテ疑律錯誤又ハ理由不備ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○原判決ニ於テハ被告等カ名チ山林又ハ家屋ノ賣買ニ託シテ拓植界ヲ欺罔シ同人ヨリ金圓又ハ證書ヲ騙取シタル犯罪行為ヲ認メアルモ雙方間ニ正當ナル賣買ノ合意アリシコトヲ認メタルコトナシ要スルニ本論旨ハ原判決認定以外ノ事實ヲ提出シテ原判決ヲ非難スルニ過キヌシテ上告適法ノ理由ナシ

被告三名カ私訴上告趣意ハ公訴判決ノ不法ナルコトハ公訴上告趣意書ニ掲グル如クニシテ双不法ナル公訴判決ニ基キタル私訴判決ノ不法ナル亦勿論ナレハ民事原告人ヨリ何等ノ請求ヲ受クル事由ナシト云フ辯護人擴張趣意ハ公訴ニ關スル上告趣意并ニ同擴張論旨全部ヲ援用スト云フニ在レトモ○公訴判決ニ不法ノ點ナキコトハ前説明ノ如クナレハ本論旨ノ理由ナキコト亦勿論ナリトス

民ノ原告人カ上告趣意ノ要旨ハ本案公訴事件ニ於テ被上告人等ハ上告人ヨリ被上告人安右衛門宛ノ家屋賣渡證書ヲ騙取シタルモノナリ然ラハ其騙取ニ係ル證書中代金千五百圓請取りタル旨ノ記載アリトモ其無効タルハ勿論ナリ被上告人カ同證記載ノ金高チ二用シテ地所賣渡約定證即豫第一號證印千五百圓請取り記載アルヲ流用シタリトノ申立ノ失當ナルハ明カナリ

即豫第一號證金千五百圓ヲ請取りタルヲ他ニ流用充當シタル所ナキコト亦明白ナルヲ以テ安右衛門カ受取りタル千五百圓ハ預ケ金證書ヲ以テ受取りタルト現金ヲ以テ受取りタルトハ問ハス又公訴ノ如何ニ歸スルヲ論セス民事上之ヲ辨濟セサルヘカラス然ルニ原院ハ被告人等申立ノ如ク無効ノ豫第五號證家屋代金ニ流用充當ニシテ曖昧且不當ニ事實ヲ確定シ以テ被告等カ民事原告人ヨリ金一千五百圓ノ預リ證書ヲ騙取シタリトノ事實ハ公訴判決ニ於テ之ヲ認メス云々ト判決シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ上告人カ主張スル金千五百圓ノ預リ金證書ヲ被告等ニ於テ騙取シタリトノ事實ハ公訴判決ニ於テ之ヲ認メス隨テ金員ノ賠償ヲ求ムルヲ不當ナリトシテ請求ヲ排斥シタルコト判文上明白ナルモ被告等ノ言ヲ採リ右金千五百圓ハ之ヲ家屋代金ニ流用シタリト認メタルコトナシ要スルニ本論旨ハ原院ノ事實認定ヲ非難スルニ過キヌシテ上告ノ理由トナラス

同第二ハ上告人ハ明治三十年十二月十一日本案主要ノ點ニ付判決ヲ受クヘキ事項ノ申立書ヲ呈出シ上告人ニ不利ノ判決相成ルニ於テハ同書記載ノ十項ニ對シ一々理由ヲ付シテ判決アラシコトヲ申立置キ口頭辯論ノ際ニ尙ホ極力詳論シタルニ不拘原判決ハ前記ノ如ク千五百圓預證書ヲ騙取シタリトノコトハ公訴判決ニ於テ其存在ヲ認メス結局原告人ノ主張ハ無證ノ陳辯ニ歸ストノ片言ノ外一言ノ説明タモ與ヘス以テ原告人ノ請求ヲ斥ケタルハ當事者ノ請求ニ對シ判決ヲ爲サハル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○民事原告人カ第二審ニ於ケル一定ノ申立即チ請求ハ第一審判決中民事原告人カ前項以外ノ請求ハ却下ストアル部分ヲ取消シ更ニ金



一千五百圓ニ明治三十九年二月二十一日ヨリ年六米ノ利子ヲ付シタル元利金ヲ被告三名ニ於テ連帶シ原告人ニ賠償スヘシ又被告ノ控訴ハ棄却ストノ判決ヲ求メタルニアレコトハ一件記録上明カニシテ原院ハ此請求ニ對シ一々判決ヲ與ヘタルコト該判決上是亦明カナレハ原判決ハ所論ノ如キ不法アルニアラス彼ノ判決ヲ受クヘキ事項ノ申立書ト題スル書面ニ記載セル第一乃至第十項ハ總テ原告人ノ主張スル事實ヲ列記シタルニ止マルヲ以テ刑事訴訟法ニ所謂請求ヲ受ケタル事件ト云フノ類ニアラス故ニ原院カ之ニ對シ一々判定ヲ與ヘサリシハ固ヨリ當然ノ事ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ被告三名ノ公訴私訴ノ上告及民事原告人ノ私訴上告ハ口レモ之ヲ棄却ス

被告共ノ私訴上告ニ關スル費用ハ被告共ニ於テ民事原告人ノ上告ニ關スル費用ハ民事原告人ニ於テ負擔スヘシ

明治三十一年二月二十二日大審院第一刑事部公庭ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○證書偽造行使詐僞取財ノ件

明治三十一年第一二八號  
明治三十一年二月二十二日官告

○判決要旨

(判旨第一點) 刑事訴訟法第四十條第四號ニ所謂不服ヲ申立アレタル裁判ノ前審ニ關與シタルトキトハ下級審ノ審判ニ關與シタル判事カ上級審ノ審判ニ關與スル場合ヲ謂フ

(參照) 刑事事件ノ豫審結ニ關シ又ハ不服ヲ申立アレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ(刑訴法第四十條第四號)

(判旨第五點) 證人ニシテ刑事訴訟法第二百二十三條ニ抵觸セサル旨ヲ申立宣誓ヲ爲スモ其証言内容ニ於テ同條抵觸ノ虞アルトキハ證人調査タルノ効力ヲ有セズ

(參照) 左ニ記載シタル者ハ證人トナルコトヲ許サズ但宣誓ヲナサシメスシテ實質參考ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得第一、民事原告人第二、民事原告人及被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ第三、民事原告人及被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル者第四、民事原告人及被告人ノ雇人又ハ同居人 (刑訴法第二百二十三條)

第一審 和歌山地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 [坪治龜三郎  
榎 彌藏]

右證書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付名古屋控訴院ニ於テ明治三十年十二月二十日官渡シ

前審裁判ノ干與○親屬ノ證人調査



ル公訴ノ判決及ヒ同月二十七日言渡シタル私訴ノ判決ニ對シ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ  
 大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
 被告龜三郎カ公訴上告趣旨ノ前段ハ原院ニ於テ審理ノ上被告ヲ犯罪者トシテ處斷シタルハ不  
 當ナリト云ヒ其後段ハ蓋キニ大阪控訴院ニ於テ本件ノ審理ニ干與シタル刑事カ原院ニ於テモ  
 亦其審理ニ干與シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○前段ノ論旨ハ原承審官ノ職權ニ屬スル  
 事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス又後段ノ論旨ハ蓋ニ大阪控訴院ニ於テ本件ノ審判ニ干與シタ  
 ル刑事訴訟法第四十條第四號ニ判事云々又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ハ前審ニ干與シタル  
 トキトアル其前審トハ即チ下級審ノ審判ニ干與シタル判事カ上級審ハ審判ニ干與スル場合ナ  
 指シタルモノニシテ法律ハ專ラ下級審ハ裁判ニ對スル上訴ヲ審判スル上ニ於テ重キヲ置キタ  
 ルモノトス故ニ本案ノ如ク大阪控訴院ノ審判ニ干與シタル判事カ原院ニ於テ再ヒ其審判ニ干  
 與シタル場合ノ如キハ右ノ規定ニ該當セサルヲ以テ原判決ハ違法ニアラサルナリ  
 同第一辯明書ノ第一點ハ原院ニ於テ東浦カメハ明治二十八年舊五月頃ヨリ肺病ニ罹リ云々ト  
 認メタレトモカメハ當時無病健全ナリ云々ト云ヒ第二點ハカメハ財産モナキモノナレハ遺囑  
 ノ爲メ正當ノ手續ヲ踐ミテ大阪生命病備保險會社加入セシメタルナリ而シテ内國保險株一  
 會社加入シタルハカメカ一個ニテ爲シタルモノナレハ被告ハ與知フス云々原院ハ事實ナキ  
 コトヲ認メタルモノナリト云ヒ第五點ハ原院ノ判決ハ大阪控訴院ノ判決ヲ寫シタルニ外ナラ

判旨第一點

ス右兩判決ニ大金ヲ利得ス可シトテ明治二十七年一月十七日市太郎ハ先ツ彌藏ニ對シ云々ト  
 記載シアレトモ此年月日ハ其實明治二十九年一月十七日ナリ云々ト云フニ在レトモ○總テ原  
 承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スル論旨ニ過キサレハ採ルニ足ラス  
 第三點ハ飯野勝三郎カ不實ノ供述ヲ爲シタル豫審調査ヲ罪證ニ供シタルハ不法ナリト云フニ  
 在テ原承審官ノ職權ニ存スル探證ヲ不當ナリト論難スルニ過キス  
 第四點ハ原院ニ於テ證據書類ノ朗讀ヲ各證人ニ付被告ニ意見ノ有無ヲ問ハス又利益ナ  
 ル證據ヲ差出スコトヲ得ル旨ノ告知ヲ爲サレリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判  
 始末書ヲ査定スルニ證據書類ノ朗讀ヲ各證人ニ付被告等ニ於テ異議ナシト答辯シタルコ  
 ト各證據書類及ヒ物件ニ付被告等ニ對シ辯明ヲ求メタルコト反證アラハ提出スルコトヲ得ル  
 旨ヲ告知シタルコトハ判然記載シアラテ本論旨ハ甚々謂ハレナキモノトス  
 第二辯明書ノ論旨ハ第一辯明書ノ第一點及ヒ第四點ヲ反覆辯明スルニ過キサレハ其說明ニ依  
 テ了解ス可シ  
 被告彌藏ノ公訴上告趣旨ノ第二點ハ中畑萬藏ノ豫審調査ヲ查閱スルニ同人妻ハ東浦カメノ姉  
 ナルコト明ナレハ隨テ共同被告坪治龜三郎ハ親屬ノ關係アルコトモ亦明ナリ然ラハ則證人ト  
 ナル可キ者ニアラサルニ原院カ此違法ノ豫審調査ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フ  
 ニ在リ○因テ證人中畑萬藏ノ豫審調査ヲ查閱スルニ同人カ刑事訴訟法第二百三條ノ規定ニ  
 觸レサル旨申立テ宣誓ヲ爲シタル事跡ニ依レハ證人ハ資格アル者ノ如シト雖モ同調也ニ汝ハ



妻ノ妹ニ東浦カメト云フ者アリシカトノ訊問ニ對シテアリ升タトハ申立アルニ付之ヲ被告龜三郎ノ豫審調書ニ照スニ同人カ汝ハ東浦カメトハ如何ノ關係アルカトノ訊問ニ對シテ何人ハ自分ノ叔母ニテ自分ノ母ノ妹ナリト申立アルニ依リハ則中ノ萬歲ハ被告龜三郎ト親屬ノ關係アリテ證人ノ資格ナク者ハ如シハ萬歲ハ果シテ證人ノ資格アルヤ否ヤ之ヲ知ルコト由ナキ者ナレハ之ヲ證人トシテ訊問シタル豫審調書ハ違法タルニ免カレズ然ルニ原院カ此違法ノ調書チ既知ノ資料ニ供シタルハ是亦違山ナルニ付本論旨ハ原判決ヲ破毀ス可キ理由アルモノトス已ニ此點ニ付破毀ノ理由アルコトヲ認ムル上ハ其他ノ論旨ニ對シテ一說明ヲ與フルコトヲ要セ

被告龜三郎カ私訴ノ上告趣旨第一點ハ原判決ニ民事原告人ノ請求ハ正當ナリトアルノミニシテ如何ナル理由ニ依テ請求ハ正當ナレヤ又被告ノ抗辯ハ不當ナルヤ其理由ヲ示サトルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ查閱スルニ大阪病備保險株式會社社長下郷備平ヨリ民事被告人ハ前審ノ相被告上野市太郎ト共謀シ合計金八百圓ヲ取シタルコトハ前掲ノ訴判決ニ示ス理由ニ依リ明瞭ナルヲ以テ云々ト明承シアリテ其理由完全ナルニ付本論旨ノ如キ違法アルコトナシ

第二點ハ大阪病備保險株式會社ヨリ正當ノ手續ヲ經テ受取タル金額ナレハ返還ノ義務ナキモノナルニ違山シテ返還ス可シト言渡シタルハ違法ナリト云フニ在テ○原案審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ニ對シ論議スルニ過キサルモノトス

第三點ハ○訴上告趣旨ノ後段ハ論旨同一ナルニ付其說明リニ依テ了解ス可シ

被告彌藏カ私訴ノ上告趣旨第二點ハ公訴ノ上告趣旨ヲ私訴ノ上告趣旨ニ採用スト云フニ在リ○已ニ○訴ノ上告趣旨ニ對シ説明シタルカ如キ理由ナルヲ以テ原院ノ○訴判決ノ理由ニ基キタル私訴ノ判決モ亦隨テ破毀ヲ免カレサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ被告龜三郎カ○訴及ヒ私訴ノ上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却ス被告彌藏カ公訴及ヒ私訴ノ上告ハ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ公訴私訴ノ原判決ヲ破毀シ本件ヲ廢息控訴院ニ移ス

但上告人龜三郎ニ於テ其上告ニ係ル私訴訴訟費用ハ之ヲ負擔ス可シ  
明治三十一年二月二十二日大審院第一刑事部二廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○詐欺取財ノ件 明治三十一年第一三五號  
明治三十一年二月二十二日宣告

○判決要旨

事實ノ理由ニ於テ一罪ニアラザルニト認メナカラ法律ノ適用ニ至リ一罪ト



シテ處斷シタルヲ以テ不法ナリト論争スルハ擬律上ノ問題ニ屬シ理由齟齬ノ問題ニ非ス

第一審 山形地方裁判所鶴岡支部 第二審 宮城控訴院

被告人 松井憲令 辯護人 飯田宏作

右憲令ニ對スル詐欺取財被告事件ニ付明治三十年十二月五日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告憲令上告趣意第一ノ要旨ハ被告ハ他ノ破告人ノ詐欺手段タル情ヲ知ラザリシヲ有罪ト處斷セラレタルハ擬律錯誤ナリト云ヒ其第三ハ本件ニ於テハ被告ハ專ラ齋藤重行ノ周旋ニ依リ久右衛門ノ依頼ニ應ジ取扱ヒ識ヲス知ラス惡事ニ連レ込マレタルモノナレハ從犯ナリト云フニ在リテ○原判決ノ事實認定ノ非難ニ止マリ上告適法ノ理由トナラス其第二ノ要旨ハ被告ニ於テ罪ヲ犯シタリトスルモ第一第二第三迄ト第四項ト第五乃至十四ト第十五ト第十六項トハ各別ニシテ三個以上ノ項目アルヲ被告カ他ノ數名ト共謀シ意思繼續シテ前項第一乃至第十六ノ所爲ヲ犯シタルハ一個ノ詐欺取財罪ナル旨判示セシハ理由齟齬ノ不法アリト云フニ在レトモ○原院カ其職權ヲ以テ第一ヨリ第十六迄終始意思ノ繼續シタルモノナリト認メタル以上ハ右數個ノ所爲ハ總テ一罪トスルモ亦相當ナリ結局本論旨ハ辭ヲ理由齟齬ニ籍リ事實ノ認定

ヲ非難スルモノナレハ上告ノ理由ナシ

被告憲令上告趣意擴張第一項第三項ノ趣旨ハ要スルニ被告ハ本件事實ノ犯罪タル情ヲ知ラスシテ關係シタルモノナルニ原判決ハ其情ヲ知リタルモノトシ着手金並ニ印紙代金ヲ騙取シタルモノトシ處分シタルハ不當ナリト云フニ在リ其第六項ハ長谷川和三郎ノ申立モ區々ニシテ證據ノ効ナシ齋藤太郎右衛門ノ申立モ被告ニ關係ナケレハ斷罪ノ證據トナラスト云ヒ其第八項ハ判文第十六項ハ長谷川和三郎ノ一人ニテ爲シタル事ナレハ被告ニハ關係ナシト云ヒ其第九項ノ趣旨ハ本件ノ示談熱濟ノ事ハ齋藤重行等ノ共謀セシコトニシテ被告ノ不在中ノ事ナレハ關係セスト云ヒ其第十項ハ被害者齋藤久右衛門ニ於テモ被告ノ惡事ヲ爲サトル事ヲ確知シテ私訴ヲ取消シタルハ社會ニ害ヲ加ヘタル事ナシト云フニ在リテ○一レモ原院ノ職權ニ屬スル事實認定ノ非難又ハ證據ノ取捨ヲ論難スルニ外ナラスシテ上告適法ノ理由トナルモノナシ其第四項ノ要ハ民事原告人齋藤久右衛門ハ被告ニ對スル私訴ヲ取消シタルニ依リ右取消ノ指令ヲ原院ニ尋求セシニ其指令ナキカ爲メ被告ノ財産假差押モ取消ニナラサルカ故民事原告人ノ私訴ハ取消サトル事ナレハ右久右衛門ハ證人タル資格ナキモノナルニ其告訴狀並豫審中ノ調査ヲ斷罪ノ證據ニ供シタルハ不當ナリト云フニ在リ其第五項ノ要ハ上野久三郎ハ民事原告人齋藤久右衛門ノ親戚ナル事ハ豫審調査ニ明カナレハ其證人タル資格ナキニ同人ニ對スル證人トシテノ豫審訊問ノ證言ヲ斷罪ノ證據トナシタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○齋藤久右衛門カ私訴ノ申立ヲ爲シタルハ明治三十年四月十三日ニシテ其以前即チ明治三十年四月九日



ニ在テ豫審ノ終了シタルコトハ記録微シテ明カナレハ豫審中ハ右久右衛門及久三郎ハ民事原告人又ハ其親族タルカ故ニ證人ノ資格ナシトノ事由アルヘカラス又告訴狀ハ不法ノ書面ニアラサル限リハ證據トシテ之ヲ取捨スルハ原院ノ職權ニ在ルコトナレハ其取捨ニ對スル不服ハ上告適法ノ理由トナラス其第七項ハ被告ノ趣意ハ一個ノ所爲ニアラス如何トナレハ原判決第四項ノ通り五百圓ノ供託金ノ下戻シ方ヲ特別ニ久右衛門ヨリ長谷川和三郎ニ關係ナク依頼ヲ受ケタルモノナレハ久右衛門ノ意思別段ノモノナル事明白ナリ然ルニ原院ニ於テ一個ノ事實繼續シタルモノト斷定シタルハ理由ノ齟齬ナリト云ヒ辯護人飯田宏作上告理由擴張第一點ハ原判決ニ(前署)之ヲ久右衛門ニ秘シ同人カ多額ノ金員ヲ支出シ損害回復ニ汲々タルニ乘シ以上數名ノ共犯者ト謀リ更ニ新手段ヲ按出シ(中署)前犯意ヲ繼續シテ數回ニ(是亦連續ノ意ニ出)金圓ヲ騙取シタル事實左ノ如シトアリ此後段ノ理由及刑ノ適用ヲ見レハ原判決第一乃至第十六チ一ノ犯罪トナシタルモ前段ハ第一乃至第四ノ行爲後ニ生出シタル事情ヲ利用シ更ニ謀リテ新手段ヲ按出シタル事實ヲ認定シタリ夫騙取セントスル物件及被害者ハ同一ナリト雖モ共謀ヲ新ニシ手段ヲ新ニスル以上ハ同一罪ナリト云フヲ得ス即チ前段ハ前罪ナリトノ事實ヲ認定シタルモノニシテ理由齟齬ノ不法アル裁判ナリト云フニ在レハ○事實ノ理由又ハ法律ノ理由ニ齟齬スル廉アルニアラサレハ之ヲ理由齟齬ノ不法アリト云フヘカラス本論旨ノ如ク判決ノ前段即チ事實理由ニ於テ一罪ニアラサルコトヲ認メタルモノトスレハ後段即チ法律ノ理由ニ於テ數罪トシテ疑律スヘキニ一罪トシテ疑律シタルハ不法ナリト云フカ如キハ疑律ハ當否ヲ

争フヘキ問題ニ屬シ之ヲ理由齟齬ト云フヘカラス而シテ原院カ認メタル事實ハ別罪ナリト認メタルモノト爲スヘキ乎ニ付按スルニ原判決カ第五項ノ冒頭ニ以上數名ノ共犯者ト謀リ更ニ新手段ヲ按出シ云々仍ホ前犯意ヲ繼續シテト認メタルハ前犯意ヲ實行スル爲メ共犯者ト謀リ更ニ新手段ヲ按出シタリト云フニ在リテ久右衛門ヨリ金員ヲ騙取スルノ犯意ハ終始一貫シタルコトヲ認メタルモノトス而シテ更ニ謀議スル處アルモ又ハ新手段ヲ按出スルモ犯意ヲ變更シタリト限ルヘカラス要スルニ其意思ノ繼續シタルヤ否ヤハ事實ノ問題ニ屬シテ原院ノ認定ニ依テ定マルモノトス既ニ原院ニ於テ犯意ノ繼續シタルコトヲ認メタル以上ハ一罪トシテ問擬スヘキハ當然ナレハ原判決ハ疑律ニ於テモ相當ニシテ不法ノ廉ナシ旁本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ辯護人ノ擴張第二點ハ判決中第五即チ金參圓八十錢ヲ騙取シタル日時ヲ明示セサルハ必要ナル事實ノ理由ヲ欠キタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○前説明ノ如ク原院ハ總テ一罪ト認メタルモノナレハ其内ノ一事項ニ關シ日時ヲ明示セサルモ理由不備ノ不法アリト云フヘカラス其第三點ハ一件記録ヲ閱スルニ證人齊藤久右衛門上野久三郎中野悌治ノ署名アル宣誓書アルモ何ノ事件タルヲ記載シアラス又其調書トモ連續セス故ニ該證人等ハ果シテ刑事訴訟法ノ規定ヲ履行シテ訊問シタルヤ否ヤヲ知ルニ由ナシ然ルニ原判決其調書ヲ採リテ犯罪ノ證據トナシタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○同人等ノ訊問調書ヲ見ルニ總テ本件被告事件ノ被告人等ヲ告知シ宣誓ヲ命スル旨明記シアレハ右證人等カ適式ニ訊問セラレタルコトヲ認ムルニ充分ナレハ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ



右ノ理由ニ依リ刑事訴訟第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ  
本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十一年二月二十二日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○私書變造詐欺取財ノ件

明治三十一年第三九號  
明治三十一年二月二十二日宣告

○判決要旨

法律ハ一般ニ文書變造ノ所爲ヲ罰シ敢テ其内國人ノ文書タルト外國人ノ文書タルトヲ區別セズ

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 松岡高次郎 辯護人 高木益太郎

右詐欺取財私書變造被告事件ノ控訴ニ付明治三十年十二月二十日名古屋控訴院ニ於テ審理ノ末檢事ノ附帶控訴ニ基キ原判決ハ之ヲ取消ス被告松岡高次郎ヲ禁錮一年附加罰金二十圓監視

六月ニ處ス偽造ノはがき一枚覺書中變造ノ部分及犯罪ノ用ニ供シタル書面ハ何レモ之ヲ沒收ス公訴裁判費用金五十錢ハ被告之ヲ負擔スヘシ沒收ニ係ラサル押収書類ハ差出人ニ還付ス本件被告ノ控訴ハ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ相手方原院檢事長加納謙ハ上告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出シタリ  
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
上告趣意書ノ要旨第一點ハ原院ハ英人エツチ位カス商會ヨリ被告ニ交付シタル英文ノ覺書ヲ變造セシ行爲アリト認メラレ刑法第二百十條等ヲ適用セラレタルモ右ハ外國人ノ立書ニシテ邦人ノ證書ニ非サルヲ以テ法律上罰スヘキモノニ非スト云フニ在レトモ○法律ハ一般ニ證書ハ變造ヲ罰シ敢テ其内國人ノ證書タルト外國人ノ文書タルトヲ區別スルコトナシ故ニ原判決カ刑法第二百十條第二百十二條ヲ適用シタルハ固ヨリ當然ノ事ナリトテ同第二點ハ原院ハ被告カ已ニ反故ニ屬シタル郵便證書中ニ貴家ヘ買入ラ承諾セハ手金トシテ三百八十圓ヲ仕送り送ルヘキ旨ヲ記入シタル行爲アリト認メ證書偽造行使罪ナリト判定セラレタルモ已ニ反故ニ屬シタル證書ニ如何ナル事項ヲ記入スルモ偽造ノ罪ヲ構成スルモノニ非スト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ右證書ヲ利用シ之ニ虛偽事項ヲ記載シ以テ一ノ有効ナル證書ノ如ク偽造シ之ヲ行使シタルモノナレハ原判決ノ擬律ハ其當ヲ得タルモノトス同第三點ハ原院ハ端書一枚及覺書中變造ノ部分ヲ沒收スルノ理由トシテ刑法第四十三條第一號第四十四條及第四十三條第二號第四十四條ヲ適用セラレタルモ本件偽造若クハ變造ノ證書ハ罪罪ノ用ニ供シ



タル物件ト目スヘキモノニ非ス原判決ハ疑律錯誤ノ不法アリト云フニ在レトモ○原判決ハ偽造變造ノ書ヲ禁制物トシテ沒收シ偽造變造ニ係ラサル他ノ書狀ヲ犯罪ノ用ニ供シタル物件トシテ沒收シタルモノナルコトハ判文上明白ナリ本論旨ハ畢竟被告ノ誤解ニ出テタルモノニシテ適法上告ノ理由ナシ

上告趣意擴張書ノ要旨第一點ハ原判決ニシリンター二個付搗碎器械ヲ神戸柴田商店ノ賣品ノ如ク裝ヒ治兵衛等ニ賣却セムト寅吉雇人安水政太郎ニ囑託シ柴田商店ヨリ被告宛右器械ハ上等品ニテ千九百圓位ナレトモ千五百八十圓ノ低價ヲ以テ被告ヘ賣渡スヘキ旨ノ書面ヲ發送セシメタリトアレトモ被告ニ於テハ柴田商店ノ賣品ノ如ク裝ヒ治兵衛等ニ賣却セムトノ意ハ元ヨリナク且ツ政太郎ニ囑託シ右器械云々ノ書面ヲ發送セシメタルコトヲシト云ヒ同第二點ハ器械賣買約定ノ點ニ付テハ何レモ英人エツチルカストノ間ニ約定シタルモノナレハ同人ノ證言ハ斷罪上必要ナルニ原院ハ同人ヲ訊問セス寺田廉平專崎彌五平ナル日雇人ノ證言ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云ヒ同第三點ハ村井治兵衛廣江澤次郎小木曾新七八何レモ告訴人ニシテ被告ヲ罰ニ陷レントスルノ意アルコト勿論ナルニ原院カ同人等ノ豫審調書ヲ斷罪ノ證憑ト爲シタルハ違法ナリト云ヒ同第四點ハ告訴人ヨリ提出シタル上申書及土地賣買書偽造書及偽言ナル豫審ノ調書ヲ以テ被告ヲ有罪ト處斷セラレタルハ違法ナリト云ヒ同第五點ハ原判決中ルカス商會覺書ヲ治兵衛ニ交付シ二十九年十二月五日同人ニ對シ柴田商店カカス商會ヘ拂込居ル一千三百三十圓云々及九百五十圓寅吉ヘ支拂フヘキ旨申詐リ治兵衛贖出及澤

次郎贖出合計金五百八十圓ノ内被告カ治兵衛辨濟スヘキ地所買受代金及其利息ト相殺シ其殘額二圓五十一錢八厘ヲ差出サシメ之ヲ受取自己ノ贖出ル合セテ九百五十圓トシテ柴田商店ヘ送付スル如ク裝ヒ取シタルモノナリトアレトモ右器械ナルモノハ元ヨリ賣却セシモノニ非ス隨テ右覺書ナルモノヲ治兵衛ニ交付スヘキ答ナク且ツ告訴人ハ金員ヲ渡シタリト偽言ヲ爲スモ事實渡シタルモノナレハ之ニ對スル領收證アルヘキコトハ論ヲ俟タサルモノナルニ原院ハ單ニ被告カ金員ヲ取シタルモノト判斷セラレタルハ違法ナリ又五百七十七圓四十八錢二厘被告カ治兵衛ニ辨濟スヘキ地所買受代金及利息ト相殺セシモノト判定セラレタレトモ該金額ヲ以テ治兵衛ヨリ買受タル地所ハ之レナシ然ルニ明治二十九年四月名古屋市伎町ニ於テ田六畝二十歩ヲ代金四百五十圓ニテ賣買約定ヲ爲シ當時内金一百圓ヲ渡シ同年十二月三日ニ殘金被告ヨリ治兵衛ニ渡シ前記約定書ニ更ニ該殘金ノ領收證ヲ書加ヘ翌十二月四日名古屋區裁判所ニ於テ登記ヲ受ケ速ニ請渡シ後ニ相成居ルモノナリ然ルニ原院カ地代金ト相殺シ及其殘額二圓五十一錢八厘等ヲ取シタルモノト判決セラレタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○以上ノ論旨ハ執レモ原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證憑ノ採擇ニ付没ニ非難ヲ試ミルニ過キス一モ適法上告ノ理由ト爲ラス

上告趣意擴張追加ノ第一點第二點ハ前掲上告擴張論旨第一點第四點第五點ヲ敷衍辯明スルニ過キサルヲ以テ更ニ説明ヲ與ヘス右各點ニ對スル説明ニ依テ了解スヘシ

辯護人高木益太郎カ上告辯明ノ要旨第一點ハ第一審判決ハ覺書變造行使ノ點ニ付法律理由ノ



明示テ欠キタル點アルニモ不拘其判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ理由ナシトシテ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在リタルニ對シテ第一審判決ノ不法ハ寧ロ被告ノ利益ト爲リタルモノナレハ之ニ對シ被告ヨリ控訴ヲ爲スヘキ理由ナリ即チ此點ハ被告ノ控訴ト關係ヲ存セサルカ故ニ原判決カ檢事ノ附帶控訴ニ基キ右第一審判決ヲ取消シタルニ拘ハラメ被告ノ控訴ヲ理由ナシトシ之ヲ棄却シタルハ相當ナリトス同第二點ハ第一審判決ハ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シタル後同第三百九十條第二項等ヲ適用シタルハ法律適用ノ順序ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリ故ニ原判決ハ之ヲ更正シナラカ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在リトモ○第一審判決ノ如ク刑法第三百九十條第二項ニ依リ同條第一項同第三百九十四條ト同法第二百十條第二項第二百十二條トヲ比較シ重キ第三百九十四條一項第三百九十四條ヲ當行云々ト疑律スルモ原判決ノ如ク各所爲ニ對シ相當ノ法條ヲ適用シタル後刑法第三百九十條第二項ニ依リ重キ詐欺取財ニ從ヒ處斷ス云々ト疑律スルモ其適用スヘキ法條ヲ適用シタルハ共ニ同一ニシテ唯其立言ノ順序ヲ異ニスルニ過キス故ニ本論旨モ亦相立タス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十一年二月二十二日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○偽證ノ件

明治三十一年第一二〇號  
明治三十一年二月二十二日宣告

○判決要旨

所屬官署ノ印ヲ押捺セサル證人訊問調書ハ無効ナリ

第一審 山形地方裁判所鶴岡支部 第二審 宮城控訴院

被告人 佐藤 右衛門 辯護人 高木益太郎

右偽證被告事件ニ付明治三十一年一月十五日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ旨ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

被告辯護人高木益太郎カ上告辯明ノ趣旨ハ證人佐藤 右衛門ノ訊問調書贋本ハ所屬官署ノ印ヲ押捺シアラサルヲ以テ無効ノ文書タルヲ免カレシ故ニ之ヲ有罪ノ心證ニ供シタル原判決ハ不法ナリト云フニ在リ○依テ記録ヲ查閱スルニ證人佐藤 右衛門訊問調書贋本ハ山形地方裁判所鶴岡支部檢事局ニ於テ裁判所書記押切正臣カ作成シタル旨記載アリテ同人ノ署名捺印アルモ其所屬官署ノ印ヲ押捺シアラサルカ故ニ右文ハ刑事訴訟法第二十條ニ依リ無効ノ書類ナリ然ルニ原院カ此無効ノ文書ヲ採テ證據ト爲シ以テ本案ヲ斷シタルハ上告論旨ノ如ク不法ノ裁判ナリトス既ニ此點ニ於テ原判決ハ全部ノ破毀ヲ免レサルヲ以テ他ノ上告論旨ニ對シ一々説明ヲ下スノ要ナシ

証印ナキ證人調書ノ効力



右ノ理山ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則リ原判決ヲ破毀シ更ニ審判マシムル爲メ  
本件ヲ東京控訴院ニ移送ス

明治三十一年二月二十二日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治三十一年第一五六號  
明治三十一年二月二十二日公告

○判決要旨

巡查ニシテ非現行犯ヲ現行犯ト思料シタル場合ニ於テ被告人ヲ逮捕告發シタルトキハ司法警察官ハ刑事訴訟法第五十九條第二項ノ法則ニ基キ逮捕告發ニ關スル調書ヲ作成スヘキモノニシテ而シテ其調書ハ證據力ヲ有ス

(參照) 巡查憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引渡ス可シ其被

告人ヲ受取タル司法警察官ハ逮捕及告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シ(刑事訴訟法第五十九條)

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 柴田正信

右竊盜被告事件ノ控訴ニ付明治三十一年一月二十二日大阪控訴院ニ於テ審理ノ末本件控訴ハ之ヲ棄却スト旨渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ相手方原院檢事長代理山下雄太郎ハ上告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判ニルコト左ノ如シ

上告ノ要旨第一點ハ本件ハ非現行犯ナルニ第一審判決ハ不法ニ成立シタル巡查ノ逮捕告發調書ヲ證據ニ採用セリ原判決ハ該調書ヲ排斥シタルモ右違法ナル第一審判決ヲ取消サス被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリ云フニ在レトモ○假ニ本件ヲ非現行犯ナイトスルモ巡查ニ於テ現行犯ト思料シ被告入ヲ逮捕シ告發ヲ爲ス上ハ司法警察官ハ刑事訴訟法第五十九條第二項ノ命スル處ニ從ヒ兎ニ角其逮捕告發ニ付テハ調書ヲ作成セサルヘカラス左レハ該調書ハ適法ニ成立シタルモノニシテ第一審判決カ之ヲ斷罪ハ資料ニ供シタルハ違法ニ非ス隨テ原判決被告ノ控訴ヲ理由ナシトシ之ヲ棄却シタルモ亦決シテ違法ニ非サルナリ同第三點ハ原判決第三ノ犯罪タル坂口猶次郎ニ係ル事實ハ「反物器類等合計百六十點ヲ竊取云々」ト説明セラレタルモ此點數ニ對スル證據ハ單ニ被告者ノ告訴狀アルノミ而カモ此告訴ノ過實ナルコトハ第一審以來被告ノ主張スル所ナルニ拘ハラズ輕々之ヲ採用セラレタルノミナラス其告訴狀ニハ百五十七點トアルヲ百六十點トシテ三點ヲ増加セラレタリ今試ミニ其重量ヲ通算スルニ實ニ五十貫ニモ達スヘシ此ノ如キ重量ノ物品ヲ竊取スルハ普通ノ條理ニ於テ到底爲シ得ヘキモノニ非スト云フニ在リテ○原審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス適法上告ノ理由ナシ同

非現行犯人ノ逮捕告發



第三點ハ原判決ハ三ヶノ犯罪ニ付單ニ數量ノミヲ記シ其價格ヲ明示セス價格ヲ明示セザレハ何ニ依テ加害ノ輕重ヲ斷シ得ヘキ乎原判決ハ即チ違法タルヲ免カレスト云フニ在レトモ○贓物ノ價格ハ犯罪構成ニ關係ナキモノナレハ判決中之ヲ明示スルヲ要スルモノニ非ス因テ本論旨モ亦相立タス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十一年二月二十二日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十一年第一六一號  
明治三十一年二月二十二日宣告

○判決要旨

文書偽造行使罪ハ其文書ヲ或ル目的ヲ達スル材料ニ供スルヲ以テ其罪ヲ構成スヘキモノニシテ必スシモ其文書ノ趣旨ニ基キテ行使スルヲ要セス

第一審 廣島地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 平谷喜太郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十一年一月二十四日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ二ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ノ第一ハ原院ニ於テ被告力住所氏名不洋者ヲシテ國原修一ノ印影ヲ偽造セシメタリト判示セラレタレトモ斯ル事實ハ一件記録中見ルヘキノ事跡ナシ然ルニ原院カ想像ヲ以テ事實ヲ確認セシハ不法ナリ又其偽造ノ日時ヲ明示セサルハ理由不備ナリト云ヒ其第二ハ原院刑預リ證書及定約書ノ偽造ニ付其日時ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○第一ノ前段ハ原院ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キマ其後段及ヒ第二ハ印章並ニ文書偽造罪ハ行使ニ依リ成立スルモノナレハ偽造ノ日時ヲ明示セサルモ不法ノ判決ト云フヲ得ス其第三ハ原院カ認メタル如ク定約證ハ金一千圓ノ預リ證書ノ眞實ヲ證明スル爲メ偽造シタルモノトセハ一千圓騙取ニ利用セシトキ始メテ刑法上ノ行使ト做スヲ得ヘキモ犯罪辯護ノ爲メ豫審廷ニ提出シタル方如キハ之ト同視スヘキモノニアラス然ルニ原院カ之ヲ以テ偽造行使ノ犯罪ナリト判定セシハ不當ナリト云フニ在レトモ○偽造文書ノ行使ハ文書自體ニ記載アル趣旨ニ基キテ行使セシハミニ制限セラルヘキモノニアラス苟モ或ル目的ヲ達センカ爲メ之ヲ行使セハ即チ犯罪ヲ構成スヘキモノナレハ右論旨モ亦相立タス其第四ハ原院ハ偽造證書ヲ沒收スルニ當リ刑法第四十三條第一項及ヒ第四十四條ノ全部ヲ適用セラレタレトモ其第四十四條ニハ前段ト後段トアリテ適用ノ場合ヲ異ニセリ然ルニ其區分ノ明示ナキハ法律ノ理由不備アルモ



ノナリト云フニ在レトキ○刑法第四十三條第一項ヲ適用シアルハ其前段タルコト知ルヘキナ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十一年二月二十二日大審院第一四事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治三十一年第一〇七五號  
明治三十一年二月二十四日宣告

○判決要旨

登記官吏ニ於テ其保存中ニ係ル登記名刺ニ貼用セシ印紙ヲ剝脱シタル所爲ハ  
官文書毀棄罪ヲ構成ス

第一審 長野地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 小澤慶太郎 辯護人 境 豊 吉

右慶太郎カ監守監被告事件ニ付明治三十年十月十八日名古屋控訴院ニ於テ大審院ノ移送ニ係  
ル長野地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴及ヒ原院檢事ノ付帶控訴ヲ審理シ原判決ハ

之ヲ取消ス被告慶太郎ヲ重懲役九年ニ處ス押収品ハ其所有者ニ還付スト言渡シタル判決ヲ不  
法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事長加納謙ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百  
八十三條ノ定 ヲ履行シ辯護士境豊吉ノ辯論立會檢事岩野新平ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左  
ノ如シ

上告要旨ノ第一點豫審及第一職以來證據トシテ引用セラレタル長野地方裁判所書記片山私美  
外三名カ爲シタル剝脱印紙取調書及ヒ再貼用印紙取調書ハ名古屋控訴院ノ判決ニハ採用スル  
處ナル然ルニ其事實ヲ記セル部分ニハ消印アル登記印紙二百拾六枚ト消印ナキ登記印紙九十  
三枚トノ剝脱アルヲ認メラル然ルニ原院カ此事實ヲ認メラレタルハ抑モ何ノ證據ニ因ラレタ  
ルモノナル歟若シ因由スル所ナクンハ所謂無證ノ斷定ニシテ法ノ許サ、ル所ナリ若シ片山和  
美外三名カ作リタル兩取調書ニ依リタルモノトセハ之ヲ判示セサルハ則理由ノ不備アル不法  
ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院ハ判文列記ノ證據ニ必證ヲ資リ事實ヲ認定シタルモノナ  
ルヲ以テ本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ニ對シ非難ヲ試ムルモ  
ノニ過キサルヲ以テ上告其理由ナシ同第二點前項兩種ノ剝脱印紙ノ枚數ハ消印シタルモノニ  
百拾六枚消印ナキモノ九拾三枚アリタルノ事實ヲ認メタルハ監督員數片山和美外三名カ爲シ  
タル兩取調書ニ依據シタルモノトセハ其書類タル刑事訴訟法第二十條ノ明文ニ背反セル無効  
ノモノナルヲ以テ已ニ證據トシタル根底ニ環環アルヲ免カレサレハ之ニ基キタル判決モ亦同  
一ノ癡癡アル失常ノ裁判ナリト云フニアレトモ○原判決ヲ査フルニ監督書記片山和美外三名



カ作リタル兩取調書ハ證憑列記中ニ記載シアラサレテ以テ罪證ニ供シタルモノニアラス因テ  
 原判決ハ瑕疵アルコトナシ同第三點前項ノ如ク二種ノ剝脱印紙二百十六枚ト九十三枚トアル  
 ナ認ムルニ根據トナシタル證憑アリトモ之ヲ明示セサルヘカラスアルニ原判決ニ其明示トキ  
 ハ即チ法則ヲ適用セサル不法アルモノナリト云フニアレトモ○原判決ニハ告發書松永啓三郎  
 ノ豫審調書以下數多ノ證據ヲ掲ケ事實ヲ認定シアルヲ以テ證憑ノ明示ヲ欠キタルコト云フ  
 ナ得ス同第四點消印アル登記印紙ヲ剝脱シタル事實ニ付テハ第一審裁判所ハ明治二十八年七  
 月頃ヨリ二十九年十月二十日迄ノ間ニ在リト認定シタルヲ原院ハ明治二十八年十月ヨリ二十  
 九年一月頃マテノ間ト認定セリ如斯事實ノ認定ヲ異ニスル已上ハ此點ニ於ケル理由ヲ明示セ  
 サレテ得ス然ルニ原院ノ判決茲ニ出テサレハ理由不備ノ失當アルモノナリト云ヒ同第五點ハ  
 消印アル登記印紙二百拾六枚ヲ剝脱シタルハ第一審裁判所ハ其剝脱ノ所爲ヲ施スニ連續ナル  
 所爲アルヲ認メス然ルニ原院ノ認定ハ之ニ反シ十數回ニ剝取り云々ト明揭シ事實ノ認定ヲ異  
 ニスル如斯以上ハ乃チ其理由ヲ示サレヘカラス云々ト云フニ在レトモ○原院ニ於テハ第一  
 審判決ヲ取消シ更ニ事實ヲ認定シタルモノナレハ其認定ヲ異ニシタル理由ノ如キハ之ヲ判示  
 スルニ要セス因テ第四第五公告論旨ハ共ニ其理由ナシ  
 第一回擴張ノ第一點登記名刺ニ貼用アリタル消印アル印紙ヲ剝取りタル行爲ハ以テ官文書毀  
 棄罪ヲ組成セス抑モ官文書毀棄ナル罪ハ物理上物質其物ノ毀滅スル度ニ達セスト雖トモ少ナ  
 グモ其文書ヲシテ効用ヲ失セシメサル可ラス然ルニ消印アル登記印紙ヲ剝取スルモ未タ之ヲ

登記名刺タルノ効用ヲ失セシモノニアラス何トナレハ印紙ヲ剝取スルモ文書ノ體用ニ於テ毫  
 モ缺クル所ナケレハナリ況ヤ本案官文書毀棄罪ヲ認メラレタル事實即チ有消印ノ名刺ニ在テ  
 ハ既ニ數年以前登記ヲ終了シ其書面効用ヲ遂完シタルモノナルニ於テハ果シテ然ラハ名刺  
 ノ効用ヲ喪亡セル一ノ空紙タルニ止マルノミ去レハ有消印ノ印紙剝取ハ寧ロ罰セサルノ行爲  
 ニシテ乃チ他ノ犯罪ニ於ケル事後ノ所爲ナラン論シテ茲ニ至ラハ原院カ有消印ノ登記印紙剝  
 脱ノ所爲ニ對シ官文書毀棄罪ヲ以テ論セラレタルハ不當ニ法律ヲ適用シタル不法アリト云フ  
 ニ在レトモ○登記名刺ニハ登記印紙ヲ貼用シテ登記所ニ差出スヘキモノナルヲ以テ登記官吏  
 ニ於テ其保存中ニ係ル登記名刺ニ貼用シ在ル印紙ヲ剝脱スルハ即チ官文書毀棄罪ヲ構成スルハ  
 勿論ナリトス故ニ被告カ登記所ニ保存シアル處ノ有消印ノ登記印紙ヲ剝取りタル行爲ヲ以テ  
 官文書毀棄罪ニ問擬シタル原院判決ハ違法ニ非ス同第二點前項ノ行爲ニシテ官文書毀棄罪ヲ  
 構成スルモノトセン乎本案ハ最初檢察ノ豫審ニ起訴シタルハ監守盜ノ一罪ナルニ豫審判事カ  
 監守盜ノ外刑法第二百五十條同第二百三條ニ該當スル所爲アリト決定シタルハ即チ起訴外ノ  
 事實ニ對シ決定ヲ與ヘタルモノナリ之ヲ換言セハ違法ニアラサレハ乃チ法律ノ見解ヲ誤リタ  
 ルモノトス要スルニ官文書毀棄罪ニ對シテハ檢察ノ起訴ナキモノナリ故ニ豫審ニ於テ官文書  
 毀棄ノ所爲ヲ認ムルニハ更ニ檢察ニ通知シ其起訴ヲ駁テ豫審ヲ遂ケサル可カラス然レモ監守  
 盜ト必須不離ノ關係アリテ當然隨伴シテ起ルヘキ不可分ノ事實ニ付官文書毀棄罪ヲ爲ス場合  
 アリトモハ或ハ監守盜ノ起訴ト共ニ官文書毀棄ノ公訴起ルコトナキヲ保セス然ルニ原院檢察



ノ控訴セラレタル官文書毀棄ノ事實ハ所謂監守盜ノ爲トハ別物ナリ故ニ官文書毀棄ノ點ニ對シテハ未タ豫審ヲ經サルモノナリ果シテ此點ニ對スル起訴ナリ且豫審ノ手續ヲ履ミタルモノニアラストセハ公訴受理スヘキモノニアラス即チ刑事訴訟法第二百六十九條第五號ノ前段ニ該當スヘキ不法アルモノナリ同第三點檢事ノ起訴アリタル監守盜ニシテ官文書毀棄ニアラス從テ豫審判事カ豫審ヲ送ケタルハ監守盜ニシテ官文書毀棄ニアラス然ルニ第一審ニ於テ檢事ハ官文書毀棄罪ヲモ論告セラレタリ以テ茲ニ公訴受理ス可カラサルノ申立アリテ豫審判事ハ刑法第二百五條第二百五條ヲ適用シテ決定シタルハ法律ノ見解ヲ異ニシタルモノトノ中間判決アリ而シテ後其結局判決ニ於テ監守盜罪ノミヲ以テ論斷セリ東京控訴院ニ於テモ亦同一ノ判決ヲ與ヘラレタリ又大審院カ採テ以テ審理セラレタル被告事件モ監守盜ニアルコトハ其判決書ノ冒頭ニ監守盜被告事件ト記載シアルニ依リ明カナリ果シテ然ラハ同院ヨリ名古屋控訴院ニ移サレタルモ亦監守盜ノミナルコト敢テ疑フ處ニ非ス隨テ名古屋控訴院カ發メラレタル公判ノ呼出狀ニ監守盜トアルニ徴シ照然タリ然ラハ原院檢事カ其消印アル印紙剝脱ノ行為ヲ以テ官文書毀棄罪ナリトナシ附帶控訴セラレタルハ即チ茲ニ新ニ官文書毀棄罪ニ付起訴セラレタルモノト謂ハサルヘカラス若シ然リトセハ其官文書毀棄罪タルヤ刑法第二百八十九條第二項ニ明記スル如ク監守盜ノ行為ニ因テ官文書毀棄罪ノ成立スル場合ナラサルヘカラス然ルニ檢事ノ附帶控訴セラレタルハ監守盜ノ事實ト不可分ノ事實ニアラスシテ別個孤立ノ所爲ニ基因セリ只有消印ノ印紙ヲ以テ無消印ノ印紙剝脱ノ犯罪ヲ蔽ハンカ爲メナリトハ原院カ

認メラレタル處ナリ左レハ無消印ノ印紙剝脱ノ行為タル有消印ノ印紙ヲ剝取リ無消印剝取ノ跡ニ貼用スルニ止リ毫モ監守盜罪ニ影響スル處ナシ之レ各罪單獨ニ孤立セル所以ニシテ刑法ノ所謂因テ官ノ文書ヲ毀棄シタルモノニアラサルコト明カナリ故ニ之レニ基カサル別箇ノ官文書毀棄罪アリトセハ豫審ノ手續ヲ履行セサル不法ヲ免レス若シ己ニ最初監守盜ト共ニ起訴アリタルモノトセハ今回ノ公判呼出狀ニ其官文書毀棄罪アルコトヲ示サハルヘカラス然ルニ監守盜ノミノ呼出狀ヲ以テセラレタルハ法則ヲ適用セサル不法アリト云フニ在レトモ●本件ハ登記請求書ヨリ提出セル登記名刺ニ貼用シ在ル處ノ無消印ノ登記印紙ヲ剝取リ之ヲ竊取シ其犯跡ヲ蔽ンカ爲メ會テ登記所ニ保存シアル所ノ登記名刺ニ貼用シ消印ヲ施シ在ル登記印紙ヲ剝取リ其幾部ヲ前陳竊取シタル登記印紙ノ跡ニ貼付シ置タル事實ナリトス而シテ第一審裁判所檢事ハ此事實ニ對シ監守盜ノ罪名ヲ付シテ起訴ヲ爲シ豫審判事ハ同事實ヲ以テ監守盜及官文書毀棄ノ二罪ナリト認メ終結決定ヲ爲シ第一審及ヒ東京控訴院ハ之ヲ監守盜ノ一罪ナリト判定シ名古屋控訴院檢事ハ該事實ハ即チ監守盜及官文書毀棄ノ二罪アリト認メ官文書毀棄罪ニ付付帶控訴ヲ爲シ同院モ亦右ノ二罪アリト認メ處斷シタルモノニシテ各審共事實ニ異同アルニアラス故ニ名古屋控訴院檢事カ本件ノ事實ハ即チ監守盜罪外官文書毀棄罪アリトシテ付帶控訴ヲ爲シタルハ事實ヲ増加シタルニアラサルヲ以テ違法ノ控訴ナリト云フヲ得ス隨テ原院カ前陳ノ如ク二罪トシテ判決シタルハ違法ニアラス同第四點倘第一點ノ所論タル印紙剝脱ノ所爲ハ以テ官文書毀棄罪ヲ組成スルモノトセン乎豈ニ消印ノ有無ニ因リテ之ニ適用スヘ



キ法條ヲ異ニセンヤ果シテ然ラハ原院カ認メテ以テ監守盜ナリト判定セラレタル點即チ消印  
 ナキ印紙ヲ剝脱シタル事實モ亦官文書毀棄罪ニ至擬セサルヲ得ス然レニ原院判決ハ二箇同一  
 ノ所爲ニ對シ被剝脱印紙ノ消印有無ニ依リテ二者其法律ノ適用ヲ異ニセラレタルハ則チ擬律  
 錯誤ノ不法アル裁判ナリト云フニ在レトモ○消印ナキ登記名刺ハ印紙ト不可分ノモノニアラ  
 サルヲ以テ其登記名刺ニ貼用シアル印紙ヲ剝取リ竊取シタル所爲ハ監守盜ヲ以テ開スヘク登  
 記所ノ保存ニ係ル登記名刺ニ貼用シアル消印ノ印紙ヲ剝取リタル所爲ハ不可分ノモノナルヲ  
 以テ官文書毀棄罪ヲ以テ開スヘキモノナリ故ニ原院カ右ノ二罪アリトシテ處斷シタルハ違法  
 ニアラス同第五點同第六點ハ前項第四點ノ論旨ヲ反覆陳辯シ原院判決ノ破毀棄ヲ要求スルニ過  
 キサルヲ以テ更ニ說明ヲ與ヘス同第七點無消印ノ登記印紙ヲ剝取リタルノ所爲ハ未ダ以テ監  
 守盜罪ニ構成セス何トナレハ監守盜ハ其明文ノ如ク官ノ監守中ノモノヲ竊取セサル可カラズ  
 然リ而シテ原院ノ認ムル處ハ消印スルモノ、如ク裝シ其實消印ヲ有サスシテ之ヲ受理シタル  
 モノナリ既ニ該書類タル未消印ノモノナレハ未ダ以テ人民ノ手裡ヲ離脱シタルモノニアラス  
 即チ人民尙ホ之ヲ處分スルノ自由ヲ失ハサルモノナリ果シテ然ラハ該書類ハ官ノ監守ニ專屬  
 セサル前ナリト謂ハサルヲ得ス假リニ一步ヲ譲リ監守中ニアリトスルモ元來消印スルモノ、  
 如ク裝ヒ消印セスシテ受理シタルモノナレハ此時ニ於テ已ニ詐欺取財罪ノ完成セルモノナリ  
 云々是故ニ原院カ監守盜ナリト認メラレタルハ其前既ニ詐欺取財罪ノ完成シタル看過シ其結  
 果ヲ見テ以テ監守盜ナリト判定セシモノニシテ即チ此點ニ於テ擬律ノ錯誤アリト云フニアレ

トモ○原院決ニハ上告人所論ノ如ク消印スルモノ、如ク裝ヒ其實消印ヲ爲サスシテ之ヲ受理  
 シ剝脱シタルモノナリトアリ此判示ニ依レハ登記名刺ニハ登記所ニ於テ消印スルモノ、如ク  
 裝ヒ受理シタルノ事實ヲ認メアレハ即チ官ノ文書ナルヲ以テ被告ニ監守ノ責任アルハ論ヲ俟  
 タス故ニ登記名刺ニ貼用シ在ル印紙ヲ剝取リタル所爲ハ監守盜ニシテ詐欺取財ナリト云フヲ  
 得ス因テ本論旨ハ上告違法ノ理由ナシ同第八點前項ト少シク觀察點ヲ異ニシ明治二十一年勅  
 令第六十六號登記印紙規則ニ依レハ登記印紙ハ登記法ノ定率ニ從ヒ登記請求ノ書面ニ貼用シ  
 請求人記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ影射トニカケテ消印スヘキモノナレハ登記  
 官ニ於テモ消印ナキ書面ヲ受理スルモ法律上有効ナル登記書面ヲ受理シタルモノト云フヲ得  
 ス去レハ該書面ニ貼用セル無消印ノ印紙ヲ剝取リタル事實アリトスルモ之ヲ以テ直チニ法  
 律上監守ノ責任アルモノト論斷スルヲ得ス然レニ原院カ無消印ノ儘ナル登記印紙ノ貼用シア  
 ル書面ヲ受理シタル事實ヲ認メナカラ其所爲ヲ監守盜ナリト判定シタルハ擬律ノ錯誤ナリト  
 云フニアレトモ○被告ニ監守ノ責アル理由ハ前項ノ說明ニ依リ了解スヘシ同第九點押モ登記  
 書類ヲ監守スヘキ責任ナルヲ其職權列事ニ屬シ裁判書記ハ其官職ニアラサルナリ故出張所書記  
 ハ何事ニ付テニ判事ノ代理權ヲ有スルモノニアラス換言セハ委任事項ノミ判事ノ代理ヲ爲ス  
 ヘキモノナリ然ラハ登記事項ニ在テハ判事ノ代理權アルモ書類ノ監守ハ委任ノ事項外ニ屬ス  
 ルモノトス然レニ原院カ此點ヲ以テ監守盜ニ間擬セラレタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レ  
 トモ○區裁判所出張所ノ書記ハ登記事務ニ關シハ惣テ區裁判所判事ノ代理ヲ爲スヘキモノナ



ルヲ以テ其代理權中ニ登記書類監守ノ包含シ居ルコトハ勿論ナルヲ以テ原院カ被告ニ監守盜罪アリト斷定シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ同第十點原院ノ認ムル處ニ據レハ有消印ノ印紙剝取リノ行為ハ無消印ノ印紙剝取リノ犯跡ヲ蔽ハシカ爲メナリト在リ若シ然ラハ此言ニ適應セサル印紙アルヲ如何セン即チ有消印ノ印紙中聲價二十五錢ノ印紙ヲ明揭セリ此二十五錢ナル印紙ハ證券印紙ニシテ現行ノ登記印紙ニアラス果シテ然ラハ現時使用ニ堪ヘサル印紙ヲ剝取リ現行ノ登記印紙ヲ剝取リタル犯跡ヲ蔽ハントスルモ得ヘカラザルハ所謂自家撞着ニアラサルナキ乎乃チ此點ニ於テ理由ノ齟齬セル不法アリト云フニ在レトモ要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニ過キサレテ以上告通法ノ理由ナシ同第十一點有消印ノ印紙二百十六枚無消印ノ印紙九十三枚ヲ剝取シアル事實ヲ認メタルハ長野地方裁判所監督書記片山和美外三名カ爲シタル剝脱印紙取調調書及ヒ再貼用印紙取調書ノ兩通ニ依據スル耶若クハ現時押收ノ證據物件タル名刺綴込帖及西條出張所ニ保存ノ各名刺綴込帳ノ全體ニ依ルニ在ラザルハ能ハサルノ事實ナリトス然ルニ右兩通ノ取調書ヲ證據外ニ除棄シテ採用セス又現時西條出張所保存ノ名刺綴込帳ヲ取寄セタルニモアラス而シテ兩種剝脱印紙ノ員數ヲ割出シタリトハ道理上不能ノ事ナリ然レトモ尙ホ兩通ノ取調書ヲ除キ押收ノ名刺綴込帳ノミニ基依シタリトナラハ此點ニ於テ理由齟齬ノ不法アルモノナリト云フニ在レトモ

○本論旨モ亦原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ批難スルモノニ外ナラザルヲ以テ上告通法ノ理由ナシ同第十二點前項兩種剝脱印紙ノ員數ヲ割出シ認定シタルハ若シ押收ノ綴

込帳ト其他當時西條出張所保管ノ名刺綴込帳トニ根據シタルモノトセハ西條出張所保管ノ名刺綴込帳ヲ被告ニ示シ辯解セシメサルハ則チ法則ヲ適用セザル不法アルモノナリ又此證據ヲ明示セザル不法アリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ニ依ルニ裁判長ハ證據調ヲ爲スヘシト告ク云々押收ノ名刺綴込帳ニ示シ云々ト明記シアリ又原判決ニモ押收書類中ノ名刺綴込帳云々ト判示シアレハ上告論旨ノ如キ違法アルコトナシ同第十三點判決書文ニ於テ言渡ス處ノ事項ハ其因テ來レル法條ヲ明示セザル可カラズ然ルニ原院判決ヲ閱スルニ其押收品ヲ處分スルニ當リ押收品ハ其所有者ニ還付ストアリテ何レヲ見ルモ如何ナル法條ヲ適用シテ處分セシヤチ知ルニ由ナシ之レ法則ヲ適用セザル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○押收品ノ還付ニ附テハ法條ヲ明示スヘシトノ規定ナキヲ以テ原判決ニ法條ノ明示ナキモ之ヲ違法ナリト云フヲ得ス第二回擴張書十四點第十五點第十六點第十八點ハ喋々論述シ在ルモ要スルニ第一回擴張書第七點ノ論旨ヲ反覆敷衍スルニ過キサレテ以テ重子ヲ説明チ與ヘス同第十七點ハ原院カ被告事件ヲ斷スルニ當リ片山和美外三名カ作りタル剝脱印紙取調書及ヒ再貼用印紙取調書ノ二通ヲ除去シテ斷罪ノ資料ニ供セス尙ホ其他十點ノ書類ニシテ告發ノ原因トナリ要素トナリタルモノモ一トシテ採用セラレズ然ルニ是等ノ結果ニ成レル告發書ハ之ヲ探テ斷罪ノ證ニ供セラレタリ是レ原因ヲ捨テ結果ヲ探レルモノト謂ハサルヲ得ス然リ而シテ結果ト原因ト共ニ消長スルハ理ノ當サニ然ルヘキ所ナリ果シテ然ラハ告發書ノ原因トナレル前記ニ通り取調書ハ刑事訴訟法第二十條第一項ノ明文ニ違背セル不法アリ已ニ原泉涸ル焉ノ末流ノ驢々タル



フンヤ云々然ラハ告發書ハ存在シテ證據力ナキコト勿論ナルニ原院カ採テ以テ斷罪ノ資料ニ充テラレタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本論旨ハ要スルニ證據ノ取捨ニ對シ論維テ試ムルニ外ナラサルヲ以テ上告通法ノ理由ナシ

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十一年二月二十四日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○強盜ノ件

明治三十一年第一一六號  
明治三十一年二月二十四日宣告

○判決要旨

賭博ノ器具ト雖トモ財物ナルヲ以テ之ヲ強取シタルトキハ強盜罪ヲ構成ス

第一審 東京地方裁判所 第二審東京控訴院

被告人 新井五郎 辯護人 〔兒玉一英 高木益太郎〕

右五郎カ強盜被告事件ニ付明治三十一年一月二十日東京控訴院ニ於テ東京地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ原判決ヲ取消ス被告五郎ヲ輕懲役六年ニ處ス云々ト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事長野村維章ハ答辯書ヲ差出サス因テ刑事訴訟

法第二百八十三條ノ定ニテ履行シ辯護士兒玉英一高木益太郎ノ辯論立會檢事岩野新平ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ要旨原判決ニ依ルトキハ博徒社會賭場開張ノ區域爭ニ原因シ被害者カ被告人ノ持場區域内ニ於テ擅ニ賭場ヲ開張スルヲ遺憾トシ其怒リヲ晴サンカ爲メ闖入シ押収シ來リタル財物ハ單ニ博具タルニ過キサルノ事實ヲ認メナカラ強盜ノ法條ヲ適用セラレタルハ事實及ヒ法律ノ理由顯顯スルモノト確信ス抑モ強盜罪ヲ組成スルニハ其意思目的カ有價ノ財物ヲ強取シ人ノ所有ヲ奪フテ不正ニ自己ノ所有ト爲スニアルコトハ多辯ヲ要セザルナリ然ルニ本件ノ如キハ其意思賭場ヲ妨害シテ相手ノ擅横ヲ責ムルニアリ且其差押ヘタル物件ハ單ニ賭具ニ止リテ他ノ有價財物ニアラサルノミナラス其之ヲ差押ヘタルハ自己ノ所有トスルノ惡意ニアラスシテ博徒社會ノ常法ニ依リ一時之ヲ差押ヘテ相手ノ非行ヲ論罪セシムルニ過キサルヲ以テ強盜ト其性質ヲ異ニスルヤ明カナリ然ルニ強盜罪ヲ以テ論セラレタルハ不法ノ判決ナリト思量スト云フニ在レトモ○賭博ハ器具ハ財物ニアラスト云フヲ得サルノミナラス原判決ニハ兇器ヲ携帶シテ暴行ヲ加ヘ賭具及金錢入錢箱ヲ強取シタルノ事實ハ明カニ認メアルヲ以テ其原因ハ博徒ノ繩張爭ヒニアリトスルモ強盜罪ノ構成ニ欠クル處ナキヲ以テ之ヲ強盜罪ニアラスト論争スルヲ得サルモノトス

兒玉辯護士ノ擴張論旨ハ前項ノ論旨ヲ反覆陳辯スルニ過キサルヲ以テ重テテ説明ヲ與ヘス  
高木辯護士ノ辯明要旨ノ第一點原院カ罪證ニ供セラレタル巡査ノ引致告發書ヲ見ルニ被告カ



住家ニ至リ門口ヨリ様子ヲ窺ヒタルニ外出スルニ出會セリ依テ衣類ノ出所衣類ハ勿論贓品ニ  
 アラスナ聞キ糾シタルニ言チ左右ニ構ヒ隠昧ナル答辯ヲ爲シタリ然レトモ一トシテ之ヲ證書  
 レ廉ナク次テ昨夜金錢ヲ強取シタルハ事實ナルヲ取調タルニ毫モ相違ナキ旨ヲ自白シテ記載  
 アリテ巡査兩名カ突然被告ノ住宅ニ臨ミ被告ニ對シ糾問シタルハ固ヨリ違法ノ措置ナレハ其  
 自白モ決シテ有効ノモノニアラス然ルニ原判決ハ此違法處分ノ結果成立シタル文書全部ヲ適  
 法ノモノトナシ罪證ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリ第二點巡査ノ引致告發書ノ記事ヲ視ルニ現  
 行犯又ハ準現行犯ト認ムヘキモノニアラスシテ純然タル非現行犯ナリトス而シテ刑事訴訟法  
 中非現行犯ニ付引致告發ヲ爲シ得ルノ規定ナキヲ以テ此場合ニ作成シタル引致告發書ハ有効  
 ノモノト云フヘカラス故ニ之ヲ罪證ニ供シタル原裁判ハ不法ナリト云フニ在レトモ○引致告  
 發書ハ巡査カ現行又ハ準現行犯人ヲ引致告發スルニ至リタルノ手續ヲ記載スヘキモノナリ而  
 シテ本件ノ告發書中被告人ヨリ聽取リタル事柄ヲ記載シアルモ個別ニ所謂引致ノ手續ヲ記  
 シタルモノニ外ナラサルヲ以テ該文書ヲ違法ナリト云フヲ得フ又本件ノ引致告發書ニハ巡査  
 水谷長之助外一名カ被告ノ不正行爲捜査ノ爲メ其住家ニ到リ門口ヨリ様子ヲ窺ヒ居リタルニ  
 被告ハ贓品ト認ムヘキ居株赤綿白淺黃縲綿ノ羽織ヲ着シ外出スルニ出會シ衣類ノ出所ヲ聞糺  
 シタルニ言チ左右ニ構ヘ明答セス次テ昨夜金錢ヲ強取シタルコトナキヲ取調タルニ相違ナ  
 キ旨ヲ自白シ且其贓品ハ現ニ被告人ノ家内ニ隠匿シアルコトヲ認メタルヨリ重罪ノ準現行犯  
 人ト思料シ引致告發シタル旨ヲ記載アリ此記載ニ依レハ被告ハ即チ準現行犯人ト認ムヘキモ

ノナルヲ以テ巡査カ引致告發ノ措置ヲ爲シタルハ正當ニ職務ヲ執行シタルモノナリ故ニ其引  
 致告發書ノ有効ナルハ勿論ナリトス因テ原院カ右ノ引致告發書ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル  
 ハ違法ニアラサルヲ以テ辯明第一第二論旨共總テ適法ノ理由ナシ  
 右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十一年二月二十四日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○強盜ノ件

明治三十一年第一六八號  
明治三十一年二月二十四日宣告

○判決要旨

犯罪人名票ニ刑事訴訟法ノ法則ニ基キ作成スヘキ文書ニアラス從テ同法第二  
 十條ノ手續ヲ履行スルヲ要セス

(參照) 官史公吏ノ作レヘキ書類ハ其所屬官署公署ノ印ヲ用ヒ年月日及場所ヲ記載シ  
 テ罪名捺印シ每葉ニ契印ス可シ若シ官署公署ノ印ヲ用スルコト能ハサル場合ニ於テ  
 ハ其事由ヲ記載スヘシ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ効ナカルヘシ(刑事訴訟法第  
 二十條第一項)

犯罪人名票ノ契印



被告人 安達兼太郎

有兼太郎ニ對スル竊盜被告事件ニ付明治三十一年一月二十日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意書第一第二點ハ被告カ警察署ニ於テ爲シタル自白ハ一時苦痛ヲ免カレンカ爲メ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルモノナルコトハ被害者ノ申立ニ符合セサル等ニ依ルモ眞事實ニアラサルコト明カナリ而シテ原院ハ記録中ナキ所ノ事實ヲ認メ被告ニ竊盜ノ罪アリト判決シタル不法ナリト云フニ在レトモ○原院カ認メタル事實ニ對スル證據ハ判文ニ明示スル所ナリ畢意本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ原因トナラス第三點ハ犯罪人名票ニハ官署及官吏ノ論ナク又契印ナキモノニシテ刑事訴訟法第二十條ノ手續ニ背キタル無効ノ書類ナリ然レニ原院カ其無効ノ書類ヲ證據トシテ採用セラレタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○犯罪人名票ハ如キモノハ刑事訴訟法ニ基キ作成スヘキ書類ニアラザルヲ以テ同法第二十條ハ手續ヲ履行スルハ必要トセス故ニ本論旨モ不成立以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告人之ヲ棄却ス

明治三十一年二月二十四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察官野新平立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十一年第一〇二號  
明治三十一年二月二十五日宣告

○判決要旨

他人ニ委任シテ告訴ヲ提起シタル成合ニ於テ其委任狀ノ添付ナキハ告訴ノ成立ニ關スル問題ニ屬シ告訴狀其物ノ證據力ニ付テハ何等ノ影響ヲ及スモノニ非ス

第一審 神戸地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 松島源七

辯護人 福原直道

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十一年十二月二十八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ規定ヲ履行シ審判スル左ノ如シ  
上告ノ趣旨ハ刑事ニ於テハ事實ノ認定證據ノ取捨ハ一ニ判事ノ自由ナル心證ニ依リ判決スルヲ得ルトハ言ヘ其間自ラ範圍アリ然レニ原院カ極メテ薄弱ナル證據ニ依リ判決ヲ與ヘラレタルハ被告ノ服セサル所ナリト云フニ在リテ○徒ラニ原院ノ職權ニ存スル證據ノ採擇事實ノ認定ニ對シ上服ヲ唱フルニ過キササルハ上告ノ理由トナラス

告訴狀ノ効力



辯護人福原直道カ擴張ノ要旨ハ原判決カ有罪ノ證據トシテ第一ニ採用シタルモノハ丹治榮太郎代理人榎谷政吉ノ被告源七ニ對スル告狀トアリ而シテ一件記録ヲ調査スルニ如何ニモ告狀ト題シタル書面ノ在ルアリ其書面ハ本件ニ於テ被害者ト認メラレタル丹治榮太郎ノ代理人ノ肩書ヲ以テ榎谷政吉ナルモノヨリ提出シタルモノト如シト雖モ該告狀ニハ右榮太郎ノ委任狀ノ添付アルコトナシ凡ソ代理ノ資格ヲ證明スルニハ必ス委任狀ヲカル可ラサルニ其無之ヲ以テ見レハ其榮太郎代理人ナリト自稱スル榎谷政吉ハ榮太郎ノ代理人ナリト謂フコトト得ス隨テ該告狀ハ法律上榮太郎ノ告狀ナリト謂フテ得サルモノナリ然ルニ原判決ニ於テハ榎谷政吉ナルモノヲ榮太郎ノ正當代理人ナルカ如ク認メ法律上無効ノ告狀ヲ以テ有効ナル證據トシテ採用シタルハ頗ル不法ノ判決ナリトスト云ノニ在レトモ○右告狀ニ丹治榮太郎ハ委任狀ノ添付ナキカ故ニ之ヲ榮太郎ノ告狀ナリト爲スコトヲ得ヘキヤ否ヤハ告狀成立上ハ問題ニ屬シ榎谷政吉カ差出シタル書面其物ヲ斷罪ハ資料ニ供スル上ニ付テハ何等ハ影響ヲ及ハサカレハ原院カ之ヲ採リテ本案ハ證據ニ供シタルハ決シテ不法ニアラス而シテ原判決證據明示ノ部ニ丹治榮太郎代理人榎谷政吉ノ被告源七ニ對スル告狀トアルハ只其書面ノ標目ヲ掲ケタルニ過キス本論旨モ理由ナシトス

右理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十一年二月二十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○官林盜伐官印盜用ノ件

明治三十一年第一三二號  
明治三十一年二月二十五日宣告

○判決要旨

豫審判事ノ檢證調書ニ附屬スル圖面ニ廳印ノ押捺ナキモノハ無効ノ文書ナリ

第一審 松山地方裁判所 第二審 廣島控訴院

公訴私訴上告人 高島浩二 辯護人 高木益太郎

私訴被上告人 長崎弘毅

右浩二カ官林盜伐官印盜用被告事件ノ控訴ニ付明治三十一年一月十四日廣島控訴院ニ於テ審理ノ末公訴ニ付テハ原判決ハ之ヲ取消ス被告高島浩二ヲ輕懲役六年ニ處ス云々ト言渡シ私訴ニ付テハ原判決ハ之ヲ取消ス被控訴人ハ金貳百四十圓三十八錢四厘ヲ連帶シテ控訴人ヘ賠償スヘシ云々ト言渡シタル判決ニ對シ被告浩二ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ公訴相手方原院檢事長代理妹澤政雄ハ上告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定メテ履行シ審判スルコト左ノ如シ

辯護人高木益太郎カ上告辯明ノ要旨第二點ハ一件記録ヲ調査スルニ檢證調書ト其附屬圖面トノ間ニハ契印ナク而シテ二枚ノ圖面ニハ所屬官署ノ押印ナク又押印スルコト能ハサル理由ノ

檢證調書附屬ノ圖面



付記ナシ故ニ無効ノ書類タルヲ免カレサルニ原判決カ檢證調書及ヒ其附屬圖面ト掲ケ之ヲ有罪ノ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在リ○因テ訴訟記録ヲ查閱スルニ豫審判事ハ檢證調書ニ附屬スル圖面ハ都合七枚アリテ其内ノ五枚ニハ捺印ヲ捺捺スル能ハサル理由ヲ附記シアルモ其最初ノ分ト最後ノ分トハ二枚ニハ捺印ハ捺捺ナク又捺捺スル能ハサル理由ハ附記ナシ故ニ此二枚ハ圖面ハ刑事訴訟法第二十條ニ依リ無効ニ歸スヘキモノナルニ原判決況カ附屬圖面ト掲ケ此分ヲ採リテ斷罪ハ資料ニ供シタルハ不法ニシテ本論旨ハ其理由アリ而シテ私訴判決ニハ公訴判決中ニ明示セル各證據ニ徴シ其實明確ナリ云々トアリテ同シク右不法無効ノ圖面ヲ證據ニ採用シタルノ瑕疵アルヲ以テ是レ亦破毀ヲ免カレサルモノトス已ニ此點ニ於テ破毀ノ理由ヲ認ムル上ハ他ノ論旨ニ對シ一々説明ヲ與フルノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則リ公訴私訴ノ原判決ヲ破毀シ本件ヲ大阪控訴院ニ移送シ更ニ適法ノ審判ヲ爲サシム

明治三十一年二月二十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○私印盜用等詐欺取財ノ件

明治三十一年第一二二一〇號  
明治三十一年二月二十八日宣告

○判決要旨

資格ヲ同フセサル當事者ニ對シ確定判決ノ効力ヲ及スコトヲ得ス

第一審 長野地方裁判所

第二審 東京控訴院

公訴上告人 高館啓次郎

公訴被上告人 坂田貞藏

辯護人 城 數馬

私訴上告人 中島新藏

訴訟代理人 岩岡伊代治

右啓次郎貞藏カ私印盜用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年十二月三日東京控訴院ニ於テ公訴ニ付テハ第一審判決ヲ取消被告兩名ヲ各重禁錮八月罰金拾圓監視六月ニ處シ私訴ニ付テハ却下ノ判決ヲ爲シタルニ對シ被告兩名並ニ民事原告人ヨリ上告ヲ爲シ被告辯護人城數馬モ亦上告ヲ爲シタルニ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定ニテ履行シ檢事安居修藏辯護士城數馬岩岡伊代治ノ辯明ヲ聽テ判決スルコト左ノ如シ

被告啓次郎ノ上告趣意第一ハ參考人ノ陳述信ヲ實ナリトシ私印盜用ノ罪アリトシ處罰シタルハ正當ナリト云ヒ第二ハ林兵衛ノ死亡ヲ奇貨トシ信作等カ惡意ヲ起シ被告ノ陷害シタル者ナルニ被告ニ對シ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不當ナリト云フニ在リテ○要スルニ點共ニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告適法ノ理由ヲシテ伸書ノ要旨ハ資格不同ノ當事者



本件ハ林兵衛カ生存中貞藏ニ賈渡シタル地所ヲ信ニ於テ不作正ニ之ヲ取戻サンカ爲メ虚偽ノ告訴ヲ爲シタル者ナルニ却テ被告ヲ以テ信託ト共謀シテ私印ヲ盗用シタルモノト斷定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ハ被告ト信作ト共謀者ト認定シタルニ非ラサルコトハ原判文ニ依リ明カニシテ要スルニ本論旨モ亦事實ノ認定ヲ論難スルニ外ナラス上告ハ其理由ナシニ成辯護士擬投論旨第一ハ被告等カ私印盗用ノ點ニ關シ起訴アリタルハ明治三十年六月十五日ニシテ其後豫審判事ハ證人ノ訊問ヲ爲シタルコトナシ然ルニ此私印盗用事件ニ付訊問シタルコトナキ證人山島信作ハ數名ノ豫審調書ヲ採リテ斷罪ノ料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○中島信作外數名ノ證人ハ被告兩名ニ對シ私書偽造詐欺取財ノ起訴アリタルニ依リ豫審判事ノ取調ヘタルモノナリ而シテ右私書偽造詐欺取財ノ事實ニハ私印盗用ノ事實モ自ラ包含セラルルモノナルヲ以テ右數名ノ證人ハ即チ私印盗用事件ノ證人ナレハ其豫審調書ヲ證據ト爲シタルハ違法ニ非ス○第二ハ原院公判始末書ニ依レハ本件ニ付檢事ノ控訴ハ私文書偽造行使ノ點ニ止マルモノナルニ原院カ私印盗用ノ事實ニ付判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニアレモ○既ニ私書偽造行使ニ付控訴アル以上ハ其文書ニ私印ヲ盗用シタル事實モ自カラ控訴ニ係ルモノナルヲ以テ原院ハ請求以外ノ事件ニ判決ヲ與ヘタルモノニ非ス○第三ハ原判決事實理由ノ前段ニハ被告兩名及信作三名共謀ノ上文書ヲ製造シタルモノト認定シ其後段ニ至リテハ被告兩名ノミニシテ私印ヲ盗用シ文書ヲ偽造シタルモノト認定セシハ理由ノ齟齬ナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ査閱スルニ被告兩名ハ信作ニ對シ林兵衛ノ實印ヲ竊カニ持來ル可シト

申勸メ其持來リタル實ニテ盜掠シ被告等ニ於テ本件ノ文書ヲ偽造シタルトノ事實ヲ認メタルモノナレハ毫モ事實理由ニ於テ齟齬スル所ナシ依テ上告ハ其理由ナシトス  
被告貞藏ハ上告申立テ爲シタルモ定期内ニ趣意書ヲ差出サレテ其上告ハ成立セス○被告兩名ノ辯護人城數馬ハ被告兩名ノ爲メ上告ヲ爲シタルモ辯護人ハ被告本人ニ代リ上告ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ既ニ被告本人ヨリ上告ヲ爲ストキハ辯護人ノ上告ハ成立スルコトヲ得ス依テ右辯護人ノ上告モ亦々成立セサルモノトス  
民事原告人訴訟代理人ノ上告趣意ハ原院ニ於テ本件ノ私訴ヲ一事刑理ナリトシテ棄却シタルモ長野地方裁判所ニ於ケル私訴當事者ト原院ニ於ケル當事者トハ資格同一ノモノニ非ス然ルニ同一ノ資格アルモノトシテ判決シタルハ違法ナリト云ヒ尙ホ擴張審判ヲ以テ同一ノ訴旨ヲ辯明シタリ其要旨ハ長野地方裁判所ノ判決ニ於テハ罪證不十分ト相續人タル資格ナシトノ二ヶノ理由ヲ以テ私訴ヲ却下セラレタル者ナリトセハ其判決タル一己人ノ中島信作ニ對シテノミ有効ナル者ニシテ其後ニ至リ林兵衛ノ相續人トナリタル上告人ニ對シテハ何等ノ効力ヲ及ホスヘキモノニアラス換言スレハ一己人ノ信作カ其訴訟ノ當事者タリシモノニシテ林兵衛ノ相續人タル上告人ハ當事者ニアラサルヲ明カナリ果シテ然ラハ長野地方裁判所ノ判決ト本件私訴トハ當事者資格ヲ異ニスルヲ以テ同一事件ト云フヲ得ス從テ確定判決ノ効果ヲ生スヘカラス然ルニ原院ハ同一事件トシ確定判決ヲ理由トシテ本訴ヲ却下シタルハ不法ナリト云フニ在リ  
○依テ、訴訟記録ヲ査閱スルニ、民事原告人信作ハ明治三十年八月十三日長野地方裁判所ハ判決



ヲ受ケタルモ其後月籍上中島林兵衛ハ相續人ト爲リタルヲ以テ新タニ本件ノ控訴ヲ起シテハ  
 ルモハナルコトハ原告人ヨリ原院ニ提出シタル所澤郡長ハ證明書及ヒ原院公判始末書ニ依リ  
 明カナリ然ラハ信作ハ前後其資格ヲ異ニスルモノニシテ長野地方裁判所ハ確定判決ハ効力ヲ  
 本件ニ及ホスコトヲ得ス然ルニ原院ハ信作ノ資格ニ付既ニ確定判決アリテ私訴權ハ消滅シタ  
 ルモノトシ本件私訴ヲ却下シタルハ法則ニ違背シタル判決ニシテ上告ハ其理由アリトス  
 右ノ理由ナルヲ以テ公訴上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却シ私訴上告ニ付テ  
 ハ同法第二百八十六條同第二百九十條ニ依リ原私訴判決ヲ破毀シ事件ヲ宮城控訴院民事部ニ  
 移ス

明治三十一年二月二十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○詐欺取財豫戒令違反ノ件

明治三十一年第六五號  
 明治三十一年二月二十八日宣告

○判決要旨

豫戒命令ニ定メタル期間内ニ適法ノ生業ニ就カサル爲メ豫戒令第二條第一號  
 ノ違反者トシテ處罰セラレタル以上ハ爾後適法ノ生業ニ就カサレハトテ再ヒ

處罰セラレヘキモノニ非ス

(參照) 一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メテ之ニ従事スヘキコトヲ命ス(豫戒令第二條第一號)

第一審 函館地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 袴田 徳藏

右詐欺取財豫戒令違反被告事件ニ付明治三十年十二月二十七日函館控訴院ニ於テ控訴棄却ヲ  
 首渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢事武田乙次郎ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ  
 刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨第一前段ハ被告ハ北海道廳長官原保太郎ヨリ豫戒命令ヲ受ケ二ヶ月ノ期間内  
 ニ適法ノ生業ニ就キザリシ故ヲ以テ明治二十九年七月十九日函館警察署ニ於テ科料金一圓九  
 十五錢ニ處セラレタルモノトス然ルニ原判決ニ於テ仍該命令ニ付該期間内ニ適法ノ生業ニ  
 就カス其所爲豫戒令第四條第一號ニ該ルモノトシ同一所爲ニ對シ重子テ裁判ヲ加ヘタルハ違  
 法ナリト云フニ在リ○依テ審案スルニ被告カ豫戒令違反ノ事實ハ明治二十九年五月七日北海  
 道廳長官原保太郎ヨリ同令第二條第一號乃至第三號ノ命令ヲ受ケ該命令ノ二ヶ月ノ期間内ニ  
 適法ノ生業ニ就カスト云フニ在リ然ルニ被告ハ既ニ明治二十九年七月十九日函館警察署ニ於



テ前記北海道廳長官ノ命令ニ指定シタル期間ニ適法ノ生業ニ就カサルノ廉ナ以テ豫戒命令第二條第一號ノ違犯ナリトシテ科料金一圓九十五錢ニ處セラレタルコトハ訴訟記録ニ徴シテ明カニシテ原判決モ亦認ムル所ナリ凡ソ豫戒命令第一號ノ違犯ハ豫戒命令ニ定ムル或ハ期間ニ適法ノ生業ニ就カサル不行爲ニ在レハ本件ニ就テハ北海道廳長官ノ命令シタル期間ノ經盡ニ因リテ罪ヲ構成シ既ニ警察署ニ於テ處罰ヲ受ケタルモノハナレハ其後尙ホ適法ノ生業ニ就カサルモ重子テ之ヲ處罰スルコトヲ得サルモノナルニ原院カ之ヲ處罰シタルハ違法ニシテ上告ハ其理由アリトシ第一後段ハ一年內再ヒ違警罪裁判所管轄內ニ於テ犯シタル事實ヲ明示セシテ刑法第九十三條ヲ適用シタルハ不法ノリト云フニ在レトモ○前段ニ於テ說明スル如ク豫戒命令違犯ニ付テハ無罪ヲ言渡スヘキ者トスル以上ハ本論旨ニ對シ說明スルノ要ナシ○第二ハ單ニ刑法第九十二條ヲ適用シ同第六十六條及第七十條第一項ヲ適用セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○加減例ノ如キ刑法ノ總則ハ之ヲ判文ニ掲擧セサルモ理由ノ不備ナリトセス○同第三ハ刑法第九十三條ニ依リ豫メ一等ヲ加重シ次ヲ數罪併發例ヲ適用シタルハ本刑ノ定マラサルニ加重シ之ニ依テ輕重ヲ定メタル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○第二第三ノ罪共ニ再犯ナルヲ以テ各刑法第九十二條ニ依リテ加重シ而シテ數罪併發例ニ依リ輕重ヲ比較シタルハ相當ノ疑律ニ本論旨ハ上告ノ理由ナシ○四ハ原判文證列記中長谷井榮作外六名ニ付證人ナルカ參考ナルカ之ヲ明示セサルハ犯證ノ明示ヲ欠キタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○其證人ナルカ參考人ルカハ訴訟記録ニ依リ明瞭ナルヲ以テ之ヲ明示セサルモ證據明示ヲ欠

キタル判決ナリトセス○第五ハ第二ノ所爲ニ付被告ノ利益ノ爲メ伊藤忠藏ヲ證人トシテ喚問ヲ求メタルニ之ヲ排斥シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證人喚問ノ請求ヲ許否スルハ原院ノ職權ニ在ルヲ以テ之ヲ聽許セザリシトテ違法ナリト云フヲ得ス○第六ハ第三ノ所爲ニ付金員ハ佐藤弟次郎ノモノニシテ長谷榮作ヨリ送付シタルモノニ非サルコトハ證人佐藤弟次郎同三上長吉ノ豫審調書ニ依リ明カナレハ假例榮作ニ於テ欺罔セラレタリトスルモ所有者タル弟次郎ニ於テ欺罔セラレタルコトナケレハ詐欺取財未遂犯ヲ成スヘキモノニ非サルニ有罪ノ處斷ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認定シタル事實ニ依リ榮作ハ被告ニ欺カレ佐藤弟次郎ヲシテ金五圓ヲ持參セシメタルモ遂ニ弟次郎ノ爲メ被告ノ虛構ヲ看破セラレ騙取ノ目的ヲ達セザリシモノナルコト明カニシテ即チ榮作ヨリ金圓ヲ騙取セントシテ遂ケ得サル事實ナレハ原院カ詐欺取財ノ未遂犯ナリトシテ處斷シタルハ相當ナリ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條同第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ判決スルコト左ノ如シ

右

袴田德藏

原判決ノ認定シタル事實ニ依リ被告カ明治二十九年五月七日北海道廳長官原保太郎ヨリ豫戒命令第二條第一號乃至第三號ノ命令ヲ受ケ同令違犯ノ所爲ニ付同年七月十八日函館警察署ニ於テ科料金一圓九十五錢ニ處セラレタルモ悔改セス仍該命令ニ付月間ニ適法ノ生業ニ就カザリ

豫戒命令ノ處罰



シ點ハ無罪トス第二所爲ハ刑法第三百九十條第一項第三百九十四條ニ該ルモ同第三百九十七條第一百十二條ニ依リ一等ヲ減シ尙第二第三ノ所爲共ニ刑法第九十二條ヲ適用シ數罪俱發ナルヲ以テ刑法第五條ニ依リ所犯情狀尤モ重キ第二ノ所爲ニ從ヒ重禁錮五月罰金五圓監禁六月ニ處ス他ハ原判ノ通リ

明治三十一年二月二十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○大審院刑事部裁判長及部員氏名表

第一刑事部

裁判長

部長 判事 原田種成

部員

判事 寬元忠  
判事 永井岩之丞  
判事 川目亨一  
判事 龜山貞義  
判事 伊藤佛治  
判事 十時三郎

本部ノ所管

大阪控訴院

名古屋控訴院

判事氏名表

宮城控訴院

廣島控訴院

本部ノ開廷

火曜日

金曜日

第二刑事部

裁判長

部長 判事 栗塚省吾

部員

判事 長谷川 喬  
判事 島田正章  
判事 昌谷千里  
判事 木下哲三郎  
判事 柳田直平  
判事 津村 董